授 業 計 画

平成 25 年度

Syllabus 2013

短期大学部 保育科第一部

専攻科保育専攻

保育科第一部

兵庫大学短期大学部の教育

兵庫大学短期大学部の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学短期大学部の３つの方針（ポリシー）について

アドミッションポリシー（AP）

入学者受け入れ方

兵庫大学短期大学部では、本学のディプロマポリシーを理解する、次の人を学生として受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己をふり返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー（CP）

教育課程編成方針

兵庫大学短期大学部では、ディプロマポリシーに示した「３つの力」を学生が身につけられるよう、次の教育プログラムを用意して、カリキュラムを編成します。

1. 短期大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける教育プログラム
2. 実践的専門家になるために必要な幅広い教養や十分な専門的知識・技術を習得し、また、それらを活用する力を身につける教育プログラム
3. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける教育プログラム

ディプロマポリシー（DP）

学位授与方針

兵庫大学短期大学部では、学生が「短期大学士」の学位を取得するにあたって、卒業時に次の力を備えていることを重視します。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や技術を、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学短期大学部　建学の精神・教育理念

兵 庫 大 学 短 期 大 学 部

アドミッションポリシー（AP）	カリキュラムポリシー（CP）	ディプロマポリシー（DP）

学　科

アドミッションポリシー（AP）	カリキュラムポリシー（CP）	ディプロマポリシー（DP）

みなさんは、

AP に基づいて入学し、

CP に沿って学び、

DP に定められた能力を身につけて卒業します。

保育科第一部・第三部ポリシー

アドミッションポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、本学科のディプロマポリシーを理解する、次の人を学生として受け入れます。

1. 保育・福祉に強い関心を持ち、自ら課題を見つけ積極的に学ぼうとする意欲のある人
2. 豊かな人間性を持った質の高い保育者になるために、主体的に自己成長を図ろうとする人
3. 多様な考えを理解しようとする柔軟性を持ち、保育者になるための努力を継続できる意欲のある人

カリキュラムポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、ディプロマポリシーに示した「３つの力」を学生が身につけられるよう、次の教育プログラムを用意して、カリキュラムを編成します。

1. 短期大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける教育プログラム
2. 保育者になるために必要な幅広い教養や十分な専門的知識・技術を習得し、また、それらを活用する力を身につける教育プログラム
3. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける教育プログラム

ディプロマポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、学生が「短期大学士（保育）」の学位を取得するにあたって、卒業時に次の力を備えていることを重視します。

1. 保育者としての使命感を持ち、保育をめぐる諸課題を自ら解決していこうとする力
2. 他の保育者と連携しながら、子ども・保護者・利用者に適切な支援を行う力
3. 保育の専門的知識・技術を持つとともに、卒業後も、社会状況の変化に対応しながら、保育者としての専門性をさらに高めていく力

「カリキュラムマップ」には

・「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

・各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

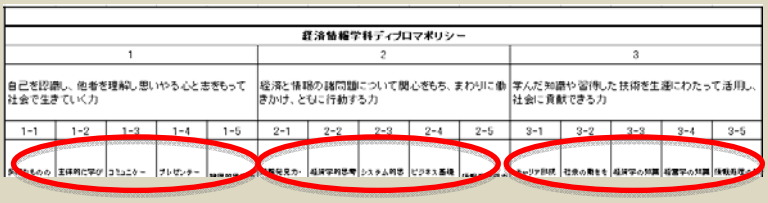
授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○								
		保育科ディプロマポリシー								
		1			2			3		
		保育者としての使命感を持ち、保育をめぐる諸課題を自ら解決していこうとする力			他の保育者と連携しながら、子ども・保護者・利用者に適切な支援を行う力			保育の専門的知識・技術を持つとともに、卒業後も、社会状況の変化に対応しながら、保育者としての専門性をさらに高めていく力		
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
		子どものありのままを受け入れる心	子どもを援助し、成長へと誘う使命感	保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力	子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力	子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力	自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力	子ども・保育に関する様々な専門的知識	保育の実践に関する専門的スキル	生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力
基礎科目	日本語（読解と表現）			○	◎					
	英語	◎			○					○
	コンピュータ演習			◎	○					○
教養科目	宗教と人生	◎	○				○			
	文学	○			◎					
	色彩学				◎					
	日本国憲法			◎				○		○
	ジェンダー論			◎		○		○		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）				○	◎				○
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				○	○	◎			
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				○	○	◎			
教育学科目	音楽教育Ａ				○			○	◎	
	音楽教育Ｂ				○			○	◎	
	音楽教育Ｃ				○			○	◎	
	音楽教育Ｄ				○			○	◎	
	器楽Ａ							○	◎	○
	器楽Ｂ							○	◎	○
	造形Ａ							○	◎	○
	造形Ｂ							○	◎	○
	幼児体育Ａ							○	◎	○
	幼児体育Ｂ							○	◎	○
	算数					○		○		◎
	生活概論					○		○	◎	
	子どもの保健ⅠＡ		○	○				◎	○	
	子どもの保健ⅠＢ		○	○				○	◎	
	子どもの保健Ⅱ		○	◎				○	○	
	子どもの食と栄養Ａ		○			○		◎	○	
	子どもの食と栄養Ｂ		○			○		○	◎	
	家庭支援論			○		◎		○		
	社会福祉			○		◎		○		
	相談援助	○			◎	○		○		
	児童家庭福祉			◎		○		○		
	教育原理		○	○						◎
	保育原理Ａ		◎			○		○		
	保育原理Ｂ	○		○				◎		
	社会的養護	○	○			○		◎		
	保育相談支援			○		○			◎	
	教育実習	○	○	○	○	○	○	○	◎	○
	保育実習Ⅰ（保育所）	○			◎	○				
	保育実習指導Ⅰ(保育所)		○				○	◎		
	保育実習Ⅰ(施設)	○			○				◎	
	保育実習指導Ⅰ（施設）			◎			○	○		
	保育実習Ⅱ					○			◎	○
	保育実習指導Ⅱ					○			◎	○
	保育実習Ⅲ		○			◎			○	
	保育実習指導Ⅲ			◎			○	○		
	保育の心理学Ⅰ		○	○				◎		
	保育の心理学Ⅱ			○		○		◎		
	教育心理学			○				◎		○
	児童心理学		○	○				◎		
	青年心理学		○			◎		○		
	臨床心理学	○				◎			○	○
	教育制度論			○				◎		○
	教師・保育者論		○				○			◎
	保育課程総論			○		○		◎		
	保育内容総論		◎	○				○	○	
	保育内容・健康		◎			○		○	○	
	保育内容・人間関係		◎		○			○	○	
	保育内容・環境		◎			○		○	○	
	保育内容・言葉		◎		○			○	○	
	保育内容・表現Ａ		◎					○	○	○
	保育内容・表現Ｂ		◎		○			○	○	
	保育方法論			○		◎			○	
	社会的養護内容	○			◎		○		○	
	乳児保育Ａ	○			◎			○		
	乳児保育Ｂ	○	◎		○			○		
	障害児保育Ａ	○	◎		○			○		
	障害児保育Ｂ		○			◎		○	○	
	教育相談	○		◎				○	○	
	保育・教職実践演習（幼稚園）	○	○	○	○	○	○	○	○	○

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには５つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは５つ以上記載されている科目もあります。



科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、 開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

科目名					
担当者氏名					
授業方法		単位		選択区分	開講年次
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-4 ビジネス 基礎力 ○ 3-1 キャリア 形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

《テキスト》

《参考図書》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ　（全角22文字）	学習内容など　（全角78文字）
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
15		

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15 回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

■平成 25、24 年度入学者■

Ⅰ　教育課程

授業科目の構成　（詳細は学則参照）

①基礎・教養科目　　②学科教育科目　　に大別される。

Ⅱ　卒業所要単位

保育科第一部においては、本学に 2 年以上（4 年以内）在学し、62 単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	62 単位以上
②学科教育科目	48 単位以上	

残り 8 単位は、 基礎・教養科目、学科教育科目のいずれで修得しても可。

＊詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の 3 科目の中から 2 科目 4 単位以上
		「宗教と人生」	2 単位
		選択科目	
②学科教育科目	48 単位以上	必修科目　　9 科目	15 単位
		選択科目	33 単位以上

Ⅲ　履修上の注意事項

ア．履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。

イ．保育科第一部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に 2 年以上（4 年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2 単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2 単位
	教養科目「日本国憲法」	2 単位
	教養科目「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」	2 単位
	別表Ａに示す最低単位数	

※　「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」の 4 科目は、「教育職員免許法」第 5 条別表第 1 備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第 66 条の 6 により、修得することが定められている。

※　詳細については別表Ａを参照し、履修のうえで注意すること。

※　幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 ※1	8 単位以上
	必修科目	58 単位
	選択必修科目	9 単位以上

※1　基礎・教養科目については、外国語 2 単位、体育に関する講義及び実技それぞれ 1 単位を含む 8 単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2 単位、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」2 単位、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」または「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」1 単位、計 5 単位を含む 8 単位以上の修得が必要である。

※　必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Ｂを参照し、履修等注意すること。

※　保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。

※　児童福祉法の改正（2003 年 11 月 29 日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。
指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業者は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。
なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

ウ．幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。

エ．免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。

オ．その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表Ａ　幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成 25、24 年度入学者】

区分	免許法施行規則に規定された科目名		保育科第一部で開設している授業科目名	開設単位数 必修	開設単位数 選択	最低修得単位数	
教科に関する科目	国語		日本語（読解と表現）		2	4	
	算数		算数		2		
	生活		生活概論		2		
	音楽		音楽教育Ａ	1			
			音楽教育Ｂ		◆1		
			器楽Ａ		◆1		
			器楽Ｂ		◆1		
	図画工作		造形Ａ	1			
			造形Ｂ		◆1		
	体育		幼児体育Ａ	1			
			幼児体育Ｂ		◆１		
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教師・保育者論	2		2	27
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		4	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教育心理学		◆2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育制度論		◆2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12	
		・保育内容の指導法	保育内容総論		◆1		
			保育内容・健康		◆2		
			保育内容・人間関係		◆2		
			保育内容・環境		◆2		
			保育内容・言葉		◆2		
			保育内容・表現Ａ		◆2		
			保育内容・表現Ｂ		◆2		
		・教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論		◆2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	児童心理学		◆2	2	
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談		◆2		
	教育実習		教育実習		◆5	5	
	教職実践演習		保育・教職実践演習（幼稚園）		◆2	2	
			合　計				31

（備考）

（ア）幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」（短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること）を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目 4 単位、教職に関する科目 27 単位、合計 31 単位を修得しなければならない。

（イ）上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほかに、別表Ａの「開設単位数」欄で◆印を付している科目のすべてを履修しなければならない。

（ウ）別表Ａに示す最低単位は、「教育職員免許法」第 5 条別表第１（1949 年 5 月 31 日法律第 147 号、最終改正 2003 年法律第 117 号）および「同法施行規則」第 5 条、第 6 条（1954 年 10 月 27 日文部省令第 26 号、最終改正 2002 年文科令第 3、31 号）に規定されている。

別表Ｂ　保育士資格取得に必要な単位

【平成 25、24 年度入学者】（必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示別表第１による教科目		指定単位数	保育科第一部で開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業形態	必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理Ａ	講義	2		全科目必修
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義		●2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		●1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		●2	
	保育者論	講義	2	教師・保育者論	講義	2		
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2		
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習		●1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健ⅠＡ	講義		●2	
				子どもの保健ⅠＢ	講義		●2	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習		●1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養Ａ	演習		●1	
				子どもの食と栄養Ｂ	演習		●1	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		●2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習		●1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容・健康	演習		●2	
				保育内容・人間関係	演習		●2	
				保育内容・環境	演習		●2	
				保育内容・言葉	演習		●2	
				保育内容・表現Ａ	演習		●2	
				保育内容・表現Ｂ	演習		●2	
	乳児保育	演習	2	乳児保育Ａ	演習		●1	
				乳児保育Ｂ	演習		●1	
	障害児保育	演習	2	障害児保育Ａ	演習		●1	
				障害児保育Ｂ	演習		●1	
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		●1	
	保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習		●1	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	音楽教育Ａ	演習	1		
				器楽Ａ	演習		●1	
				造形Ａ	演習	1		
				幼児体育Ａ	演習	1		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習		●4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習		●2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		●2	
合　計			51	合　計		58		

【平成 25、24 年度入学者】（選択必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示別表第２による教科目		指定単位数	保育科第一部で開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業形態	選択必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目			15単位以上開設	保育原理Ｂ	講義		2	6単位以上選択必修
保育の対象の理解に関する科目				児童心理学	講義		2	
				青年心理学	講義		2	
				臨床心理学	演習		2	
				教育相談	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目								
保育の表現技術	保育の表現技術	演習		音楽教育Ｂ	演習		1	
				音楽教育Ｃ	演習		1	
				音楽教育Ｄ	演習		1	
				器楽Ｂ	演習		1	
				造形Ｂ	演習		1	
				幼児体育Ｂ	演習		1	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		●2	2単位以上選択必修
				保育実習Ⅲ	実習		●2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		●1	1単位以上選択必修
				保育実習指導Ⅲ	演習		●1	
合　計（開設単位数）			18単位以上	合　計		22単位		9単位以上

（備考）

（ア）保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表Ｂの「開設単位数」欄で●印を付している科目のすべてを履修しなければならない。〔ただし、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」については（イ）参照〕

（イ）選択必修科目については、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」のうち２単位以上、「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」のうち１単位以上を含めて、９単位以上を最低修得することとなっている。「保育実習Ⅱ」（2 単位）と「保育実習指導Ⅱ」（1 単位）を履修するか、「保育実習Ⅲ」〈２単位〉と「保育実習指導Ⅲ」〈１単位〉を履修するかを選択し、それ以外に、最低 6 単位を選択履修しなければならない。

選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修指導時に説明する。

（ウ）別表Ｂに示す指定単位は、「児童福祉法施行規則第６条の２第１項第３号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」（2010 年 7 月 13 日厚生労働省告示第 278 号）に規定されている。

平成 25（2013）年度

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

保育科第一部　平成25年度（2013年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間) 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	備考	ページ
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2				☆	15
	英語	演習		2	◆	●	2				☆	16～18
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2				☆	19～20
教養科目	宗教と人生	講義	2				2					21
	文学	講義		2				2				22
	色彩学	講義		2			2					23
	日本国憲法	講義		2	◆			2				24
	ジェンダー論	講義		2			2					25
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		26
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●	②		②		☆☆	27～29
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②	☆☆	30～32

保育科第一部　平成24年度（2012年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間) 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	備考	ページ
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2				☆	
	英語	演習		2	◆	●	2				☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2				☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2					
	文学	講義		2				2				
	色彩学	講義		2			2					
	日本国憲法	講義		2	◆			2				
	ジェンダー論	講義		2			2					
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		26
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●	②		②		☆☆	27～29
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②	☆☆	30～32

（注意）

◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。
※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。
※備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者氏名	安井　重雄、小林　強、吉田　唯				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》
大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《授業の到達目標》
漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現を身につける。それによって、コミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》
授業時に複数回実施する小テスト（30%）と期末試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》
授業時に、指示する。

《授業時間外学習》
当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《備考》
毎回、設問を解くので、国語辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	音読み・訓読みにおける、同じ発音の漢字の熟語を書き分ける。
3	四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある（ない）などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞、副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語Ⅰ・Ⅱ、丁寧語、美化語という敬語の５分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

科目名	英語				
担当者氏名	小泉　毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
リスニングの基礎からそう復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《授業の到達目標》
英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて→話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《成績評価の方法》
英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。期末テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）。

《テキスト》
プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy　English〕（長崎出版）

《参考図書》
NHKラジオの「新基礎英語Ⅰ」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業時間外学習》
毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までする。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《備考》
1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会うありがとう	小テスト、会話（挨拶）、P honics（A lphabet）英検５級リスニングテスト
3	場所を聞くいつ練習するの？	小テスト、会話、P honics（A lphabet）英検５級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、P honics（子音）①英検４級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、P honics（子音）②英検４級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、P honics（母音）①英検３級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、P honics（母音）②英検３級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、P honicsを使った読解練習①　英検５級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、P honicsを使った読解練習②　英検５級（全体）
10	～しましょうか？～しませんか？	小テスト、会話、P honics（s ilent　E）①　英検４級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、P honics（s ilent　E）②　英検３級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、P honics（p olite　v owels）①　英検準２級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、P honics（p olite　v owels）②　英検５、４級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、P honics総復習①　英検３級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、P honics総復習②　英検準２級総復習

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しくて、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》
国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》
成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》
各自、教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入し、授業には毎回必ず持って来て下さい。

《参考図書》
毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》
宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャッツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction &Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話し
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画がすきですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	Telephone Language	電話の言葉
15	まとめor自己評価	まとめor自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本　幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテクストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テクストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》
日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）

《テキスト》
『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考図書》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テクストを精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1　Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2　Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3　Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4　At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5　In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6　In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7　Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8　Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9　Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10　Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11　At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12　Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13　Internet Shopping	インターネットに関連するる日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14　At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15　At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》
○パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
○目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
○ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》
○実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。

《テキスト》
○毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
○配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》
○矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社.
○情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2012)『インターネット社会を生きるための情報倫理 2012』実教出版.
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》
この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で生かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。
とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》
学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。
また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／授業前アンケートの実施
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト／文書作成のまとめ課題
8	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
9	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用／データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4)／まとめ	相互評価の結果の集計／授業全体のふり返り

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	佐竹　邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれら使いこなしていくための基礎的知識を身につけられる。メールやインターネット、各種ソフトウェアの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

(1)平常点（25%）
(2)提出課題（75%）

《テキスト》

・「学生のためのOffice2010&情報モラル」, noa出版

《参考図書》

・学生に役立つ Microsoft Excel 2010 基礎, FOM出版
・学生に役立つ Microsoft Excel 2010 応用, FOM出版
・学生に役立つ Microsoft Word 2010 基礎, FOM出版
・学生に役立つ Microsoft Word 2010 応用, FOM出版
・学生に役立つ Microsoft PowerPoint 2010 基礎, FOM出版

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回の授業範囲のテキストを読むこと。分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。
(2)復習の方法：授業範囲のテキスト・配布プリントを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。

《備考》

(1)欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。
(2)質問等はオフィスアワーなどに来ること。授業時間直前の質問は授業開始の遅れとなるためできるだけ控えて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業概要の説明、学内情報システムに関する理解 実習室ログオンアカウントの確認、パスワード管理方法の理解
2	Windowsの基礎 Webメール（１）	Windowsの基本操作、e-learningシステムへの登録 Webメールの送受信、署名の設定、連絡先機能の利用
3	Webメール（２）	ファイルの添付、携帯電話版Webメールの利用 メールに関するマナー
4	インターネット上の情報検索(1)	検索サイトの利用、論理式を使った検索、検索オプションの活用 情報の信頼性の検証方法
5	インターネット上の情報検索(2)	情報モラル、著作権・肖像権の理解 個人情報保護の理解
6	ワープロソフトの基礎(1)	文字書式設定、段落書式設定（インデント、タブ） 表の作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入
7	ワープロソフトの基礎(2)	前回学習範囲の演習課題
8	表計算ソフトの基礎(1)	画面説明、四則演算、SUM関数、AVERAGE関数、IF関数 相対参照・絶対参照・複合参照
9	表計算ソフトの基礎(2)	COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数 セル書式の設定、罫線設定、グラフ作成、並べ替え
10	表計算ソフトの基礎(3)	前回・前々回学習範囲の演習課題
11	プレゼンテーションソフトの基礎(1)	画面説明、スライドデザインの設定、文字入力 ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入
12	プレゼンテーションソフトの基礎(2)	画面切り替え効果、アニメーション、スライドショー、色・動きの統一感 今回・前回学習範囲の演習課題
13	レポート作成のためのPC活用	表紙作成、ページ設定、ページ番号設定、Excelの表・グラフの挿入
14	総合課題(1)	これまでのまとめとなる課題を行なう。
15	総合課題(2)	これまでのまとめとなる課題を行なう。

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多　彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》
この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》
われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約20%
定期テスト　約50%
この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要　など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の類型	分布や性格によって分けられる宗教の類型を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る①	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る②	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る①	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

科目名	文学				
担当者氏名	安井　重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまの世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《授業の到達目標》

さまざまの文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点（30%）、及び、期末試験（70%）によって評価する。

《テキスト》

毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島　成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》
私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどの様な影響を与えるのか解説する。

《授業の到達目標》
色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《成績評価の方法》
小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》
『生活と色彩』(朝倉書店)

《授業時間外学習》
「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の２種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどの様な色か注意して見ておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(１)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(２)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どの様な色調がどの様なイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故その様な現象が起こるのか考える。
9	配色調和(１)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(２)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどの様につくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田　哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《授業の到達目標》
1.「憲法(国家の基本法)とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2.日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3.日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《成績評価の方法》
第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《テキスト》
『改訂現代の法学ー法学・憲法ー』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》
『憲法学教室全訂第２版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法第４版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業時間外学習》
授業中、その都度、指示する。

《備考》
法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	①前文の「平和主義」関係部分、第９条の内容について説明することができる。②第９条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、近代私法の３原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	①「法の下の平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原　惠子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

（1）ジェンダーについて社会学的に語ることができるようにな る。
（2）日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
（3）講義のなかから.分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

○毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
○「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《テキスト》

『女性のデータブック　第４版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか（1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか（2)	男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか（3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ①	（適宜、学習内容を提示します）
7	女の時間／男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間／男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ②	（適宜、学習内容を提示します）
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー（1)	メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ③	（適宜、学習内容を提示します）
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)				
担当者氏名	井上　靖				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力				

《授業の概要》
各ライフステージにおける運動およびスポーツと健康生活との関係について理解を深め、豊かな人生につながる健康的なライフスタイルについて考える。

《授業の到達目標》
豊かな人生と健康的なライフスタイルとの関係について理解し、自己実現に必要なライフスキルの向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》
・期末試験70%、受講態度30%とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。プリントを随時配布する。

《参考図書》
『からだことば』立川昭二　早川書房『健康と文明の人類史』マーク・N・コーエン　中本藤茂／戸沢由美子訳　人文書院『目で見る動きの解剖学』金子公宏　大修館書店『入門生理学』勝田　茂　杏林書院『スポーツ社会学』亀田佳明　世界思想社

《授業時間外学習》
授業中に紹介する図書を読み、講義内容の理解を深める。

《備考》
授業開始以降の出席(遅刻)は欠席扱いとする。ただし受講はできる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講上の注意事項等
2	高齢化社会の健康問題	各ライフステージの健康課題について理解を深める。
3	ライフスタイルと健康問題	生活習慣病について学び健康的なライフスタイルに結びつける。
4	生涯スポーツのビジョン	文明の進歩と健康問題との関係を学び、生涯スポーツの必要性について考える。
5	日本の近代化と身体	明治時代から現代まで、教育は身体をどのように捉えてきたかを学び、健康問題を考える。
6	からだことば	からだことばに現れる世代間の身体意識について学び、身体感覚について考える。
7	生体輸送のメカニズム	基礎知識を学び健康管理に結びつける。
8	運動発現のメカニズム	運動の学習および運動技術の習得に活かすことができる。
9	神経・筋パワーのメカニズム	運動の学習および運動技術の習得に活かすことができる。
10	神経・筋パワーのメカニズム	筋力・筋の作用と運動について理解し、自分の体力に合った運動プログラムを作成する。
11	スポーツ医学	スポーツ医学とスポーツトレーニング
12	スポーツ科学の最前線	映像によりスポーツ科学によるトップアスリートの解明を紹介。
13	幼児の運動実践例	保育所の取り組みを紹介し、幼児の運動教育について考える。
14	スポーツを創造する人間	厳しい自然をスポーツとして楽しむステージに変える人間について考える。
15	まとめ	テスト

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者氏名	井上　靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》
スポーツの実践を通してコミュニケーション力および自己のライフステージや心身の状態に適した健康的なライフスタイルを形成する力を身につける。

《テキスト》
テキストは使用しない。

《参考図書》
『スポーツスキルの科学』宮下充正　大修館
『からだロジー入門』宮下充正　大修館
『スポーツ上達の科学』八木一正　大河出版

《授業の到達目標》
テニスの基礎技術の修得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができる。

《授業時間外学習》
・授業で紹介するストレッチを週３日程度実践し、翌週に臨むよう心掛けてほしい。

《成績評価の方法》
・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《備考》
・医者から運動制限を指示されている場合は事前に申し出てください。
・技術習得状況によって内容を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・受講上の注意事項　・種目選択
2	ボレーの技術	・ボレーの技術要素および要領
3	ボレーの技術および球出し	・球出しの要領を学び２人でボレーの練習ができるようになる。
4	ボレーの技術および球出し	・２人のボレー練習
5	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・２人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
6	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・２人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
7	サーブとレシーブ	・サーブとレシーブの要領
8	ミニゲーム	・ミニコートでのゲーム
9	ゲーム	・ゲーム（ダブルス ）の進め方 ・２人の基本的な動き
10	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
11	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
12	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
13	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
14	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
15	まとめ	技術の自己および他者評価を通して技術課題を把握する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者氏名	井上　眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》
スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》
動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。
①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明
2	ウォーミングアップ	リズムにのって動きになれる・フォークダンス
3	スタートの体操	基本的な動きをリズミカルにバランスよく行う動く
4	全身の強化	Running・エクササイズ・エアロビック体操
5	背腹の強化	背と腹を中心に動く・フォークダンス
6	柔軟性を高める	ストレッチング・フォークダンス
7	パワーアップ	変化に富んだ動きをリズミカルに正しく行う・フォークダンス
8	クーリングダウン	リラックスをする動き
9	体力をつける	①～ ⑧Repeat・フォークダンス
10	柔軟性を高める	①～ ⑧Repeat・フォークダンス
11	腹筋力を高める	①～ ⑧Repeat・フォークダンス
12	背筋力を高める	①～ ⑧Repeat・フォークダンス
13	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
14	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
15	作品の発表会	グループ別に発表をし評価する

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者氏名	宮川　和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》
スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》
授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》
『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《授業時間外学習》
毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べることを指示する。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明を理解する。
2	パス、アタック	オーバーハンド、アンダーハンド、アタックを体得する。
3	アタック、サーブ	アタック、サーブを体得する。
4	アタック、サーブ、レシーブ	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブを体得する。
5	アタック、サーブ、フォーメーション	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーションを体得する。
6	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①　試. などの進め方を体得する。
7	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②　試. などの進め方を体得する。
8	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③　試. などの進め方を体得する。
9	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④　試. などの進め方を体得する。
10	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤　試. などの進め方を体得する。
11	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥　試. などの進め方を体得する。
12	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦　試. などの進め方を体得する。
13	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧　試. などの進め方を体得する。
14	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨　試. などの進め方を体得する。
15	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑩　試. などの進め方を体得する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者氏名	井上　靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》
スポーツの実践を通してコミュニケーション力および自己のライフステージや心身の状態に適した健康的なライフスタイルを形成する力を身につける。

《授業の到達目標》
テニスの基礎技術の修得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができる。

《成績評価の方法》
・技術点５０％、取り組む姿勢５０％とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。

《参考図書》
「スポーツスキルの科学」宮下充正　大修館
「からだロジー入門」宮下充正　大修館
「スポーツ上達の科学」八木一正　大河出版

《授業時間外学習》
・授業で紹介するストレッチを週３日程度実践し、翌週に臨むよう心掛けてほしい。

《備考》
・医者から運動制限を指示されている場合は事前に申し出てください。
・技術習得状況によって内容を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・受講上の注意事項　・種目選択
2	ボレーの技術	・ボレーの技術要素および要領
3	ボレーの技術および球出し	・球出しの要領を学び２人でボレーの練習ができるようになる。
4	ボレーの技術および球出し	・２人のボレー練習
5	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・２人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
6	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・２人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
7	サーブとレシーブ	・サーブとレシーブの要領
8	ミニゲーム	・ミニコートでのゲーム
9	ゲーム	・ゲーム（ダブルス ）の進め方 ・２人の基本的な動き
10	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
11	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
12	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
13	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
14	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
15	まとめ	技術の自己および他者評価を通して技術課題を把握する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者氏名	井上　眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》
スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》
動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明
2	ウォーミングアップ	リズムにのって動きになれる・フォークダンス
3	スタートの体操	基本的な動きをリズミカルにバランスよく行う動く
4	全身の強化	Running・エクササイズ・エアロビック体操
5	背腹の強化	背と腹を中心に動く・フォークダンス
6	柔軟性を高める	ストレッチング・フォークダンス
7	パワーアップ	変化に富んだ動きをリズミカルに正しく行う・フォークダンス
8	クーリングダウン	リラックスをする動き
9	体力をつける	①～⑧Repeat・フォークダンス
10	柔軟性を高める	①～⑧Repeat・フォークダンス
11	腹筋力を高める	①～⑧Repeat・フォークダンス
12	背筋力を高める	①～⑧Repeat・フォークダンス
13	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
14	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
15	作品の発表会	グループ別に発表をし評価する

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者氏名	宮川　和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》
スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》
授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》
『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《授業時間外学習》
毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べることを指示する。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明を理解する。
2	パス、アタック	オーバーハンド、アンダーハンド、アタックを体得する。
3	アタック、サーブ	アタック、サーブを体得する。
4	アタック、サーブ、レシーブ	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブを体得する。
5	アタック、サーブ、フォーメーション	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーションを体得する。
6	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①　試合などの進め方を体得する。
7	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②　試合などの進め方を体得する。
8	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③　試合などの進め方を体得する。
9	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④　試合などの進め方を体得する。
10	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤　試合などの進め方を体得する。
11	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥　試合などの進め方を体得する。
12	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦　試合などの進め方を体得する。
13	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧　試合などの進め方を体得する。
14	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨　試合などの進め方を体得する。
15	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑩　試合などの進め方を体得する。

平成 25（2013）年度入学者

学科教育科目

平成25年度（2013年度）　学年暦〔Ⅰ期〕

保育科第一部1年生

25年	日		月			火			水			木			金			土		
4月			1			2			3		入学式	4			5			6		
	7		8	①	Ⅰ期授業開始	9	①		10	①		11	①		12	①		13		
	14		15	②		16	②		17	②		18	②		19	②		20		
	21		22	③		23	③		24	③		25	③		26	③		27		
	28		29		昭和の日	30	④	月曜日科目授業日	1	④		2	④		3		憲法記念日	4		みどりの日
5月	5	こどもの日	6		振替休日	7	④		8	⑤		9	⑤		10	④		11		
	12		13	⑤		14	⑤		15	⑥		16	⑥		17	⑤		18		
	19		20	⑥		21	⑥		22	⑦		23	⑦		24	⑥		25		
	26		27	⑦		28	⑦		29	⑧		30	⑧		31	⑦		1		
6月	2		3	⑧		4	⑧		5	⑨		6	⑨		7	⑧		8		
	9		10		創立記念日	11	⑨		12	⑩		13	⑩		14	⑨		15		
	16	オープンキャンパス	17	⑨		18	⑩		19	⑪		20	⑪		21	⑩		22		
	23		24	⑩		25	⑪		26	⑫		27	⑫		28	⑪		29		
7月	30		1	⑪		2	⑫		3	⑬		4	⑬		5	⑫		6		
	7		8	⑫		9	⑬		10	⑭		11	⑭		12	⑬		13		
	14		15		海の日	16	⑭		17	⑮		18	⑮		19	⑭		20		オープンキャンパス
	21	オープンキャンパス	22	⑬		23	⑮		24	⑭	月曜日科目授業日	25		補講日	26	⑮		27		
	28		29	⑮		30		予備日	31		補講日	1		補講日	2		補講日	3		オープンキャンパス
8月	4	オープンキャンパス	5		補講日	6		補講日	7			8			9			10		
	11		12			13			14			15			16			17		
	18		19			20			21			22			23			24		オープンキャンパス
	25	オープンキャンパス	26			27			28			29			30			31		
9月	1		2			3			4			5			6			7		
	8	オープンキャンパス	9			10			11			12			13			14		

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成25年度（2013年度）　学年暦　〔Ⅱ期〕

保育科第一部1年生

25年	日		月			火			水			木			金			土		
9月	8	オープンキャンパス	9			10			11			12			13	①		14	①	月曜日科目授業日
	15		16		敬老の日	17	①		18	①		19	①		20	②		21		
	22		23		秋分の日	24	②		25	②		26	②		27	③		28		
	29		30		保育所見学観察実習	1		保育所見学観察実習	2		保育所見学観察実習	3		保育所見学観察実習	4		保育所見学観察実習	5		保育所見学観察実習
10月	6		7		保育所見学観察実習	8		保育所見学観察実習	9		保育所見学観察実習	10		保育所見学観察実習	11		保育所見学観察実習	12		保育所見学観察実習
	13		14		体育の日	15	③		16	③		17	③		18	④		19	②	月曜日科目授業日
	20		21	③		22	④		23	④		24	④		25	⑤		26	⑤	火曜日科目授業日
	27		28	④		29	⑥		30	⑤		31	⑤		1	⑥		2		
11月	3	文化の日	4		振替休日	5	⑤	月曜日科目授業日	6	⑥		7	⑥		8		大学祭準備	9		大学祭
	10	大学祭	11		幼稚園見学観察実習 大学祭後片付け	12		幼稚園見学観察実習	13		幼稚園見学観察実習	14		幼稚園見学観察実習	15		幼稚園見学観察実習	16		幼稚園見学観察実習
	17		18	⑥		19	⑦		20	⑦		21	⑦		22	⑦		23		勤労感謝の日
	24		25	⑦		26	⑧		27	⑧		28	⑧		29	⑧		30		
12月	1		2	⑧		3	⑨		4	⑨		5	⑨		6	⑨		7		
	8		9	⑨		10	⑩		11	⑩		12	⑩		13	⑩		14	⑪	金曜日科目授業日
	15		16	⑩		17	⑪		18	⑪		19	⑪		20	⑫		21		
	22		23		天皇誕生日	24	⑫		25	⑪	月曜日科目授業日	26	⑫		27			28		
	29		30			31			1		元旦	2			3			4		
26年 1月	5		6	⑫		7	⑬		8	⑫		9	⑬		10	⑬		11		補講日
	12		13		成人の日	14	⑭		15	⑬		16	⑭		17		センター試験準備	18		センター試験
	19	センター試験	20	⑬		21	⑮		22	⑭		23	⑭	月曜日科目授業日	24	⑭		25		
	26		27	⑮		28		予備日	29	⑮		30	⑮		31	⑮		1		
2月	2		3		施設観察参加実習	4		施設観察参加実習	5		施設観察参加実習	6		施設観察参加実習	7		施設観察参加実習	8		施設観察参加実習
	9		10		施設観察参加実習	11		建国記念の日	12		施設観察参加実習	13		施設観察参加実習	14		施設観察参加実習	15		施設観察参加実習
	16		17			18			19			20			21			22		
	23		24		施設観察参加実習 （～3/29）	25			26			27			28			1		
3月	2		3			4			5			6			7			8		
	9		10			11			12			13			14			15		
	16		17			18			19			20			21		春分の日	22		
	23	卒業式	24			25			26			27			28			29		
	30		31																	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部　平成25年度（2013年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間) 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	備考	ページ
学科教育科目	音楽教育A	演習	1				2					37
	音楽教育B	演習		1	◆	○		2				38
	音楽教育C	演習		1		○			2			
	音楽教育D	演習		1		○				2		
	器楽A	演習		1	◆	●	2					39
	器楽B	演習		1	◆	○		2				40
	造形A	演習	1				2					41～42
	造形B	演習		1	◆	○		2				43～44
	幼児体育A	演習	1				2					45
	幼児体育B	演習		1	◆	○		2				46
	算数	講義		2	◇						不開講	
	生活概論	講義		2	◇						不開講	
	子どもの保健ⅠA	講義		2		●	2					47
	子どもの保健ⅠB	講義		2		●		2				48
	子どもの保健Ⅱ	演習		1		●			2			
	子どもの食と栄養A	演習		1		●			2			
	子どもの食と栄養B	演習		1		●				2		
	家庭支援論	講義		2		●				2		
	社会福祉	講義	2						2			
	相談援助	演習		1		●				2		
	児童家庭福祉	講義		2		●	2					49
	教育原理	講義	2						2			
	保育原理A	講義	2				2					50
	保育原理B	講義		2		○				2		
	社会的養護	講義		2		●		2				51
	保育相談支援	演習		1		●				2		
	教育実習	実習		5	◆			5				52～53
	保育実習Ⅰ	実習		4		●	4					54～55
	保育実習指導Ⅰ	演習		2		●	2					56～57
	保育実習Ⅱ	実習		2		○			2			
	保育実習指導Ⅱ	演習		1		○			1			
	保育実習Ⅲ	実習		2		○			2			
	保育実習指導Ⅲ	演習		1		○			1			
	保育の心理学Ⅰ	講義	2				2					58
	保育の心理学Ⅱ	演習		1		●			2			
	教育心理学	講義		2	◆				2			
	児童心理学	講義		2	◆	○		2				59
	青年心理学	講義		2		○				2		
	臨床心理学	演習		2		○		2			☆	60
	教育制度論	講義		2	◆				2			
	教師・保育者論	講義	2							2		
	保育課程総論	講義	2				2					61
	保育内容総論	演習		1	◆	●	2					62
	保育内容・健康	演習		2	◆	●			2		☆	
	保育内容・人間関係	演習		2	◆	●		2			☆	63
	保育内容・環境	演習		2	◆	●			2		☆	
	保育内容・言葉	演習		2	◆	●		2			☆	64
	保育内容・表現A	演習		2	◆	●			2		☆	
	保育内容・表現B	演習		2	◆	●		2			☆	65
	保育方法論	講義		2	◆			2				66
	社会的養護内容	演習		1		●			2			
	乳児保育A	演習		1		●	2					67
	乳児保育B	演習		1		●				2		
	障害児保育A	演習		1		●		2				68
	障害児保育B	演習		1		●				2		
	教育相談	講義		2	◆	○				2		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	◆	●				2	☆	

（注意）◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。　●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。　○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育Ａ				
担当者氏名	中島　龍一				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
保育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、こどもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかなくてはなりません。また、保育現場が多様化している現在、様々な状況の中でこども一人ひとりに偏りなく接していくことが重要です。このことを踏まえて、音楽を多角的に捉え、その楽しさを広げていくことを実践の中で学びます。

《授業の到達目標》
○こどもの歌をできるだけ多く知り、うたうことができる。
○楽譜を読む基礎的な力を身に付けることができる。
○初歩的な手話によるこどもの歌の表現ができる。

《成績評価の方法》
考査50%、学習態度・課題提出等50%の総合評価。

《テキスト》
①『うたのメルヘン』②『おんがく玉手箱』
③『Cookin' Music　～基礎から始める音楽づくり～』
(共同音楽出版社)

《参考図書》
①『子どもの歌から広がる音楽表現』(共同音楽出版社)
その他資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業時間外学習》
授業で実践した内容の復習を十分にして、自分のものとして使えるように練習を重ね、レパートリーを広げていくことが大切です。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。
③爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育Ａ』授業内容の説明と実践	シラバス・受講表・学生コンサート・使用テキスト等についての説明と実践。
2	うたうことの大切さ(1)	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
3	うたうことの大切さ(2)	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
4	うたうことの大切さ(3)	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
5	うたうことの大切さ(4)	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
6	楽譜を読む・基礎(1)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学び。
7	楽譜を読む・基礎(2)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学び。
8	楽譜を読む・応用(1)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学びと応用。
9	楽譜を読む・応用(2)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学びと応用。
10	こどもの歌と表現(1)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
11	こどもの歌と表現(2)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
12	こどもの歌と表現(3)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
13	こどもの歌と表現(4)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
14	実践演習発表会	今まで習得してきたものが自分のものとなっているかどうか、実践的演習発表を行う。
15	総復習(総まとめ)	Ⅰ期の総復習と、Ⅱ期の「音楽教育Ｂ」に備えた演習実践。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育Ｂ				
担当者氏名	井上　朋子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
音楽教育Bでは、主に保育現場で用いられている楽器の基礎的な奏法及び指導法を学習すると同時に、読譜力を習得を目指します。そして、様々なアンサンブル演奏を経験し、音楽表現力と実践力を身に付けます。また、ドラムジカを創作し、音楽、言葉、身体、造形等の総合的な表現力も養います。

《授業の到達目標》
○保育現場で用いられている楽器の基礎的な知識と奏法を理解する。
○基礎的な楽典を理解し、読譜力を身に付ける。
○音楽、言葉、身体、造形等の総合的な表現力を習得する。
○指揮法及び合奏指導法を身に付ける。

《成績評価の方法》
授業中に指示する課題と小テスト（80%）及び授業態度（20%）。

《テキスト》
『Cookn’Music～基礎から始める音楽づくり～』(共同音楽出版社),『うたのメルヘン』(共同音楽出版社),『おんがく玉手箱』(共同音楽出版社),『４訂版 歌はともだち』(教育芸術社)

《参考図書》
その他、資料等は必要に応じて担当教員から指示･配布します。

《授業時間外学習》
授業で取り扱った楽曲を復習し、レパートリーを増やしましょう。

《備考》
1.講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
2.教室内での飲食厳禁。
3.爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育 B』授業内容の説明と実践	オリエンテーション。 楽器を使った音楽遊び。リズム演習。
2	打楽器の基礎	子どもの歌。 保育現場で用いられている打楽器の名称や奏法を習得する。リズム演習。
3	リズムアンサンブル	子どもの歌。 リズム楽器を用いたアンサンブル演奏。
4	小アンサンブル	子どもの歌。 ミュージックベル・トーンチャイムの奏法及び指導法。アンサンブル演奏。
5	鍵盤ハーモニカを使って	子どもの歌。 鍵盤ハーモニカの奏法及び指導法。
6	身近なものを使って	子どもの歌。新聞アンサンブル。ボディパーカッションアンサンブル。ボイスアンサンブル。手作り楽器の制作。絵楽譜づくり。
7	ミニ・ドラムジカ①	ドラムジカの説明。鑑賞。グループ分け。台本作り。
8	ミニ・ドラムジカ②	グループ練習及び準備。
9	ミニ・ドラムジカ③	グループ練習及び準備。
10	ミニ・ドラムジカ④	グループ発表。
11	合奏①	子どもの歌。 合奏譜の読み方。パート譜の作り方。
12	合奏②	子どもの歌。 合奏練習と様々な指揮法。
13	合奏③	子どもの歌。 合奏練習と指揮法及び指導法。
14	合奏④	子どもの歌。 合奏練習と指導法及び鑑賞。
15	総まとめ	理解度の確認。

《学科教育科目》

科目名	器楽A				
担当者氏名	井上　朋子、宋　容希、田村　幸造、津田　安紀子、藤田　浩恵、小林 未季、佐藤 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
保育者として必要なピアノの基礎技能を養うことを目的とし、個人レッスン形式で進めます。具体的に、「器楽A」では、保育現場で用いられている子どもの歌の弾き歌いやリズム曲（マーチ、スキップ、ギャロップ等）を中心に学習します。

《授業の到達目標》
○楽譜の読み方及びピアノの基礎的な奏法を習得する。
○子どもの歌のレパートリーをジャンル別（季節・生活等）につくる
○弾き歌いでは、のびのびと歌いながらピアノ伴奏を弾きことができる。
○リズム曲（スキップ、ギャロップ、マーチ等）では、動きに合った演奏表現ができる。

《成績評価の方法》
①Ⅰ期中に計16曲を修了しておくこと。
②中間及び研究発表会(60%)と平常点(40%)の総合評価。

《テキスト》
『うたのメルヘン』(共同音楽出版社)
『ぴあのってすばらしい』(共同音楽出版社)

《参考図書》
『おんがく玉手箱』(共同音楽出版社)
その他資料等は、必要に応じて配布します。

《授業時間外学習》
毎回、課題曲を指示します。各自、毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにしましょう。

《備考》
1.講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
2.教室内での飲食厳禁。
3.爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『器楽A』における授業内容の説明	指導者の紹介と個々の進度調査及び個人レッスン。
2	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
3	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
4	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
5	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
6	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
7	中間発表会	演奏会形式で個人発表する。
8	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
9	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
10	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
11	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
12	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
13	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
14	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
15	研究発表会	演奏会形式で個人発表する。

《学科教育科目》

科目名	器楽Ｂ				
担当者氏名	田中 敬子、宋　容希、田村　幸造、津田　安紀子、藤田　浩恵、小林 未季、佐藤　裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
Ⅰ期に引き続き、保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための基礎技能を更に発展させる形で学びます。それぞれの進度状況に応じて、現場で必要とされるピアノ演奏技術を身につけます。子どもの歌の弾きうたいは勿論、就職試験を見据えたピアノ楽曲、マーチ・ワルツ・かけっこ・スキップ・ギャロップといった身体表現と関わりの深い曲等も弾けるようにしていきます。

《授業の到達目標》
○コードネームから容易に伴奏付けができる。
○ピアノを弾きながらうたうということが余裕を持ってできる。
○読譜力を身に付ける。
○ピアノ楽曲や、様々な形態の曲を弾くことができる。

《成績評価の方法》
①毎回の指定曲及びⅡ期の最終段階を修了。②中間及び研究発表会にて規定の課題を修了。③授業態度が真面目であり毎回正しく記入された受講進度表を提出。④実技点(60%②)と授業点(40%①～③及び備考1～2)の総合評価。

《テキスト》
『うたのメルヘン』(共同音楽出版社)
『ぴあのってすばらしい』(共同音楽出版社)
その他、必要に応じて指示します。

《参考図書》

《授業時間外学習》
【予習】毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。
【復習】毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》
1.身だしなみ等(特に爪)。2.講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁(発覚時は減点)。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『器楽Ｂ』における授業内容の説明	指導者の紹介と個々の進度調査及び個人指導。
2	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
3	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
4	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
5	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
6	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から中間発表会の課題曲を指導。　※未履修曲の点検。
7	中間発表会	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から4階ML教室へ全員集まり、演奏会形式でグランドピアノにて実施(個人発表)する。
8	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
9	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
10	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
11	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進度に応じて指導。
12	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から研究発表時の課題曲を指導。　※未履修曲の点検。
13	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。　※未履修曲の点検。
14	研究発表会	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から中間(第7回)発表会と同様に、演奏会形式でグランドピアノにて実施する。
15	『器楽Ｂ』の総まとめ	未履修曲の点検及びアンケート実施。次年度に関わる音楽科目への準備。

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者氏名	柳楽　節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
子どもの成長において造形遊びは重要な要素の一つです。創造性豊かな人を育むための大切な役割を担っているといえます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生自身が作品制作に打ち込みながら造形の楽しさを発見できることをめざします。

《授業の到達目標》
子どもの心の動きを感じ取りながら、造形遊びを楽しいものとして伝えることができる。体験したことを絵に描く場合にそれぞれの子どもに対し、適切な言葉をかけることができる。造形遊びのための材料や用具をよく知り、正しく使うことができる。

《成績評価の方法》
提出作品（100%）で成績評価を行います。

《テキスト》
『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》
授業内容の必要に応じて紹介します。

《授業時間外学習》
描写のための画材や色面構成に使用する雑誌等、事前に連絡のあった準備物は時間外に調査・購入すること。

《備考》
授業の後片付けは、指示に従って丁寧に行うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員の自己紹介 授業計画の説明	担当教員の作品制作活動と造形に対する考え方を知り、今後の授業計画を理解する。
2	描写ー1（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方を体験する。
3	描写ー2（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方を体験する。
4	描写ー3（立方体）	シルクスクリーンで立方体の展開図を刷り、組み立てた後、鉛筆でデッサンする。 立体描写・遠近法の考え方を理解する。
5	描写ー4（立方体）	画面構成と線・面の考え方を理解し、描く事を体験する。
6	描写ー5（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
7	描写ー6（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
8	描写ー7（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
9	描写ー8（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
10	色彩の知識	テキストを使い説明を受けた後、カラーペーパーを貼り、色彩の基礎的な知識を理解する。
11	色面構成ー1	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
12	色面構成ー2	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
13	色面構成ー3	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
14	色面構成ー4	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
15	色面構成作品集制作	作品集としてまとめ、表紙を付けて提出する。作品集として残す意味を理解する。

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者氏名	岩見　健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》
自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《成績評価の方法》
・作品評価（100%）

《テキスト》
『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》
適宜指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《備考》
特にない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	クロッキー	短時間に　線だけで人物の動きを表現することができる。
3	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
4	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
5	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
6	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
7	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
8	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
9	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
10	色彩指導	色彩の三属性（色相・明度・彩度）を理解し、色彩についての科学的な知識を身につける。
11	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
12	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
13	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
14	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
15	子供の絵の見方	実際の子供の絵を鑑賞し、子供の感性をのびのびと伸ばすにはどのような助言が望ましいかを理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形Ｂ				
担当者氏名	柳楽　節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
この演習では、造形の基礎から応用へと発展させる課題を設定し、受講生が作品制作に打ち込むことによって、造形力と柔軟な発想力を養うことを目標とします。さまざまな素材と技法を体験し、考え、試みることで、造形あそびへの興味と理解を深め、受講生がやがて保育の現場に役立てることができる経験となる授業をめざします。

《授業の到達目標》
自然や日常生活のなかに造形のヒントを探し出す視点が持てる。子どもの発達段階に応じた造形遊びの計画を立てることができ、その場に必要な材料・用具を準備することができる。子どもの成長と造形遊びに関連する情報収集を自主的に行うことができる。

《成績評価の方法》
提出作品（100%）で成績評価を行います。

《テキスト》
『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》
授業の必要に応じて紹介します。

《授業時間外学習》
各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行います。

《備考》
事前に連絡を受けた、授業に必要な準備物は必ず持参すること。授業の準備と後片付けは確実に行うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業計画説明	授業計画と目標を理解する。
2	割りピン人形制作ー１	キャラクターを作り出すために、イメージを段階的に形にする方法を理解する。
3	割りピン人形制作ー2	画用紙とトーナルカラーを使い、2体の人形制作を計画し、実行することができる。
4	割りピン人形制作ー3	画用紙とトーナルカラーを使い、2体の人形を制作することができる。
5	割りピン人形制作ー4	画用紙とトーナルカラーと割りピンを使い、2体の人形を制作することができる。
6	割りピン人形制作ー5	2体の人形による展示効果の説明を理解し、実行することができる。
7	スクリーンプリントー1	版の効果、技法について理解する。
8	スクリーンプリントー2	版の成り立ちを理解し原画を作成することができる。
9	スクリーンプリントー3	原画から製版、刷りのプロセスを理解し、実行することができる。
10	スクリーンプリントー4	刷りについて、その原理と材料、技法を理解し、作品を完成させることができる。
11	立体作品制作ー1	季節行事の意味と効果を理解し、制作の計画を立てることができる。
12	立体作品制作ー2	作品のイメージからラフスケッチを作成し、段階的にプランを絞り込んでいくことができる。
13	立体作品制作ー3	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
14	立体作品制作ー4	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
15	立体作品制作ー5	時間内に完成させた後、提出する。

《学科教育科目》

科目名	造形Ｂ				
担当者氏名	岩見　健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《テキスト》
『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》
適宜紹介。

《授業の到達目標》
自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《授業時間外学習》
毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》
・作品評価（100%）

《備考》
特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	ポスター制作	関連性のない写真・グラビアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
3	ポスター制作	関連性のない写真・グラビアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
4	ポスター制作	関連性のない写真・グラビアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
5	ポスター制作	関連性のない写真・グラビアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
6	ポスター制作	関連性のない写真・グラビアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
7	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
8	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
9	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
10	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
11	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
12	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。
13	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。
14	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。
15	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育Ａ				
担当者氏名	宮川　和三				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、幼児の各年齢に応じた遊びや援助法を考える。また、これを保育現場において、応用実践できる能力の習得を目指す。

《授業の到達目標》
幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につけさせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴を踏まえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を習得する。

《成績評価の方法》
各種目毎に実技試験を実施。毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割.で評価する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》
『健康』原田碩三他著（エディケーション）『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《授業時間外学習》
毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べることを指示する。

《備考》
授業計画については、進行状況に応じて適宜変更することがある。学生同士の協調性を求め、実技を主体とする。服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の発育発達	発育発達の特徴について理解する。
2	マットを使った運動	匍匐、バランス運動と援助法を体得する。
3	マットを使った運動	匍匐、バランス、ジャンプ運動と援助法を体得する。
4	マットを使った運動	横転、前転、後転運動と援助法を体得する。
5	マットを使った運動	前転、後転、側転、倒立、開脚前転運動と援助法を体得する。
6	学習のまとめ	前転、後転、開脚前転運動の組.せを体得する。
7	跳び箱を使った運動	踏切板の蹴り、腕支持、ジャンプ運動と援助法を体得する。
8	跳び箱を使った運動	とびのり、とびおり運動と援助法を体得する。
9	跳び箱を使った運動	蹴り、腕支持、ジャンプ、横とび運動と援助法を体得する。
10	跳び箱を使った運動	開脚とび、台上前転、閉脚とび運動と援助法を体得する。
11	跳び箱を使った運動	開脚とび、台上前転、閉脚とび運動と援助法を体得する。
12	学習のまとめ	開脚とび運動（縦・横）いずれかを体得する。
13	ごっこ遊び	ごっこ遊びを体得し、具体的に説明、指導することができる。
14	ごっこ・ゲーム遊び	ごっこ・ゲーム遊びを体得し、具体的に説明、指導することができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を再確認し、その具体的な成果を説明、指導することができる。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育Ｂ				
担当者氏名	宮川　和三				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、幼児の各年齢に応じた遊びや援助法を考える。また、これを保育現場において、応用実践できる能力の習得を目指す。

《授業の到達目標》
幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につけさせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴を踏まえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を習得する。

《成績評価の方法》
各種目毎に実技試験を実施。毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》
『健康』原田碩三他著（エディケーション）『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《授業時間外学習》
毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べることを指示する。

《備考》
授業計画については、進行状況に応じて適宜変更することがある。学生同士の協調性を求め、実技を主体とする。服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の発育発達	発育発達の特徴について理解する。
2	鉄棒を使った運動	腕支持、ぶらさがり、踏み越しおり、足ぬき、ぶたの丸やき運動と援助法を体得する。
3	鉄棒を使った運動	腕支持、逆さおり、前まわりおり、倒立おり、持ちかえおり運動と援助法を体得する。
4	鉄棒を使った運動	倒立おり、足かけあがり、逆あがり運動と援助法を体得する。
5	鉄棒を使った運動	足かけあがり、逆あがり、前まわり、後まわり運動と援助法を体得する。
6	学習のまとめ	足かけあがり、逆あがり、前まわり、後まわり運動のいずれかを体得する。
7	トランポリンを使った運動	あがり方、おり方、とまり方、1人・2人ジャンプ運動と援助法を体得する。
8	トランポリンを使った運動	1人・2人ジャンプ、ニードロップ、シートドロップ運動と援助法を体得する。
9	トランポリンを使った運動	ニードロップ、シートドロップ、ニードロップ連続運動と援助法を体得する。
10	トランポリンを使った運動	ジャンプ1/2、ニードロップ、シートドロップ連続運動と援助法を体得する。
11	トランポリンを使った運動	ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続運動と援助法を体得する。
12	学習のまとめ	ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続運動を体得する。
13	ごっこ遊び	ごっこ遊びを体得し、具体的に説明、指導することができる。
14	ごっこ・ゲーム遊び	ごっこ・ゲーム遊びを体得し、具体的に説明、指導することができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を再確認し、その具体的な成果を説明、指導することができる。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健ＩＡ				
担当者氏名	西村　美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
子どもの保健ＩＡを学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかかわることができるための学習であり、必要に応じてＶＴＲを導入しながらイメージがしやすいようにする。

《授業の到達目標》
胎生（胎児）から青年期に至るまでの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心身の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。

《成績評価の方法》
・VTR視聴のレポート（50%）
・学期末テスト（50%）

《テキスト》
『よくわかる子どもの保健』
ミネルヴァ書房　竹内義博・大矢紀昭 編

《参考図書》
必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
【ten!『めばえ』よみうりテレビ 月曜日～金曜日18:52～18:57】乳幼児の特徴や親の子どもに対する想い・関わり方を感じ取り、講義中にイメージできるようにしておくこと。

《備考》
ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することが出来て、説明することができる。（ＶＴＲ視聴予定）
5	新生児の成長発達①	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達②	新生児期の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
7	乳児の成長発達①	乳児期全般の成長発達と、各時期ごとの主な体と心の発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達②	７回目で学んだ『乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な体と心』の発達が理解できているか、ＶＴＲを視聴しながら確認する。
9	幼児の成長発達①	幼児が健全に成長できるために幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達②	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントが解り、理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解り、その観察結果が異常か正常か、が解ることができる。
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセンタイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に関係するワクチンの特徴・ワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	乳幼児を取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	１回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健ＩＢ				
担当者氏名	西村　美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
子どもの保健ＩＡで学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい疾患・症状・事故についての理解を深めると共に、保育者として子どもの異変時にその様子から『子どもたちの命を守る』ための的確な判断と対応が行えるようになるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいように展開していく。

《授業の到達目標》
乳幼児特有の疾患・症状の理解ができ、その予防と対応方法及び事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、常に『危機管理』がのしかかっていることを理解することができる。

《成績評価の方法》
・VTR視聴のレポート（30%）
・学期末テスト（50%）
・課題レポート（20%）

《テキスト》
『よくわかる子どもの保健』
ミネルヴァ書房　竹内義博・大矢紀昭 編

《参考図書》
その都度紹介する。

《授業時間外学習》
テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00～21:29】乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。
※番組テーマは、毎週異なる。

《備考》
園児たちに『命の大切さ』を教えてほしいと願う思いから、疾患の授業では『難病に罹り死にゆく子ども』のビデオを視聴する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの疾病の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とそれらをふまえての保育者の役割を理解する。
2	子どもに起こりやすい症状とその対応	①発熱　②吐き気と脱水　③頭痛　④咳と喘鳴　⑤下痢と便秘 についての種類と発達段階ごとの対応が解る。
3	子どもの病気とその予防①	感染症と伝染病の定義が解り『学校において予防すべき伝染病』の種類と出席停止期間の基準を理解する。
4	子どもの病気とその予防②	子どもによくみられる呼吸器の病気が理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
5	子どもの病気とその予防③	子どもによくみられるアレルギー性の病気が理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
6	子どもの病気とその予防④	子どもによくみられるウイルスによる感染症とそのウイルスによる食中毒の病気が理解できて、その対応・予防ができるようになる。
7	子どもの病気とその予防⑤	子どもによくみられる細菌による感染症とその細菌による食中毒の病気が理解でき、その対応・予防ができるようになる。
8	子どもの病気とその予防⑥	子どもによくみられる整形外科の病気・耳鼻咽喉科の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気の理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの病気とその予防⑦	乳幼児期によくみられやすい『こころ』の病気が理解でき、その対応・予防、及び保育者のかかわり方が解る。
10	子どもの病気とその予防⑧	子どもによくみられる血液の病気と小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のＶＴＲ視聴をして、その子どもの状態やおもいに寄り添うことができる。
11	保育所・幼稚園に備えておくべき医薬品	保育所・幼稚園での『保健室』の役割と備品、保健室に備えておく医薬品等が解る。
12	子どもの事故と安全管理、　及び安全教育	子どもの事故の特徴と発達段階ごとの事故の種類・予防が解り、子どもへの安全教育は子どもの保健、養育の上で大事なことが理解できる。
13	看護と救急処置①	子どもによく起こる発達段階別の事故の種類とその予防ができるようになる。
14	看護と救急処置②	13回目の講義内容を想起しながらその対応ができる。（けが・やけど・出血・熱中症・異物）
15	まとめ	１回目～14回目までの学習内容が理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	児童家庭福祉				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷，児童家庭福祉と保育，児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し，児童家庭福祉の現状を把握し，その課題について考察する。

《授業の到達目標》

○現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができる。
○児童家庭福祉の歴史的変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に生かすことができる。
○児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習おいて検証することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（100%）

《テキスト》

『児童家庭福祉』流石智子編，あいり出版，2012

《参考図書》

『最新保育資料集2012』子どもと保育総合研究所監修，ミネルヴァ書房，2012

《授業時間外学習》

授業前にテキストを読んでおいてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童家庭福祉の意義	現代社会と児童家庭福祉，児童家庭福祉の理念と概念
2	子どもの権利とその歴史的変遷	子どもの権利と人権，子どもの権利に関する重要な宣言，現代の子どもたちを守る条約と法律
3	保育に必要な児童家庭福祉の考え方	保育を理解するための児童家庭福祉，子どもの人権擁護と保育
4	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状‐1	児童家庭福祉の法律と制度（児童福祉法・児童に関する法律その他）
5	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状‐2	児童家庭福祉行財政とその実施機関
6	児童福祉施設と援助者	子どもの生活を保障する児童福祉施設，児童家庭福祉を支える専門職とその実践者
7	少子社会と子どもの発達保障	少子化と子育て支援の現状，母子保健と子どもの発達保障
8	子どもの健全育成	児童健全育成と児童館，放課後児童健全育成事業等，多様な保育ニーズと子育て支援
9	子育てと社会的養護‐1	現代家庭の抱える子育て問題，子育て家庭と子ども虐待，ドメスティックバイオレンスと現代家庭
10	子育てと社会的養護‐2	障害のある子どもたちへの対応
11	子育てと社会的養護‐3	少年非行に陥る子どもたちへの対応（視聴覚教材の使用）
12	子育てと社会的養護‐4	ひとり親家庭の子どもたち
13	児童家庭福祉の動向	次世代育成支援と児童家庭福祉の課題と展望，保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワークの充実
14	諸外国の子育て事情	諸外国の子育て支援の動向，スウェーデンの保育所と就学前児童の保育内容（視聴覚教材の使用）
15	まとめ	保育士の役割と児童家庭福祉，授業内容と「保育実習」との関わり

《学科教育科目》

科目名	保育原理Ａ				
担当者氏名	福田　規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史的変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

○自らの保育や子どもへの想いを自覚する。
○多様な角度から保育について考察し、子どもを理解することや保育のあり方について探求する中で、自らの子ども観・保育観の形成、向上を目指す。
○保育実践に必要な基礎的知識を習得する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

《テキスト》

『新・保育原理(第2版)－すばらしき保育の世界－(みらい2012)『最新保育資料集2011』森上史朗編(ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房 2011)『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館 2008)

《参考図書》

『ﾌﾚｰﾍﾞﾙの生涯と思想』荘司雅子著(玉川大学出版部1984),『子どもの世界をどうみるか』津守真著(NHKﾌﾞｯｸｽ1987),『ｾﾝｽ･ｵﾌﾞ･ﾜﾝﾀﾞｰ』ﾚｲﾁｪﾙ･ｶｰｿﾝ著 上遠恵子訳(新潮社 1996),『ｸﾘﾃｨｶﾙ進化論』道田泰司・宮元博章著秋月りす画(北大路書房 1999),『幼稚園教育要領解説』文部科学省(ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館 2008),またその他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来うる限りで行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。講義中に取ったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等）。

《備考》

子どもに関し、授業で教えられるだけでなく、自分でも調べてください。また実際の子どもを観察する機会を多く持ってほしい。出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育の意義	保育とは何か　（全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある）
2	保育の意義を考える	なぜ保育が必要なのか
3	保育の場について知る	家庭－保護者の責務と限界
4	保育の場について知る	保育施設－社会的意義
5	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
6	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
7	保育の思想とその歴史を学ぶ	日本
8	保育の思想とその歴史を学ぶ	保育制度の成立
9	どのように保育を考え進めるべきかを考える	保育所保育指針－保育の原理
10	どのように保育を考え進めるべきかを考える	養護と教育・環境・発達過程・連携
11	どのように保育を考え進めるべきかを考える	子ども理解と保育観・倫理観
12	保育の内容を学ぶ	基本的な考え方・方法とは
13	保育の現状と課題	諸外国の現状
14	保育の現状と課題	保育のあした
15	まとめ	子どもへの想いを確認　基礎的知識の確認

《学科教育科目》

科目名	社会的養護				
担当者氏名	高谷　博之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
社会的養護の今日的課題と意義について学ぶ。家庭の養育機能の脆弱化が進む中、子育て支援、子どもの自立支援が重要な課題となっている。家庭養護の機能を再構築するために、地域社会・公的役割を模索する。又、社会的養護実践の大きな部分を占める児童福祉施設の機能を理解すると共に、児童養護の体系の理解を深める。保育士として、子どもと向かい合い、子どもの自立を支援するための対人援助の方法を理解する。

《授業の到達目標》
・児童憲章、子どもの権利条約、施設養護の基本原理について説明できる。
・専門職としての専門性を理解し、施設実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》
・筆記テスト（７０％）・課題レポート（３０％）

《テキスト》
シリーズ福祉新時代を学ぶ『新選・児童の社会的養護原理』
神戸賢次、喜多一憲・編　　（株）みらい

《参考図書》

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所を読んでおくこと（予習、復習）

《備考》
・授業開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること
・授業中の私語や携帯メール、居眠りは厳禁

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の現状	子どもを取り巻く環境、社会的養護を必要としている子どもについて,児童憲章、児童福祉のキーワードについて
2	児童養護の定義、児童虐待問題	児童養護の定義について、虐待の種類、虐待の社会的背景、発生要因、虐待への対応、オレンジリボン運動について
3	ＳＩＤＳ、捨てられ体験	乳幼児突然死症候群の死別反応の特徴、「喪の営み」、「喪の過程」について、「捨てられ体験」からくる対人関係への影響、現実感の障害について
4	社会的養護の歴史と今日的課題	慈善救済事業の始まり、明治・大正時代、児童福祉法施行、ホスピタリズム論、子どもの権利条約、児童福祉施設最低基準について
5	社会的養護の基本理念	「子どもの最善の利益のために」「社会全体で子どもを育む」について、「子どもの権利条約」について
6	施設養護の基本原理	基本的人権の尊重と情緒安定性の原理、集団と個の統一的原理、生活支援と学習支援保障の原理、親・家族関係の調整の原理、積極的社会参加促進の原理について
7	施設養護実践における専門性の課題	地域での協働子育てシステムの構築、自立支援計画票、チームケア、第三者評価、苦情解決について、要養護児童の発達課題、トラウマ、ＰＴＳＤ、軽度発達障害について
8	施設養護の実践と方法	施設養護の意義と目的について、「日常生活」や「自立支援」について
9	施設養護の実践と方法	「治療的援助」について、「親子関係・学校・地域との関係調整」について
10	地域の社会的養護機関	地域の相談機関、援助機関について、児童相談所の機能等について
11	次世代育成支援と地域の子育て支援	エンゼルプラン、新エンゼルプラン、少子化対策プラスワン、次世代育成支援対策推進法、「子ども・子育て新システム」について
12	地域の子育て家庭支援施策	子育て短期支援事業、特別支援教育、認定こども園、総合こども園について
13	施設養護の職員	施設職員に求められる倫理、職員の専門性の課題、専門職に求められる技術、ケースワークについて、施設運営と財政措置
14	児童養護における養育のあり方	子どもの養育論の確立、施設職員に求められる専門性、子どもが求めている大人像について
15	学習のまとめ、筆記テスト	社会的養護の将来像、児童養護施設の将来像と課題について

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	藤井　惠美子、黒崎　令子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	1年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とします。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とします。

《授業の到達目標》

〇幼稚園教育の基本を知る。
〇幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
〇指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《成績評価の方法》

・実習における評価　70%
・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
・発表内容、模擬保育等への参加と成果　20%

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省　　2008年
『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・適宜課題を出します。その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。
・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めてください。
・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べたりするようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を遵守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。実習内規及び要綱に従って実習参加の可否を決定する。授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション幼稚園の基本について	教育実習は、幼稚園教諭免許状を取得するために必修科目として位置づけられていることを知る。幼稚園教育要領や実習の手引きを参照し、幼稚園の基本について知る。
2	教育実習について・実習の意義と目的	教育実習の意義と目的について説明することができる。幼稚園見学・観察実習・幼稚園参加・指導実習の違いがわかる。
3	幼稚園教諭の仕事と役割・幼稚園現場を知る	ビデオを通して、幼稚園教諭の仕事と役割を理解し、幼稚園の現場を知る。
4	保育者をめざすあなたへ・幼稚園生活について	幼稚園の1日の流れを知り、目指そうとする保育者像を明確にする。
5	幼稚園見学（子どもの姿）・園長先生の講話	4週までの学習を基に、附属加古川幼稚園において、実際の子どもの姿や施設設備を見学・観察する。園長先生の講話を聞く。
6	幼稚園見学から学んだこと（グループ討議）	幼稚園見学で学んだことをグループで討議する。グループでまとめたことを発表し、学んだことを共有する。
7	実習生の心得（マナー講座）	実習生の心得を実技指導を交えて学習し、日常的に実践する力を養う。
8	幼稚園見学・観察（1）	幼稚園生活を知る。（3歳児・4歳児・5歳児の姿）各学年の担任からの講話を聞く。
9	幼稚園見学から学んだこと（グループ討議）	幼児の発達について（幼児理解）、幼稚園見学から学んだことを討議し、まとめて発表することができる
10	保育の実際（1）	保育実技について知る。（絵本の読み聞かせ・手遊び・歌・素話など）
11	保育の実際（2）	模擬保育に取り組み、実習での実践力に繋げることができる。視点にそって保育を見ることができる。
12	保育の実際（3）	模擬保育に取り組み、実習での実践力に繋げることができる。視点にそった保育を見ることができる。
13	保育の実際（4）	模擬保育に取り組み、実習での実践力に繋げることができる。視点にそって保育を見ることができる。
14	保育の実際（5）	模擬保育に取り組み、実習での実践力に繋げることができる。視点にそって保育を見ることができる。
15	まとめと課題	これまでの学習内容から、その成果を説明し、実習への意欲に繋げることができる。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	藤井　惠美子、黒崎　令子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とします。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とします。

《授業の到達目標》

〇幼稚園教育の基本を知る。
〇幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
〇指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《成績評価の方法》

・実習における評価　70%
・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
・発表内容、模擬保育等への参加と成果　20%

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・適宜課題を出します。その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。
・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めてください。
・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べたりするようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を遵守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。実習内規及び要綱に従って実習参加の可否を決定する。授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 実習に向けて	実習資格条件並びに実習要綱の確認をする。（実習の手引きより） 実習園の確認をする。
2	事前指導① 実習に向けて	VTR「子どもと出会う感動」を視聴し、実習への意欲と期待を持つ。また、実習園で学ばせていただきたいことを明確にする。連絡網の確認をする。
3	事前指導② 実習に向けて	実習生個人票を作成する。実習日誌は、実習園のオリエンテーション・1週間の保育の流れ・園の環境構成などを事前に記入する。
4	事前指導③ 実習録について	実習日誌の書き方について。（観察のポイント・エピソード）
5	事前指導④ 実習録について	実習日誌の書き方について。（環境構成・幼児の活動・教師の援助・実習生として感じたことや考えたことなど）
6	事前指導⑤ 実習の心得	実習の心得と諸注意について再確認する。（持ち物・服装・実習中の態度など、実習生の在り方）
7	事後指導①	実習後の反省と課題・見学・観察実習を終えて　・お礼状を書く
8	事後指導②	実習後の反省と課題・グループ討議をする。　・各グループの発表①
9	事後指導③	実習後の反省と課題・各グループの発表②　・参加指導実習へむけての自己の課題
10	保育の実際①	指導案作成と教材研究。
11	保育の実際②	指導案作成と教材研究。
12	保育の実際③	指導案作成と教材研究。
13	模擬保育①	模擬保育に取り組み、実習での実践力に繋げることができる。
14	模擬保育②	模擬保育に取り組み、実習での実践力に繋げることができる。
15	まとめと課題	これまでの学習内容から、その成果を説明し、実習への意欲に繋げることができる。

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅰ　《保育所実習》				
担当者氏名	石川　恵美、澤田 真弓				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力				

《授業の概要》
保育所の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》
1 保育所の役割や機能について具体的に理解する　2.観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める
3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ　4.保育の記録に基づく省察や.己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ　5.保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《成績評価の方法》
実習意欲や態度、子どもたちとの関わり、記録や計画の理解等に関しての評価項目に従い、実習園にて評価票が作成される。その評価に保育実習指導Ⅰの受講状況を加味し、実習ノートを精査して総合的に評価する。なお保育実習Ⅰは保育所２週間、施設10日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。

《テキスト》
決まったものはありません。実習の中で自分で探してください。

《参考図書》
各教科や保育実習指導Ⅰで使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。
実習先の先生方にも紹介してもらってください。

《授業時間外学習》
積極的に保育現場等を訪問し、子どもとの出会いを経験しておくこと。実習までに少しでも遊びのレパートリーを増やしておくこと。実習に入る少し前から、体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。実習中はアルバイト禁止です。実習ノートを１.でも溜めると次の.の睡眠が大きく損なわれます。実習ノートは丁寧に書いてください。態度は素直が一番です。

《備考》
実習園にも学校にも、ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）を忘れないこと。
実習内容については、各実習園の指示に従ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		各実習園で実習スタイルは様々です。
2		年齢で言えば、各年齢を順番に回ったりひとつの年齢でずっと留まったり。実習園で指示を出されますので、よく聞いてください。
3		質問があれば、恥ずかしがらないで聞くこと。
4		２週間、10日間頑張ってください。
5		
6		（参考）保育所見学観察実習
7		保育所の生活を体験し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容・職業倫理についての理解を深める。
8		保育の補助を体験する中で、PDCAサイクルの重要性に少しでも気付く。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅰ　《施設実習》				
担当者氏名	小林　洋司、杣山　貴要江、三浦　かおり、藤澤　英夫、松下 房枝				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）。子ども理解（①子どもの観察とその記録，②個々の状態に応じた援助やかかわり）。養護内容・生活環境（①子どもの心身の状態に応じた対応，②健康管理，安全対策の理解）。計画と記録（①支援計画の理解と活用，②記録に基づく省察・自己評価）。専門職としての保育士の役割と倫理（①保育士の業務内容，②職員間の役割分担や連携，③保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について具体的に理解する。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容を踏まえ，子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%），学生の成果の表れである実習ノート等（40%）。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい，2012

《参考図書》

『最新保育資料集2012』子どもと保育総合研究所監修，　ミネルヴァ書房，2012

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように，実習10日前から検温し，自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで，著しく体力，免疫力を損なうと考えられるので，生活のリズムを整えることに努め，実習に集中できるよう心がける。

《備考》

「保育実習指導Ⅰ」においての諸注意に気を配り，必要に応じて学科事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	原則，1日8時間×10日間，80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ　《保育所実習》				
担当者氏名	石川　恵美、澤田 真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
保育所の見学観察実習に備え、乳幼児の理解及び、保育所の内容と機能について学び、生きた子ども観・保育観を習得する。また、実習の意義、具体的な内容、方法、心得等を事前に学習し、必要な手続きを行う。実習後、グループディスカッションを行い観察実習の課題達成度を話し合う。

《授業の到達目標》
○保育所の社会的な役割と機能を学び、一日の保育の流れや設備について理解する。
○保育を必要とする子どもと保護者の理解を深め、生きた子ども観と保育観を理解する。
○保育士の役割とその内容を理解する。

《成績評価の方法》
事前指導（30%）事後指導（30%）実技（20%）提出物（20%）保育実習指導Ⅰ（施設）と連動しての総合評価とする。なお、保育実習Ⅰと同時に成績評価される。

《テキスト》
『最新保育資料2012』森上史朗　ミネルヴァ書房　2012
『保育所保育指針解説書』
保育ライブラリィ『保育所実習』北大路書房

《参考図書》
適宜、講義時に紹介する

《授業時間外学習》
○居住地近くの保育所（園）を見学させてもらう（外からでも良い）
○トライやる・ウィークで保育所（園）を経験した人は、その内容を思い出し実習に生かせるようにする。
○家事の手伝いを積極的にする。

《備考》
遅刻,欠席は厳禁。授業には実習にふさわしい服装と態度で臨むこと。欠席する場合は、必ず学科事務室に連絡を入れ、後日補講を受けること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保育実習とは（実習全体の説明）　保育士資格について
2	保育所の概要と実習の意義	・保育所と幼稚園の違い・公立保育所と私立保育園の違い　実習までにしておくこと①実習先希望調査
3	保育実習の手続き	・実習までにしておくこと②　連休中に実習先の決定　私立園は内諾依頼
4	実習保育所希望受付	実習までにしておくこと③　個人票記入（写真用意）
5	保育実習指導１	・保育所の生活（乳児）　実習までにしておくこと④事前訪問について
6	保育実習指導２	・保育所の生活（幼児１）　実習までにしておくこと⑤　理解しておくこと－障害児保育
7	保育実習指導３	・保育所の生活（幼児２）　実習までにしておくこと⑥　理解しておくこと－保育所最低基準
8	保育実習指導４	・実習の心構え①　実習生として（１）
9	保育実習指導５	・実習の心構え②　実習生として（２）　公立保育所実習先順次発表
10	保育実習指導６	・実習の心構え③　子どもたちとの関わり
11	保育実習指導７	・実習中に学ぶこと①　観察の視点と記録Ⅰ　実習の目標と課題
12	保育実習指導８	・実習中に学ぶこと②　観察の視点と記録Ⅱ　記録の書き方　巡回カード
13	保育実習指導９	・実習中に学ぶこと③　実習中の注意事項　実習までの日程（夏休み中に実習先へ挨拶など）巡回カード回収　細菌検査容器配布
14	保育実習指導１０	見学観察実習を終えての振り返りおよびグループディスカッション
15	保育実習指導１１	見学観察実習の反省および参加指導実習の目標と課題

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ　《施設実習》				
担当者氏名	小林　洋司、杣山　貴要江、三浦　かおり、藤澤　英夫、松下 房枝				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

本演習では，保育実習の意義・目的を理解し，児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために，授業等で修得した知識・技術を再確認する。実習前には実習課題を設定し，目的を明らかにして実習に臨み，実習後は実習の自己評価，他者評価を基にして実習報告書を作成する。

《授業の到達目標》

○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢，個人を尊重する考え方を理解できる。○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。○実習計画書の作成，実習中の観察，日誌等記録の書き方，養護技術を学習し，習得できる。○実習終了後は，実習全体を振り返り，実習報告書を作成する　とともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成等（50%），事後指導：報告書の作成等（50%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい，2012

《参考図書》

『最新保育資料集2013』ミネルヴァ書房，2013
その他，実習施設に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

実習施設の種別ごとに課題を出します。各自それに従って自主学習をしてください。

《備考》

全出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は，事前に学科事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・「保育実習Ⅰ」（施設）の内容説明，評価基準方法，使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布　・個人票の作成　・安全，疾病予防
2	実習施設の確定	・実習ノートの配布と内容説明　・実習計画書の作成について・個人票の作成（清書）　・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 - 1	視聴覚教材 - 1による学習
4	事前指導 - 2	視聴覚教材 - 2による学習
5	事前指導 - 3	書籍，専門雑誌等による学習
6	事前指導 - 4	実習施設の特徴，具体的実習内容についての学習・「実習計画書」の書き方，提出方法
7	事前指導 - 5	養護系施設，障害系施設の実際について学ぶ・実習生に求められること
8	事前指導 - 6	養護系施設，障害系施設の実際について学ぶ・実習日誌の書き方等，記録について
9	事前指導 - 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）・オリエンテーションの意義と諸注意・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 - 8	報告書の書き方と提出方法／『実習報告集』作成の意味／アンケート用紙配布・巡回指導教員の掲示と挨拶　・施設への礼状について
11	事前指導 - 9	実習前最後の連絡（4クラス合同）・実習施設へ持参する書類の配布
12	事後指導 - 1	「実習報告会」の準備・報告会での発表内容の確認　・実習報告書の作成
13	事後指導 - 2	「実習報告会」の準備・報告会での発表原稿作成　・実習報告書の作成
14	事後指導 - 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告　・質疑応答等
15	事後指導 - 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告　・質疑応答等

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学Ⅰ				
担当者氏名	杉田　律子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学Ⅰでは、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のつまずきについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》
○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観さらには子ども観保育観を涵養すること。

《成績評価の方法》
第15回目に行う試験の評価７０％
授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組み等の評価３０％

《テキスト》
『新保育ライブラリ　子どもを知る　保育の心理学Ⅰ』
無藤隆・藤崎眞知代（編著）　北大路書房　2011

《参考図書》
『シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』　本郷一夫（編）　建帛社　2011、『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』　川島一夫・渡辺弥生（編著）　福村出版　2010、『よくわかる発達心理学』　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　ミネルヴァ書房　2004、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』　岡本依子ら著　新曜社　2004

《授業時間外学習》
参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。
まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《備考》
授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育と心理学	心理学とはどのような学問か、保育における発達の理解の重要性について、そして「保育の心理学Ⅰ」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達とは何か	心理学の歴史の流れを理解する。人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について理解する。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という２つの観点から発達に影響を与える要因について理解する。
4	エリクソンの発達理論 胎児期の発達	エリクソンの発達理論の概要を理解し、各発達段階の課題について理解する。 胎児期の発達の特徴と発達上の諸問題について理解する。
5	新生児期の発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後１年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。大脳生理の基礎的事項、先天性の障害についても理解する。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期の母子関係について学ぶ。 愛着形成、社会性の発達についても理解する。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期の発達に関して、言語と遊びに焦点を当てて学ぶ。 言語の発達
8	幼児期の発達～その1	幼児期の発達に関して、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。 自己意識の発達
9	幼児期の発達～その2	幼児期の知的発達について学ぶ。 認知・思考の発達過程についても理解する
10	児童期の発達～その1	児童期の発達に関して、仲間関係、児童-教師との関係の観点から学ぶ。 道徳性の発達
11	児童期の発達～その2	児童期の発達に関して、学習、動機づけに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立に焦点を当てて学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、職業人としての社会性の発達について学ぶ。また、親としての成長をテーマにして保護者支援の方向性についても学ぶ。
14	子どもの発達における諸問題	自閉症、ADHDなどの発達障害について、保育者として最低限身につけるべき事柄について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。 試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	児童心理学				
担当者氏名	杉田　律子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
幼児期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どのように発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。
また、養護系の児童福祉施設で生活する子どもたちが抱えやすい諸問題について理解し、心理的アプローチについて理解する。

《授業の到達目標》
〇子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになること。
〇子どもの発達にとって、大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できること。
〇特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶこと。

《成績評価の方法》
第15回目に行う試験の評価７０％
授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組み等の評価３０％

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》
『はじめて学ぶ乳幼児の心理-こころの育ちと発達の支援』桜井茂男（編）　有斐閣　2006『グラフィック乳幼児心理学』若井邦夫・高橋道子・高橋義信・堀内ゆかり（著）　サイエンス社　2006『シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』　本郷一夫（編）　建帛社　2011

《授業時間外学習》
参考図書として挙げた文献等を自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めてもらいたい。
また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。

《備考》
授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童心理学の概要 子どもの発達の特徴	子どもの心理学を学ぶ意義について、子ども時代の発達の特徴について、保育所保育指針の記述内容とそれに対する補足説明を通じて、理解する。
2	子どもの運動機能の発達	子ども時代、特に運動機能の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
3	子どもの社会性の発達	子ども時代の発達、特に社会性の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
4	子どもの情動の発達	子ども時代の発達、特に情動の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
5	子どもの感情の発達	子ども時代の発達、特に感情の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
6	子どもの言葉の発達	子ども時代の発達、特に言葉の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
7	子どもの思考認知の発達	子ども時代の発達、特に思考認知の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
8	親子関係の発達	親子関係の発達について、母子コミュニケーションの観点から学ぶ。
9	子どもの発達と遊び	子どもにとっての遊びの重要性について学ぶ。
10	他者の心の理解	他者の“こころ”の理解と他者への思いやりの発達過程について学ぶ。
11	発達障がいについて ～その1	発達障がいとはいかなる障がいか、そしてそもそも障がいとは何かについて学ぶ。
12	発達障がいについて ～その2	発達障がいには、どのような障がいが含まれるのか、そして発達障がい抱える子どもとその保護者に対する対応について学ぶ。
13	特別な支援が必要な子ども達～その１	被虐待児などに特徴的な心理的問題について学ぶ
14	特別な支援が必要な子ども達～その２	心理的な問題を抱える子どもに対する基本的な支援の方法について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	原　志津				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
臨床心理学は「意味」を考える心理学である。人のこころの研究の創始者であるフロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験を重視した。それ以降の研究者たちは、もっと小さな乳幼児期の母子関係に焦点をあて「関係性」の研究をすすめた。この授業ではこころの研究の歴史を辿り人と人が関わることの意味を学んでほしい。

《授業の到達目標》
・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
・乳幼児期の子どものこころの発達について知る。
・子どもの関係性の発達理論を知り、関わりに活かす。
・対人関係上の問題を呈する人々への理解と自己理解を深める。

《成績評価の方法》
授業への取り組み30%
授業内容の理解70%

《テキスト》
保育・教育に生きる臨床心理学
松島恭子監修・篠田美紀編著
光生館　税別2200円

《参考図書》
スクールカウンセラーがすすめる112冊の本
滝口俊子・田中慶江編　創元社

《授業時間外学習》
テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。
こころを理解するのに役立つ参考文献一覧を授業初回に配布するので、できるだけ多くの本を手にとって、子どもとかかわる現場にでるまでに読んでおいてください。

《備考》
集中講義で実施する。第5回・第10回・第15回の授業でその日学んだ学習内容のまとめレポートを作成する。配布した資料と授業のポイントは各自ノートにまとめておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のすすめ方、臨床心理学の概説
2	こころについての探求	フロイトの発見したこと
3	精神分析①	フロイトの精神分析について
4	精神分析②	フロイトの精神分析の用語
5	まとめ①	第4回までの授業のまとめ
6	こころの世界の研究①	乳幼児のこころの世界①・・・メラニー・クラインの研究
7	こころの世界の研究②	乳幼児のこころの世界②・・・マーガレット・マーラーの研究
8	こころの世界の研究③	乳幼児のこころの世界③・・・ウィニコットの研究
9	こころの世界の研究④	乳幼児のこころの世界④・・・ウィニコットのスクウィグル（描画療法）
10	まとめ②	第9回までのまとめ
11	心理療法について①	ユングの心理学
12	心理療法について②	箱庭療法
13	心理療法について③	来談者中心療法・・・ロジャーズのカウンセリング
14	カウンセリングのプロセスについて	体験過程とフォーカシングについて・・・セルフカウンセリング
15	まとめ③	第14回までのまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論				
担当者氏名	黒崎　令子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

教育･保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を学修します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とします。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し､子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養います。

《授業の到達目標》

○教育課程･保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
○保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画の作成を考える。
○保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《成績評価の方法》

（1）授業内討議や発表などへの参加・態度と成果、20%
（2）レポート課題等の提出物　30%（提出遅れは、減点する）
（3）筆記テスト50%

《テキスト》

『教育課程･保育課程論』
神長美津子、塩谷 香（編）光生館　2010

《参考図書》

『幼稚園教育要領』　文部科学省、　2008
『保育所保育指針』　厚生労働省、　2008
『人の教育』
　小原國芳　荘司雅子（監修）玉川大学出版部　1976

《授業時間外学習》

（1）次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
（2）適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり､調べたりしてまとめてきてください。

《備考》

・幼稚園･保育所･認定こども園などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に意識して収集しておいてください。
・教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲　を持つ。
2	教育課程･保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程（1）	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程（2）	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程（1）	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもと比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程･保育課程の実施と指導計画作成（1）	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成（2）	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際（２）	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。（幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価）
14	教育課程･保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容総論				
担当者氏名	前田　美智代、青木　好代				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
・乳幼児のより良い成長発達を願って幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育するということの総合的な内容について理解する。
・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い、保育技術を培う。

《授業の到達目標》
・保育をするということの総合的な内容について理解する。
・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、説明することができる。
・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感をもつ。

《成績評価の方法》
・筆記試験　40%
・課題レポート　40%
・受講態度　20%

《テキスト》
『幼稚園教育要領』文部科学省
『保育所保育指針』厚生労働省

《参考図書》
『保育内容総論』小田豊・神長美津子・西村重稀編著（光生館）

《授業時間外学習》
・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《備考》
保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と、授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育をするということ	資料「育ての心」を手掛かりに進める。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について比較検討する。
3	幼児理解	資料や事例、スライドにより講義・演習を行い幼児理解について学ぶ。
4	幼児期の遊びと学び	遊びの中の学びや遊びを通しての総合的指導について、資料やスライドにより学ぶ
5	発達理解	テキストやスライドにより、幼児の発達理解について学ぶ。
6	事例研究①	（ビデオ視聴）3歳児の園生活（前半）
7	事例研究②	（ビデオ視聴）3歳児の園生活（後半）
8	事例研究③	（ビデオ視聴）4歳児の園生活
9	事例研究④	（ビデオ視聴）5歳児の園生活
10	子どもの主体性と保育者の計画	事例（絵本）を教材にしながら、子どもの主体性と保育者の計画について学ぶ。
11	保育内容の変遷①	保育内容の歴史的変遷①
12	保育内容の変遷②	保育内容の歴史的変遷②
13	幼・保・小の交流①	交流の意義・目的について
14	幼・保・小の交流②	交流の成果と課題
15	授業のまとめ	授業の振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係				
担当者氏名	小原　義子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

近年、家庭の子育て力は低下しつつあり、子どもをめぐる様々な問題が起きている。子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うため、人とのかかわりに関する領域「人間関係」を学ぶ事を通して“生きる力の基礎となる　心情　意欲　態度を培う内容を明確にし、目標である自主・自律、及び協同の精神、並びに規範意識（道徳性）等を培うための保育内容を求めていく。

《授業の到達目標》

「他の人々と親しみ、支えあって生活するために自立心を育て人とかかわる力を養う」保育の内容について知る。そのためには、先ず幼稚園の目標や保育の目標を確認することから進める。又、他の章の中に示されている人間関係との関連についても、学ぶ必要がある。保育所では、特に保護者相談、支援について、信頼関係の観点から重要である。

《成績評価の方法》

試験（60%）
レポート課題（40%）

《テキスト》

保育所保育指針解説書　幼稚園教育要領解説　幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集　保育所保育指針　幼稚園教育要領

《参考図書》

《授業時間外学習》

次回の授業内容を確認し予習しておくこと。
実習現場における「人間関係」について記録しておくこと。

《備考》

受講態度について：保育者は、子どもや保護者のモデルとしての役割を担っている部分が多く、そのため、授業中の学ぶ態度については、規範意識を強く求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	●人間関係の授業の内容を知る ●授業の概要、到達目標の理解をする
2	領域「人間関係」の基本理解	●乳幼児期に育てたい目的・目標と領域「人間関係」との関連について知る
3	領域「人間関係」の基本理解	●領域のねらい及び内容の考え方について知る（幼稚園） ●保育の内容よりねらい及び内容について知る（保育所）
4	領域「人間関係」の基本理解	●子どもの発達 1.乳幼児期の発達の特性より誕生から始まる人間関係を探る（保育所）
5	領域「人間関係」の基本理解	●子どもの発達 2.発達過程より人間関係を探る（保育所）
6	領域「人間関係」の基本理解	●領域「人間関係」のねらいについて知る
7	領域「人間関係」の基本理解	●領域「人間関係」の内容について知る　Ⅰ
8	領域「人間関係」の基本理解	●領域「人間関係」の内容について知る　Ⅱ ●幼稚園と保育所の共通点や違いについて理解する
9	領域「人間関係」の基本理解	●領域「人間関係」の内容の取り扱いについて知る（幼稚園）
10	領域「人間関係」の基本理解	●保育の実質上の配慮事項について知る（保育所）
11	人とのかかわりと保護者支援	●保護者支援について知り、信頼関係を築く人間関係について学ぶ
12	道徳性と人間関係	●道徳性の芽生えを培う保育について学ぶ 1.道徳性の芽生えを培うための基本的な考え方
13	道徳性と人間関係	●道徳性の芽生えを培う保育について学ぶ 2.道徳性の芽生えを培うための指導と指導計画から探る
14	道徳性と人間関係	●道徳性の芽生えを培う保育について学ぶ 3.実践事例より探る
15	まとめ　理解度の確認	●乳幼児期における人と関わる力を培う保育の内容についてまとめ、理解を深める

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉				
担当者氏名	石川　恵美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
言葉の機能と、乳幼児の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は日常生活の中で、人とのかかわりを通して言葉を獲得していく。
また、言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ。その指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》
『保育と言葉』 嵯峨野書院 2013
『幼稚園教育要領解説書』『保育所保育指針解説書』

《参考図書》
適宜、講義時に紹介する。

《授業の到達目標》
乳幼児期の「言葉」の発達を知り、その獲得とプロセスを学ぶ。また、保育者としての援助方法を考える。

《授業時間外学習》
子どもとかかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレパートリーを増やす。

《成績評価の方法》
確認テスト（教科書・資料、持ち込み可とする）　50%
創作絵本　20%
レポート提出・授業内発表　15%
授業への取り組みへの評価　15%

《備考》
・正当な理由のない欠席、遅刻は厳禁
・授業中の飲食・携帯電話、私語は厳禁
・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション領域「言葉」のねらいと内容	○講義の概要　○履修上の注意　○授業の進め方 ○絵本の読み聞かせの意義について
2	保育の基本と保育内容「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。
3	乳幼児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者とのかかわりを知る。
4	幼児期の言葉の発達	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びのなかの「言葉」を理解する。
5	自分の考えや思いを伝えるための言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。
6	体験と言葉	乳幼児期の体験が「言葉」に及ぼす影響を知り、自身の乳幼児期を振り返る。
7	保育内容「言葉」の指導計画と評価	「言葉」に関する指導計画を立て、保育をシュミレーションする。
8	保育内容「言葉」と保育実践（１）保育所	保育所における「言葉」の具体例を学び、保育者の援助についても理解を深める。
9	保育内容「言葉」と保育実践（２）幼稚園	幼稚園における「言葉」の具体例から子ども同士の「言葉」のやりとりや保育実践の留意点を学ぶ。
10	発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援	発達障害についての理解を深め、特別支援教育について学ぶ。
11	小学校における「言語活動充実」実践	小学校における言語活動について学び、保育所・幼稚園との連携を考える。
12	これからの幼児教育の課題と保育内容「言葉」	保育環境をとりまく現状と今後の課題について考える。
13	創作絵本発表会	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
14	学習の振り返り	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。
15	まとめ	確認テスト。授業内容を理解し、文章表現できる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現Ｂ				
担当者氏名	谷内　繁子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

感性と表現に関する領域「表現」の造形的分野において、理解を深めていくとともに、豊かで柔軟な感性を磨き、保育の場面での実践力を身につける。また感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、表現する力を養い創造性を豊かにする。

《授業の到達目標》

○保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」に示された「ねらい」および「内容」の理解を深める。
○幼児の「表現活動」を総合的に引き出し、柔軟に受け止めることのできる保育者としての感性を養う。
○豊かな造形的表現を引き出すための具体的な教材研究を行う。

《成績評価の方法》

○筆記テスト60%
○授業や演習への参加意欲と態度20%
○レポート課題等への提出物20%

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館、2008
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008

《参考図書》

『演習保育内容表現』岡健、金澤妙子編著、建帛社、2009
『保育内容造形表現の探求』黒川健一編著、相川書房、1997
『保育内容表現』花原幹夫編著、北大路書房、2009
『保育をひらく造形表現』槇　英子著、萌文書林、2008
『保育内容表現』花原幹夫編著、北大路書房、2012

《授業時間外学習》

○予習の方法
　テキストの指定箇所を読んできてください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってきてください。
○復習の方法
　授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》

○授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	領域「表現」が意味するもの	今回の改訂のポイントを認識した上でねらいと内容を理解する。また、内面的な意味を捉えその子らしさを大切にすると共に表現者として向き合うことの重要さを理解する。
2	造形的な感性と表現の育つ基礎（1）	体験への導入、体験、活動の意味について理解する。 演習「古新聞を使って、ビリビリ破きをすることにより、楽しみと開放感を味わう。」
3	造形的な感性と表現の育つ基礎（2）	探索、見たて補強、創意工夫の段階を経て、イメージが刺激されることを理解する。 演習「牛乳パックを使って、パクパク人形を作る。」
4	造形的な感性と表現の育つ基礎（3）	イメージの蓄積、想像力を発揮、表現する喜びへと発展させていくことの大切さを学ぶ。
5	造形的な感性と表現の育つ基礎（4）	演習「手作り紙芝居をグループ単位で作成し、実演することを通してイメージを形にする課程を認識する。」
6	造形的な感性と表現の育つ基礎（5）	豊かな表現を引き出すために、いかに生活体験や環境や人とのかかわりが大切であるかを理解する。
7	幼児の造形表現へのアプローチ	造形表現の誕生、幼児期とイメージの誕生を発達段階にそって理解する。
8	造形表現の特質と理解	いろいろな作品を通して、子ども自身の言いたい思いや願いがその表現の中に表わされているかどうか探って、幼児画の理解を深める。
9	幼児の造形表現の特性とその援助	発達段階をよく理解した上での対応が大切で、そこでは保育者自身の感性やイメージの豊かさが大きく左右する。また、状況に応じて適切な環境を準備する。
10	造形表現指導の実際（1）	指導計画を作成するにあたり、ねらいや内容が意図的発展的に構成され、系統立てて行わなければならないことを理解する。その上で自由な表現を楽しむ等の方法を探る。
11	造形表現指導の実際（2）	安全保育のため、保育者の心構え、用具使用についての指導原則について理解する。また、危険な用具の使用については、平素より配慮しておく大切さを認識する。
12	造形表現指導の実際（3）	障害をもつ子どもに充実した生活を送ることができる機会を提供するために、主体的な意欲や表現を楽しむ活動が大切なことを理解する。対応や指導のポイントを学ぶ。
13	造形表現指導の実際（4）	園外保育での造形表現指導のあり方を学ぶ。 人権教育の観点で造形表現指導のあり方を学ぶ。
14	造形表現指導の実際（5）	各学期の行事と造形活動の関係性を理解する。 幼児教育と小学校教育の連続性、授業に生きる幼児期の体験の重要さを認識する。
15	学習のまとめ	一年の総まとめの「生活発表会」を通して造形表現指導における計画性と心得を学ぶ。 演習「幼児に人気のスライム作りを体験し、楽しさを味わう。」

《学科教育科目》

科目名	保育方法論				
担当者氏名	福田　規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。また環境構成については具体的な遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

○主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、いろいろなアイデアが出せる。
○過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考えと自分なりの実践の方法が示せる。
○自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来る。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著(北大路書房 2009)
『幼稚園教育要領解説』文部科学省(ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館 2008)

《参考図書》

『専門家の知恵』ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ・ｼｮｰﾝ著　佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005），『ﾏｲﾝﾄﾞｽﾄｰﾑ』ｼｰﾓｱ・ﾍﾟﾊﾟｰﾄ著　奥野貴世子訳（未来社 1995），『幼稚園教育指導資料第3集幼児理解と評価』文部科学省（ﾁｬｲﾙﾄﾞ本社 2005），『幼稚園教育指導資料第4集　一人一人に応じる指導』文部科学省（ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館　2006），その他授業中随時紹介。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来うる限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現やメディアを駆使した課題の提出等）。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できること。講義に持参した遊具等は積極的に触ってください。適切な出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育方法とは	特定の方法がある訳ではない。　（全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある）
2	環境を通しての保育	豊かな学びを保障する環境構成
3	遊びを通しての保育	遊びをはぐくむ環境
4	幼児の主体的な生活と保育	意図的・計画的な保育
5	保育者の役割	活動の理解者　援助者　モデル
6	遊びから学びを育む保育	感じる　気付く
7	遊びから学びを育む保育	友だちと関わる　共通の課題に向って
8	プロジェクトアプローチとティーム保育	レッジョ・エミリアの実践
9	保育における評価	リフレクション　記録　保育カンファレンス
10	小学校教育との連携	互恵性　継続性
11	家庭や地域との連携	保護者とのパートナーシップ
12	カウンセリングマインド	積極的な関心　傾聴　受容　ケアリング
13	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	子どものいうことを聞く遊具
14	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	表現の可能性　創造の可能性　コミュニケーションの可能性
15	まとめ	自分の想いの再確認　事例への具体的な対応

《学科教育科目》

科目名	乳児保育Ａ				
担当者氏名	石川　恵美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》
保育所・乳児院・家庭保育における「乳児保育」について学ぶ。乳児保育の歴史、現状、課題を知り、保育所の役割及び乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。０，１、２歳児の発達の道すじと保育の方法について学ぶ。

《テキスト》
『乳児保育新時代』ひとなる書房
『保育所保育指針解説書』
『保育資料集2012』森上史朗　ミネルヴァ書房　2012

《参考図書》
適宜、講義時に紹介する

《授業の到達目標》
○乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今日的な課題を考察する。
○０歳児（出生から）２歳児（３歳半頃まで）の子どもの発達を理解する。
○乳児保育の保育内容をビデオと演習を通して理解する。

《授業時間外学習》
乳児の発達に基づいた手作りおもちゃを作成する。乳児への読み聞かせのための絵本の選書と読み方の提起。保育所など乳児のいる所に行きできるだけ触れるようにする。

《成績評価の方法》
筆記試験（教科書・資料、持ち込み可とする）70%
作品・レポート提出・授業内発表 20%
授業中の態度　10%

《備考》
・正当な理由のない欠席、遅刻は厳禁
・授業中の飲食・携帯電話、私語は厳禁
・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	○乳児の概念、乳児保育の概念について ○ビデオー『赤ちゃんからのメッセージ』
2	乳児保育の歴史と現状	○女性労働と乳児保育の関わり ○乳児保育への期待と課題
3	乳児の発達Ⅰ	新生児から０歳児前半　ビデオ　母子関係の形成と人間らしさの発見
4	乳児の発達Ⅱ	０歳児後半　ビデオ　０歳児の発達の道すじと特徴
5	乳児の発達Ⅲ	１歳児　ビデオ　１歳児の発達の道すじと特徴
6	乳児の発達Ⅳ	２歳児　ビデオ　２歳児の発達の道すじと特徴
7	０歳児の生活と保育者の関わり	食事、排泄、睡眠、衣生活、保健等　　ビデオ
8	１、２歳児の生活と保育者の関わり	基本的生活習慣の自立
9	０、１、２歳児のあそびと保育者の関わり	あそびいろいろ
10	あそびの演習①	手作りおもちゃの作成
11	あそびの演習②	散歩マップの作成
12	乳児保育と計画	ディリープログラム　ビデオ記録について
13	家庭との連携	保護者への援助、家庭・地域との連携方法
14	乳児と家庭を取り巻く現状	地域の子育て支援を考える
15	まとめ	筆記試験　授業への理解の確認

《学科教育科目》

科目名	障害児保育Ａ				
担当者氏名	柳田　洋				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《授業の到達目標》
障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭･社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《成績評価の方法》
試験（テキスト･ノート等持ち込み可）。
適宜、レポート等の提出を課す。
試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《テキスト》
『新版テキスト障害児保育』白石正久･近藤直子･中村尚子編（全障研出版部）

《参考図書》
『幼児の発達の基礎』加藤直樹･中村隆一編（全障研出版部）
『発達の扉 下 障害児の保育･教育･子育て』白石正久著（かもがわ出版）
『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）
その他、授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》
次回の授業範囲のテキストを読んでおくこと。

《備考》
毎時間、出席表（感想･質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶために	障害児保育の現状と課題
2	障害児保育のあゆみ	障害児保育と発達保障の歴史
3	障害児保育の前提	保育者に求められること
4	障害児保育の内容と方法	生活の中で信頼感に支えられ、集団の中で育つ
5	障害児保育の目的	人格そのものの豊かな発達を支え導く
6	子どもの発達の道すじ	見通しある保育をするために
7	障害児の保育計画	あそびを軸に日々の保育計画を築く
8	知的障害①	障害の理解
9	知的障害②	保育上の留意点
10	広汎性発達障害①	LD、ADHD、高機能自閉症などの理解
11	広汎性発達障害②	保育上の留意点
12	自閉症①	障害の理解
13	自閉症②	保育上の留意点
14	医療的ケアの必要な子ども	その理解と保育上の留意点
15	家族と共に保育を築く	保護者への支援と支えあう仲間づくり

平成 24（2012）年度入学者

学科教育科目

平成25年度（2013年度）　学年暦〔Ⅰ期〕

保育科第一部2年生

25年	日		月			火			水			木			金			土		
4月			1			2			3		入学式	4			5			6		
	7		8	①	Ⅰ期授業開始	9	①		10	①		11	①		12	①		13		
	14		15	②		16	②		17	②		18	②		19	②		20		
	21		22	③		23	③		24	③		25	③		26	③		27		
	28		29		昭和の日	30	④	月曜日科目授業日	1	④		2	④		3		憲法記念日	4		みどりの日
5月	5	こどもの日	6		振替休日	7	④		8	⑤		9	⑤		10	④		11	⑤	月曜日科目授業日
	12		13	⑥		14	⑤		15	⑥		16	⑥		17	⑤		18		
	19		20	⑦		21	⑥		22	⑦		23	⑦		24	⑥		25		
	26		27	⑧		28	⑦		29	⑧		30	⑧		31	⑦		1		
6月	2		3	⑨		4	⑧		5	⑨		6	⑨		7	⑧		8		
	9		10		創立記念日	11	⑨		12	⑩		13	⑩		14	⑨		15		
	16	オープンキャンパス	17		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	18		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	19		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	20		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	21		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	22		保育所参加指導実習 施設参加指導実習
	23		24		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	25		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	26		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	27		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	28		保育所参加指導実習 施設参加指導実習	29		保育所参加指導実習 施設参加指導実習
7月	30		1	⑩		2	⑩		3	⑪		4	⑪		5	⑩		6		
	7		8	⑪		9	⑪		10	⑫		11	⑫		12	⑪		13		
	14		15		海の日	16	⑫		17	⑬		18	⑬		19	⑫		20		オープンキャンパス
	21	オープンキャンパス	22	⑫		23	⑬		24	⑬	月曜日科目授業日	25		補講日	26	⑬		27	⑭	火曜日科目授業日
	28		29	⑭		30		予備日	31	⑭		1	⑭		2	⑭		3		オープンキャンパス
8月	4	オープンキャンパス	5	⑮		6	⑮		7	⑮		8	⑮		9	⑮		10		
	11		12			13			14			15			16			17		
	18		19			20			21			22			23			24		オープンキャンパス
	25	オープンキャンパス	26			27			28			29			30			31		
9月	1		2			3			4			5			6			7		
	8	オープンキャンパス	9			10			11			12			13			14		

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成25年度（2013年度）　学年暦　〔Ⅱ期〕

保育科第一部2年生

25年	日		月			火			水			木			金			土		
9月	8	オープンキャンパス	9			10			11			12			13	①		14	①	月曜日科目授業日
	15		16		敬老の日	17	①		18	①		19	①		20	②		21		
	22		23		秋分の日	24	②		25	②		26	②		27	③		28		
	29		30	②		1	③		2	③		3	③		4	④		5		
10月	6		7		幼稚園参加指導実習	8		幼稚園参加指導実習	9		幼稚園参加指導実習	10		幼稚園参加指導実習	11		幼稚園参加指導実習	12		幼稚園参加指導実習
	13		14		体育の日	15		幼稚園参加指導実習	16		幼稚園参加指導実習	17		幼稚園参加指導実習	18		幼稚園参加指導実習	19		幼稚園参加指導実習
	20		21		幼稚園参加指導実習	22		幼稚園参加指導実習	23		幼稚園参加指導実習	24		幼稚園参加指導実習	25		幼稚園参加指導実習	26		幼稚園参加指導実習
	27		28	③		29	④		30	④		31	④		1	⑤		2		
11月	3	文化の日	4		振替休日	5	④	月曜日科目授業日	6	⑤		7	⑤		8		大学祭準備	9		大学祭
	10	大学祭	11		大学祭後片付け	12	⑤		13	⑥		14	⑥		15	⑥		16		
	17		18	⑤		19	⑥		20	⑦		21	⑦		22	⑦		23		勤労感謝の日
	24		25	⑥		26	⑦		27	⑧		28	⑧		29	⑧		30		
12月	1		2	⑦		3	⑧		4	⑨		5	⑨		6	⑨		7		
	8		9	⑧		10	⑨		11	⑩		12	⑩		13	⑩		14	⑪	金曜日科目授業日
	15		16	⑨		17	⑩		18	⑪		19	⑪		20	⑫		21		
	22		23		天皇誕生日	24	⑪		25	⑩	月曜日科目授業日	26	⑫		27			28		
	29		30			31			1		元旦	2			3			4		
26年 1月	5		6	⑪		7	⑫		8	⑫		9	⑬		10	⑬		11		
	12		13		成人の日	14	⑬		15	⑬		16	⑭		17		センター試験準備	18		センター試験
	19	センター試験	20	⑫		21	⑭		22	⑭		23	⑬	月曜日科目授業日	24	⑭		25		
	26		27	⑭		28		予備日	29	⑮		30	⑮		31	⑮		1		
2月	2		3	⑮		4	⑮		5		補講日	6		補講日	7		補講日	8		
	9		10			11		建国記念の日	12			13			14			15		
	16		17			18			19			20			21			22		
	23		24			25			26			27			28			1		
3月	2		3			4			5			6			7			8		
	9		10			11			12			13			14			15		
	16		17			18			19			20			21		春分の日	22		
	23	卒業式	24			25			26			27			28			29		
	30		31																	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部　平成24年度（2012年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間) 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	備考	ページ
学科目	音楽教育A	演習	1				2					
	音楽教育B	演習		1	◆	○		2				
	音楽教育C	演習		1		○			2			73
	音楽教育D	演習		1		○				2		74
	器楽A	演習		1	◆	●	2					
	器楽B	演習		1	◆	○		2				
	造形A	演習	1				2					
	造形B	演習		1	◆	○		2				
	幼児体育A	演習	1				2					
	幼児体育B	演習		1	◆	○		2				
	算数	講義		2	◇						不開講	
	生活概論	講義		2	◇						不開講	
	子どもの保健ⅠA	講義		2		●	2					
	子どもの保健ⅠB	講義		2		●		2				
	子どもの保健Ⅱ	演習		1		●			2			75
	子どもの食と栄養A	演習		1		●			2			76
	子どもの食と栄養B	演習		1		●				2		77
	家庭支援論	講義		2		●				2		78
	社会福祉	講義	2						2			79
	相談援助	演習		1		●				2		80～81
	児童家庭福祉	講義		2		●	2					
	教育原理	講義	2						2			82
	保育原理A	講義	2				2					
	保育原理B	講義		2		○				2		83
	社会的養護	講義		2		●		2				
	保育相談支援	演習		1		●				2		84
	教育実習	実習		5	◆			5				85～86
	保育実習Ⅰ	実習		4		●	4					
	保育実習指導Ⅰ	演習		2		●	2					
	保育実習Ⅱ	実習		2		○			2			87
	保育実習指導Ⅱ	演習		1		○			1			88
	保育実習Ⅲ	実習		2		○			2			89
	保育実習指導Ⅲ	演習		1		○			1			90
	保育の心理学Ⅰ	講義	2				2					
	保育の心理学Ⅱ	演習		1		●			2			91
	教育心理学	講義		2	◆				2			92
	児童心理学	講義		2	◆	○		2				
	青年心理学	講義		2		○				2		93
	臨床心理学	演習		2		○		2			☆	
	教育制度論	講義		2	◆				2			94
	教師・保育者論	講義	2							2		95
	保育課程総論	講義	2				2					
	保育内容総論	演習		1	◆	●	2					
	保育内容・健康	演習		2	◆	●			2		☆	96
	保育内容・人間関係	演習		2	◆	●		2			☆	
	保育内容・環境	演習		2	◆	●			2		☆	97
	保育内容・言葉	演習		2	◆	●		2			☆	
	保育内容・表現A	演習		2	◆	●			2		☆	98
	保育内容・表現B	演習		2	◆	●		2			☆	
	保育方法論	講義		2	◆			2				
	社会的養護内容	演習		1		●			2			99
	乳児保育A	演習		1		●	2					
	乳児保育B	演習		1		●				2		100
	障害児保育A	演習		1		●		2				
	障害児保育B	演習		1		●				2		101
	教育相談	講義		2	◆	○				2		102
	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	◆	●				2	☆	103

（注意）◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。　●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。　○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育Ｃ				
担当者氏名	田中 敬子、宋　容希、田村　幸造、津田　安紀子、藤田　浩恵、小林 未季、佐藤　裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
「音楽教育C」は、集団授業とピアノの個人レッスンを隔週で行う。1年次で身に付けた基礎的な技能を生かし、保育実習や教育実習にも対応できるように、保育現場での実践力と豊かな音楽表現力を様々な活動を通して習得する。また、それと同時に、音楽を多角的に捉えられる力を身に付ける。

《授業の到達目標》
≪集団授業≫①保育現場で用いることができる音楽活動の内容及び指導法を習得する。②保育者として必要とされる総合的な音楽表現力と音楽知識を身に付ける。
≪個人レッスン≫①子どもの歌の弾き歌い、リズム曲、ピアノ曲のレパートリーを広げるとともに、豊かな表現力と実践力を身に付ける。②実習や就職試験に対応できるよう、初見力や応用的な読譜力を身に付ける。

《成績評価の方法》
クラス授業50%、ピアノ個人レッスン50%の総合評価。

《テキスト》
①『うたのメルヘン』②『ぴあのってすばらしい』③『Cookin' Music ～基礎から始める音楽づくり』（共同音楽出版社）④適宜プリント配布

《参考図書》
『子どもの歌から広がる音楽表現』(共同音楽出版社)
その他、資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業時間外学習》
授業で実践した内容の復習を十分にして、自分のものとして使えるように練習を重ね、レパートリーを広げていくことが大切です。特にピアノ学習においては、毎日の練習の積み重ねが必要です。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。②室内での飲食厳禁。③爪は短く切っておくこと。④授業計画は、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育C』授業内容の説明(AB、CD合同)	授業形態、シラバス、使用テキスト、受講票、学生コンサート等説明。ピアノレッスン担当者の発表。確認小テストの説明。
2	(集団A,C)確認小テスト (個人B,D)	（集団）子どもの歌から確認小テスト（確認のみ）。ソルフェージュ、リズム、楽典 （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
3	(集団B,D)確認小テスト (個人A,C)	（集団）子どもの歌から確認小テスト（確認のみ）。ソルフェージュ、リズム、楽典 （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
4	(集団A,C)初見唱、初見奏 (個人B,D)	（集団）子どもの歌、初見唱、初見奏、ソルフェージュ、楽典（拍子について） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
5	(集団B,D)初見唱、初見奏 (個人A,C)	（集団）子どもの歌、初見唱、初見奏、ソルフェージュ、楽典（拍子について） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
6	(集団A,C)コードネーム (個人B,D)	（集団）子どもの歌、伴奏法①、楽典（コードネーム①） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
7	(集団B,D)コードネーム (個人A,C)	（集団）子どもの歌、伴奏法①、楽典（コードネーム①） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
8	(集団A,C)身体表現、伴奏 (個人B,D)	（集団）子どもの歌、ボディーパーカッション、伴奏法②、楽典（コードネーム②） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
9	(集団B,D)身体表現、伴奏 (個人A,C)	（集団）子どもの歌、ボディーパーカッション、伴奏法②、楽典（コードネーム②） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
10	(集団A,C)即興演奏 (個人B,D)	（集団）子どもの歌、即興演奏、様々なピアノ奏法、楽典（移調） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
11	(集団B,D)即興演奏 (個人A,C)	（集団）子どもの歌、即興演奏、様々なピアノ奏法、楽典（移調） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
12	(集団A,C)創作音楽 (個人B,D)	（集団）子どもの歌、音遊び、絵本の読み聞かせと創作音楽、楽典（総復習） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
13	(集団B,D)創作音楽 (個人A,C)	（集団）子どもの歌、音遊び、絵本の読み聞かせと創作音楽、楽典（総復習） （個人）弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
14	(集団A,C)まとめ (個人B,D)まとめ	（集団）歌と伴奏、即興演奏 （個人）ピアノ実技発表会。
15	(集団B,D)まとめ (個人A,C)まとめ	（集団）歌と伴奏、即興演奏 （個人）ピアノ実技発表会。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育Ｄ				
担当者氏名	中島　龍一、宋　容希、田村　幸造、津田　安紀子、藤田　浩恵、小林 未季、佐藤 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
保育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、こどもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかなくてはなりません。また、様々な状況の中でこども一人ひとりに偏りなく接していくことが重要です。これらのことを踏まえて、「音楽教育ＡＢＣ」「器楽ＡＢ」で習得したものを更に広げていく研究をします。

《授業の到達目標》
○こどもの歌をできるだけ多く弾き、うたうことができる。
○幼児教育者として現場で必要とされる音楽の知識と技術を身に付けることができる。
○就職試験を視野に入れた、多種にわたるピアノ曲が弾けることができる。（楽曲・リズム曲等）

《成績評価の方法》
クラス授業50%、ピアノ個人レッスン50%の総合評価。

《テキスト》
①『うたのメルヘン』②『ぴあのってすばらしい』
③『Cookin' Music　～基礎から始める音楽づくり～』
(共同音楽出版社)

《参考図書》
①『子どもの歌から広がる音楽表現』(共同音楽出版社)
その他資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業時間外学習》
授業で実践した内容の復習を十分にして、自分のものとして使えるように練習を重ね、レパートリーを広げていくことが大切です。特にピアノ学習においては、毎日の練習の積み重ねが必要です。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。
③爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育Ｄ』授業内容の説明(AB,CD各合同)	シラバス・受講表・学生コンサート・使用テキスト等についての説明。ピアノ個人レッスン担当者の紹介。
2	うたう事の大切さ①AC ピアノレッスン①BD	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。／ピアノ個人レッスン。
3	うたう事の大切さ①BD ピアノレッスン①AC	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。／ピアノ個人レッスン。
4	うたう事の大切さ②AC ピアノレッスン②BD	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。／ピアノ個人レッスン。
5	うたう事の大切さ②BD ピアノレッスン②AC	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。／ピアノ個人レッスン。
6	歌と表現①AC ピアノレッスン③BD	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。／ピアノ個人レッスン。
7	歌と表現①BD ピアノレッスン③AC	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。／ピアノ個人レッスン。
8	歌と表現②AC ピアノレッスン④BD	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。／ピアノ個人レッスン。
9	歌と表現②BD ピアノレッスン④AC	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。／ピアノ個人レッスン。
10	コーラスを楽しむ①AC ピアノレッスン⑤BD	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。／ピアノ個人レッスン。
11	コーラスを楽しむ①BD ピアノレッスン⑤AC	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。／ピアノ個人レッスン。
12	コーラスを楽しむ②AC ピアノレッスン⑥BD	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。／ピアノ個人レッスン。
13	コーラスを楽しむ②BD ピアノレッスン⑥AC	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。／ピアノ個人レッスン。
14	総合復習①AB,CD各合同	Ⅱ期「音楽教育Ｄ」の総復習。一人ずつによる音楽表現発表会。
15	総合復習②AB,CD各合同	Ⅱ期「音楽教育Ｄ」の総復習。一人ずつによるピアノ研究演奏発表会。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健Ⅱ				
担当者氏名	宮崎　千尋				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
乳児保育や小児保健で学んだ知識を基礎として、子どもの心とからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得するとともに実践力を養う。さらに地域保健活動等についても理解を深める。

《授業の到達目標》
・子どもの健康状態を把握する観察方法や測定技術を学ぶ。
・子どもの心身の健康増進と保育に必要な援助を学ぶ。
・子どもの疾病とその予防及び適切な対応について学ぶ。
・救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。
・子どもの心の健康問題や地域保健活動等について理解する。

《成績評価の方法》
（１）筆記試験 80%（試験はテキストの「持ち込み可」にて実施する）（２）授業内実習 20%（実習への参加意欲及び実技とレポートの記入内容によって評価する）

《テキスト》
『子どもの保健演習』　大西文子編集、中山書店　2012

《参考図書》
『小児保健の基礎知識』巷野悟郎監修、日本小児医事出版社、2005・『小児保健実習ノート』榊原洋一監修、診断と治療社、2009・『こどもの保健１』佐藤益子編著、みなみ書房、2011

《授業時間外学習》
（１）予習の方法：実習には、事前に講義内容を復習し、実習の概要　（必要物品・手順等）について理解を深め臨むことで主体的に実習することができると考えます。
（２）復習の方法：授業内容の不明な点は質問し、理解を深めることが大切です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	小児保健を学ぶ意義 援助技術の基本	小児保健を学ぶ目的、保健活動のあらまし、保健活動と保健計画について理解する。 援助技術の基本としてボディメカニクスを理解する。
2	小児の発達・健康観察①	子どもの健康状態の観察と記録について理解する。
3	小児の発達・健康観察②	子どもの身体発育の特徴、身体測定と評価について理解し、測定方法を演習する。
4	小児の発達・健康観察③	子どもの生理機能の特徴、生理機能測定と評価について理解し、測定方法を演習する。
5	小児の健康と養護①	子どもの健康増進と保育の環境を理解する。
6	小児の健康と養護②	子どもの生活習慣と心身の健康について理解する。
7	小児の健康と養護③	衣服の着脱、・おむつ交換・沐浴方法等をモデル人形を使用し演習する。
8	小児の疾病と対応①	子どもによく起こる症状に対する看護を理解する。罨法や与薬の方法を理解する。
9	小児の疾病と対応②	子どもによく起こる病気に対する看護と慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について理解する。
10	小児の疾病と対応③	感染の予防、子どもに起こりやすい感染症と対処、予防接種、保育環境の保健管理・消毒等について理解する。
11	事故と応急手当①	乳幼児の事故の現状と応急処置について理解する。
12	事故と応急手当②	子どもの救急処置、心肺蘇生法について理解する。
13	救急処置・救急蘇生法	救急処置、心肺蘇生法の実際を人形を使用し演習する。
14	健康教育・家庭、地域との連携	子どもの養護環境と心の健康問題について理解する。
15	学習のまとめ	補足とまとめ 理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養A				
担当者氏名	大西　光子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

小児期に食生活の基礎をきちんと築き、正しい食習慣や望ましい食習慣を身につけることが、将来の健康につながることを理解する。講義では、①体に必要な栄養素のはたらきとそれを含む食品について学ぶ。②子どもの発達段階に適した栄養素のとり方、食生活に関する特徴や問題点を学び、正しい食指導ができる知識を習得する。③自分自身が望ましい食生活が実践できる能力を養う。

《授業の到達目標》

〇食べ物に含まれている栄養素がわかり、そのはたらきが説明できる。
〇子どもたちの成長発達段階に適した望ましい食生活が指導できる。
〇毎日の食事に関心を持ち、自分自身が望ましい食生活が実践できる。

《成績評価の方法》

①授業時間に出す作業シートの提出40%
②期末試験60%

《テキスト》

『子どもの食と栄養』
飯塚美和子・桜井幸子・瀬尾弘子・曽根眞理枝
学建書院

《参考図書》

《授業時間外学習》

(1)予習　授業中に予告した内容について教科書などをよく読み、内容を把握してくる。
(2)復習　授業内容を再確認し、不明な点は再度教科書を読む。または次回授業時間に質問する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの心身の健康と食生活	子どもの食生活の特徴や身体的状況、食生活の実態について理解する。生活環境がもたらす子どものからだへの影響や、世界の子どもの現状について理解する。
2	栄養に関する基本的知識	人間が生きていくために必要な栄養成分、炭水化物、脂質、たんぱく質、ミネラル、ビタミンを含む食品やはたらきについて学ぶ。脂質の種類と機能について理解する。
3	栄養に関する基本的知識	炭水化物の種類と機能について理解する。
4	栄養に関する基本的知識	たんぱく質の種類と機能について理解する。
5	栄養に関する基本的知識	ミネラル・ビタミンの種類と機能について理解する。 水分の機能につて理解する。
6	食べ物の消化過程	摂取した食物は、消化酵素のはたらきにより加水分解され、口腔、胃、十二指腸、小腸へと移動しながら消化、吸収されることを理解する。
7	食事摂取基準と各栄養素のとり方	食事摂取基準とは何か、食事摂取基準はどのように使用すればよいのかを理解し、各栄養素のとり方についても理解する。
8	献立作成と調理の基本	献立を立てる必要性や献立作成の留意点について学び、バランスのとれた献立を作成する。
9	献立作成と調理の基本	調理の準備、調理方法や調味料の役割について理解する。 食中毒の種類と特徴、食品の表示制度について理解する。
10	子どもの発育・発達と食生活	発育に影響を与える要因と発育のようすについて理解する。 （身体的な発育、咀しゃく機能の発達、精神・運動機能の発達）
11	胎児期（妊娠期）の食生活	妊娠期の母体の変化、胎児の発育や妊娠期の栄養と食生活について理解する。
12	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活/母乳栄養	母乳栄養の意義、母乳の成分、母乳栄養の留意点について理解する。
13	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活/人工乳,離乳	調製粉乳の種類や特徴について理解する。 離乳の必要性、離乳食の進め方について理解する。
14	人工乳栄養と離乳	調乳法（無菌操作法）の実際について学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養Ｂ				
担当者氏名	大西　光子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

幼児期、学童期、思春期、成人期、老年期を心身共に健康で過ごすための食生活のあり方について学ぶ。

児童福祉施設における食事の役割や発育・発達に応じた食育のあり方について理解する。

小児期の疾病と症状について学び、体調不良の子どもへの対応について理解する。

障害のある子どもの疾患の特徴や食生活について学ぶ。

《授業の到達目標》

○生涯発達での食生活のあり方について説明ができる。
○発育・発達に応じた食育の計画や内容について説明ができる。
○子どもの疾病の特徴が理解でき、症状に応じた食事の与え方が判断できる。
○障害のある子どもの食べる機能の発達を観察し、子どもに合ったペースで支援することができる。

《成績評価の方法》

①授業時間に出す作業シートの提出40%
②期末試験60%

《テキスト》

『子どもの食と栄養』
飯塚美和子・桜井幸子・瀬尾弘子・曽根眞理枝
学建書院

《参考図書》

《授業時間外学習》

(1) 予習　授業中に予告した内容について教科書などをよく読み、内容を把握してくる。
(2) 復習　授業内容を再確認し、不明な点は再度教科書を読む。または次回授業時間に質問する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食事バランスガイド	食事バランスガイドについて学ぶ。自分の１日の摂取エネルギー量を計算し、主食、副菜、主菜などのとり方を理解する。
2	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の発達と食生活の特徴、問題点について理解する。 幼児期の食事摂取基準と食品の選び方について理解する。
3	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の間食の意義と食生活の問題点について理解する。
4	学童期の心身の発達と食生活	学童期の身体的特徴や食生活の特徴、問題点について理解する。学校給食の目標、栄養管理、衛生管理、給食の時間における食に関する指導について理解する。
5	生涯発達と食生活	人は生涯変化し発達し続け、人生のどの時期にも固有の発達があることを理解する。 思春期の生活と心身の特徴について理解する。
6	生涯発達と食生活	成人期の生活と食生活の問題、老年期の特徴と食生活の要点について理解する。
7	食育の基本と内容	食育基本法について学ぶ。 保育所、学校における食育の目標、内容について理解する。
8	食育の基本と内容	食育のための環境、地域の関係機関との連携、食をとおした保護者への支援について理解する。食育指導の媒体を作成し、発表する。
9	家庭における食事と栄養	乳児期・幼児期の家庭における食事の役割について理解する。
10	児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設の食事の役割、栄養管理のあり方、食育のあり方について理解する。
11	児童福祉施設における食事と栄養	保育所における食事の役割、利点、運営などについて理解する。 保育所給食における保育士の役割について理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	小児期の疾病について学び、体調不良の子どもへの対応について理解する。
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。 （原因食物や代用食の用い方、栄養バランスのとり方などを理解する。）
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障害の原因となる疾患と食生活の特徴について理解する。 食べる機能に障害のある子どもへの対応について理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《学科教育科目》

科目名	家庭支援論				
担当者氏名	太田　顕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

乳幼児期、子どもが適切な環境の中で育っていく上で家庭の役割は非常に大きい。しかし現代においては少子化や核家族化等に伴い育児不安の高まりや教育力の低下が指摘されている。また、それを支える地域の教育力の低下も指摘されている。そのような背景において近年子育て家庭が機能することを支える役割が保育者に求められている。本講義では近年の背景を踏まえた家庭支援の在り方について学ぶ。

《授業の到達目標》

○保育者が保育の専門性に基づく固有の理念や方法をもって行う家庭支援の在り方について主体的に考えることができる。
○保育所や幼稚園、福祉機関での事例を検討しながら実践的に学習することにより、保育現場等で起こりうる諸問題に対し、見通しをもつ力を身につける。

《成績評価の方法》

期末試験70%、レポート課題の提出20%（提出遅れについては減点する）、授業への参加態度10%

《テキスト》

『よくわかる家庭支援論』橋本真紀・山縣文治　編、ミネルヴァ書房、2012

《参考図書》

『発達障害の子どもを育てる家族への支援』柘植雅義・井上雅彦編著、金子書房、2010
『家族心理臨床の実際-保育カウンセリングを中心に』上里一郎監修・滝口俊子・東山弘子編、ゆまに書房、2008

《授業時間外学習》

・事前学習として教科書の指定箇所に目を通しておくこと。
・復習として授業内容を再確認し、不明な点は質問する若しくは調べる等して解決しておくこと。

《備考》

近年保護者や地域社会への適切な援助が保育者の専門性として求められています。「信頼される保育者とは？」という問いをもち授業に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭支援が求められる背景と意義	何故今家庭支援が求められているのか、その理念と構造、意義について理解する。
2	家庭支援の全体像	現代社会において家族が抱える問題について、その特性を説明することができる。
3	親になるプロセス	発達に応じた家族の役割について乳幼児期における家族の姿やその問題点について理解説明することができる。
4	乳幼児期における家庭支援の意味	乳幼児期における保育者の役割、姿勢について、保育スキルを用いた現場での事例から考察する。
5	保育所・幼稚園における家庭支援	保育所における家庭支援の手段や方法、その実際について様々な子育て支援について説明することができる。
6	障害のある子どもと家庭への支援①	障害のある子どもを育てている保護者が抱える問題について説明することができる。
7	障害のある子どもの家族への支援②	障害のある子どもを育てている保護者への支援の実際について事例を検討しながら理解する。
8	障害のある子どもと家族への支援③　DVD視聴	障害のある子どもを育てている保護者への支援の在り方についてDVDをヒントに考察する。
9	家庭支援の実際①	ロールプレイを通して支援の方法を学ぶ。
10	家庭支援の実際②	ロールプレイから具体的な援助計画が作成できるようになる。
11	家庭支援の実際③	個別的な家庭支援の必要なケースにおける展開過程と評価、終結について理解する。
12	ペアレントトレーニングの実際①	ペアレントトレーニングのプログラムに基づいた目標設定の方法について理解する。
13	ペアレントトレーニングの実際②	ペアレントトレーニングのプログラムに基づいた行動と評価の方法について理解する。
14	ペアレントトレーニングの実際③	ペアレントトレーニングのプログラムに基づいた計画を作成することができる。
15	これからの保育者の専門性　家庭支援とは	これからの保育者に求められるスキル、固有の理念について今後の展望について説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉				
担当者氏名	藤野　ゆき				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。

《授業の到達目標》
・社会福祉の意義、理念について考えることができる。
・社会福祉の法制度、体系を踏まえた上で、社会福祉援助技術を実行できる。

《成績評価の方法》
毎回の講義ごとの小レポート40%、　試験60%

《テキスト》
『社会福祉の成立と課題』井村圭壮・相澤譲治、勁草書房、2012

《参考図書》
必要に応じて随時紹介する。

《授業時間外学習》
次回講義予定範囲の予習し、受講に対する考えをまとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の成立と理念	社会福祉の成立過程と理念を理解し、社会福祉の全体像を概観する。
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の目的、対象、主体、ニーズの変容を理解する。
3	社会福祉従事者	社会福祉従事者の概要、専門性と倫理、関連する専門職について説明することができる。
4	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史展開を理解する。
5	社会福祉の法体系	社会福祉に関連する法体系を理解することができる。
6	公的扶助	公的扶助の概要と保護の実態を理解する。
7	高齢者福祉	高齢者福祉の基本的な制度を理解する。
8	障害者福祉	障害者福祉の基本概念を理解し、各種社会制度の現状を理解する。
9	児童家庭福祉①	児童家庭福祉をとりまく現状を理解する。
10	児童家庭福祉②	児童家庭福祉に関わる現状と課題を理解する。
11	社会福祉援助技術①	社会福祉援助技術の形態を理解する
12	社会福祉援助技術②	社会福祉援助技術の動向を理解する
13	利用者保護制度の概要①	利用者保護制度の目的と仕組みを理解する
14	利用者保護制度の概要②	第三者評価と情報提供を理解する
15	まとめ	講義の振り返りを行う

《学科教育科目》

科目名	相談援助				
担当者氏名	丸目　満弓				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせて、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《授業の到達目標》
①相談援助の基本的な知識を身につける
②保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
③援助者として必要な実践力を身につける。

《成績評価の方法》
筆記試験　80%
単元ごとに課すレポート　10%
小テスト　10%

《テキスト》
赤木正典、大西雅裕編著「相談援助セミナー」建帛社
（発行年月日：2012年4月10日）

《参考図書》
なし

《授業時間外学習》
新聞に目を通すなどして、保育や福祉分野で何が起こっているのかを把握するよう努めてください。
そして、日頃から複眼的な視点でものごとを捉える“クセ”をつけて下さい。
復習がとても大切です。

《備考》
授業では受け身ではなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する。
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える。
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ。
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ。
5	対人援助の原則	相談援助における対人援助の原則について学ぶ。
6	ソーシャルワーク実践の方法	ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ。
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える。
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ。
9	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ。
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ。
11	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ。
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ。
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる。（筆記試験実施）

《学科教育科目》

科目名	相談援助				
担当者氏名	大倉　高志				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせて、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《授業の到達目標》
①相談援助の基本的な知識を身につける
②保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
③援助者として必要な実践力を身につける。

《成績評価の方法》
筆記試験　80%
単元ごとに課すレポート　10%
小テスト　10%

《テキスト》
適宜、授業の中で必要な資料を配布する。

《参考図書》
適宜、授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》
新聞に目を通すなどして、保育や福祉分野で何が起こっているのかを把握するよう努めてください。
そして、日頃から複眼的な視点でものごとを捉える“クセ”をつけて下さい。
復習がとても大切です。

《備考》
授業では受け身ではなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する。
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える。
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ。
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ。
5	対人援助の原則	相談援助における対人援助の原則について学ぶ。
6	ソーシャルワーク実践の方法	ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ。
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える。
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ。
9	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ。
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ。
11	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ。
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ。
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる。（筆記試験実施）

《学科教育科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	三浦　摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

教育の意味や意義および人間形成の過程と環境の関わりについて学ぶことを通して「教育とは何か」について理解する。さらに、教育の目的・目標と教育の内容や方法との関連性を把握できるようにすることで、意図的教育の役割と人間（特に幼児期の子ども）理解の有機的な連関について学ぶことができるようにしたい。また、幼児教育の歴史を支えてきた思想家の教育論と実践にも目を向けるようにしたい。

《授業の到達目標》

人間にとって「教育」は必須で不可欠なものである。つまり教育は、生命を維持し生活力（知識や技能）を身につけるための基礎を培うことから、さらに人間性の涵養に至る全人格の育成に関わる営みであると言える。この巨視的にして普遍的な教育の働きについて理解するとともに、人間形成の土台にあたる幼児期の教育について、原理的な観点から考察することで人間教育への洞察を深めたい。

《成績評価の方法》

平常評価（授業内の課題やレポート課題）40%と学期末のまとめの課題テスト60%で評価する。

《テキスト》

岸井勇雄編著『幼児教育の原理』同文書院

《参考図書》

村上泰治編著『幼児教育学』学文社
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

・テキストやノートを読むことで予習復習し、学習内容の理解と定着を図る。
・平常のレポート課題をまとめる。

《備考》

基本的にはシラバスの内容と順序に即して授業を進めるが、進行状況によって若干内容に変更が生じる場合がある。また、出席と平常の課題提出を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 教育とは何か	授業の進め方について 「教育」について客観的な視点をもつ＝「問い」つつ理解することについて学ぶ。
2	教育の意味と意義について	「人間の教育」という普遍的な観点から「教育とは何か」について考察する。 また、教育の字義から教育の意味や意義について理解する。
3	人間の成熟や発達と教育の関係について	人間形成の過程と環境との関係性について理解する。
4	人間の社会化と教育の関係について	社会化の過程としての学習と教育の役割について学ぶ。
5	教育の目的・目標について	教育における目的・目標の意味と機能を理解する。また、幼児期の教育および学校教育の目的・目標の内容とそれらを規定する教育法規を把握する。
6	教育内容と方法について	教育の目的・目標と内容や方法の関連について学ぶ。とくに幼児教育における「領域」の概念と保育活動の特質や意義について理解できるようにする。
7	教育課程と保育の展開について(1)	幼児期における教育課程の意義と役割について学ぶとともに、保育形態と保育活動の展開(事例1)に照らしてそれらを理解できるようにする。
8	教育課程と保育の展開について(2)	保育形態と保育活動の展開（事例2）を通して、幼児教育の教育課程について理解することができるようにする。
9	幼児理解と支援について（1）	幼児理解と支援の基本的な観点について学び、保育活動のなかの指導と援助のあり方について考察する。
10	幼児理解と支援について（2）	幼児理解と支援について、観察法や記録方法から学ぶ。
11	幼児教育の思想と歴史(1)	西洋における近代教育と幼児教育の源流 コメニウスの教育論を通して体系的な教育について学ぶ。
12	幼児教育の思想と歴史(2)	ルソーの教育論を通して自然の教育や幼児期固有の教育のあり方について学ぶ。 ペスタロッチの教育論から人間の認識力の育成について学ぶ。
13	幼児教育の思想と歴史(3)	フレーベルの教育論から幼児期の信頼感の形成や遊びの意義について学ぶ。 デューイの教育論を通して経験主義に基づく教育について学ぶ。
14	幼児教育の思想と歴史(4)	日本における幼児教育草創期の保育事業と倉橋惣三の幼児教育論を通して、この時期の保育内容の展開の変遷や保育活動の体系化の歴史について理解する。
15	予備およびまとめ	まとめの課題テストを通して学習の定着を図る。

《学科教育科目》

科目名	保育原理Ｂ				
担当者氏名	三浦　摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

歴史的に行われてきた保育実践、および、現代の保育活動と幼児理解について考察する。とくに、フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナーらの古典的な保育理念と保育方法論について学び、それらが今日も生き続けていること、また、日本の保育実践にも影響を与えてきたことについて理解できるようにしたい。さらに、現在の保育の課題についても洞察できるようにする。

《授業の到達目標》

1.保育理念や保育形態について学ぶことで、保育形態を保育実践へとつなげていくという意識をもつことができるように努める。それぞれ歴史的な保育実践家の保育観に支えられた保育実践と遊具や教具について理解する。2.保育活動の事例を通して、保育の課題について理解できるように努める。あわせて現在の保育を取り巻く諸課題への認識が広がるように努める。

《成績評価の方法》

平常の提出物（40%）および授業最終日のまとめの課題提出（60%）をもって総合的に評価する。

《テキスト》

適宜資料を配布する。また、各自、授業に関する自筆のノートを仕上げ、授業のまとめ課題テストに臨むことができるようにする。

《参考図書》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

自筆ノートや資料、参考図書をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。また、授業内で出された課題に取り組むようにする。

《備考》

平常の課題提出や出席を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス・保育の意義と保育状況の創出(1)	授業の進め方について 保育の意義を再認識し、保育活動が展開される場の状況という視点について理解する。
2	保育の意義と保育状況の創出(2)－遊びの活動	保育活動が展開される場の状況について、自由遊びの場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
3	保育の意義と保育状況の創出(3)－遊びの活動	保育活動が展開される場の状況について、設定保育の場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
4	保育の意義と保育状況の創出(4)－生活力の形成	保育活動が展開される場の状況について、生活に関する活動の場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
5	保育の意義と保育状況の創出(5)－園外保育	保育活動が展開される場の状況について、園外保育や安全保育に関する保育活動の場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
6	幼児理解と支援のあり方について－事例(1)	幼児の描画を通して見た幼児の育ちと保育者の関わりについて洞察を深める。
7	幼児理解と支援のあり方について－事例(2)	保育活動の事例を通して幼児と保育者の関わり方について考察する。
8	現代に生きる保育実践1.フレーベルの幼児教育	保育の歴史のなかで重要な位置を占める保育思想と保育実践に学ぶ。 フレーベルの幼児教育の原理と方法
9	フレーベル主義の保育実践例	現在に生きるフレーベル主義の保育活動の事例に学ぶ。 恩物を用いた保育活動と幼児の育ち
10	現代に生きる保育実践2.モンテッソーリの方法	保育の歴史のなかで重要な位置を占める保育思想と保育実践に学ぶ。 モンテッソーリの幼児教育の原理と方法
11	モンテッソーリの保育実践例	現在に生きるモンテッソーリ主義の保育活動の事例に学ぶ。 モンテッソーリの教具と保育の5領域
12	現代に生きる保育実践3.シュタイナーの保育論	保育の歴史のなかで重要な位置を占める保育思想と保育実践に学ぶ。 シュタイナー主義の保育理論と幼児の育ち
13	シュタイナー主義による保育実践例	ホメオパシーにもとづく小集団を単位とした保育活動と芸術活動を核とした保育実践
14	現代保育の課題について	安全教育、健康教育、連携保育について理解を深める。
15	まとめと課題	まとめの課題作成

《学科教育科目》

科目名	保育相談支援				
担当者氏名	高見　スマ子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
本授業では「保育指導」業務を支える原理並びに専門技術を学び，実際の活用方法を学習する。保育相談支援の意義と基本，援助技術，展開過程，評価，実施体制等を学び，保育所等児童福祉施設において実践できるよう学習する。

《テキスト》
別途指示

《参考図書》
授業中適宜紹介する。

《授業の到達目標》
○保育相談支援の意義と原則，保育相談支援の基本を理解し，主体的に考え，実践できる。
○保育相談支援の実際を学び，内容や方法を理解し，保育所等児童福祉施設において保護者支援ができる。

《授業時間外学習》
授業前にテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》
授業中に課すレポートおよび小テスト（20%）
筆記試験（80%）

《備考》
保育実習での経験を生かせられるよう，実習ノート等を活用してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育相談支援の意義と基本的視点‐1	保育相談支援とは何か，保育士の業務と相談支援
2	保育相談支援の意義と基本的視点‐2	保育相談支援の原理，保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係
3	保育相談支援の基本‐1	保育相談支援の価値と倫理，信頼関係を築く受容と自己決定の尊重
4	保育相談支援の基本‐2	子どもの最善の利益の重視，保護者とともに子どもの成長を喜び合う，保護者の養育力の向上に資する支援，他の社会資源との連携・協力
5	保育相談支援の展開‐1	保育を基盤とした保育相談支援，保育相談支援の方法と技術
6	保育相談支援の展開‐2	保育相談支援の展開過程，保育相談支援の実施体制
7	環境を通した保育相談支援‐1	環境を通した保育と保育相談支援，保護者との信頼関係を形成する環境，保護者の日常生活を支える環境
8	環境を通した保育相談支援‐2	保護者の子ども理解を促す環境，家庭の暮らしを支える環境，子どもが育つ環境モデルとしての保育所
9	保育所利用児童の保護者への保育相談支援‐1	保育相談支援の実践事例と解説，保育相談支援の場面
10	保育所利用児童の保護者への保育相談支援‐2	保育相談支援の手段，保育相談支援の評価，特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
11	地域子育て支援における保育相談支援－1	保育所における地域子育て支援における保育相談支援，保育相談支援の実践場面
12	地域子育て支援における保育相談支援－2	保育所における保育相談支援の手段，保育相談支援の評価
13	児童福祉施設における保育相談支援‐1	保育相談支援の特性，保育相談支援の実践内容
14	児童福祉施設における保育相談支援‐2	保育相談支援の実践事例と解説，保育相談支援の評価
15	まとめ	演習課題に取り組み，学習内容の成果を確認する。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	藤井　惠美子、黒崎　令子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

教育実習に必要な知識、実践技能を総合的に身につける。これまでに学習した関連科目の内容の理解を図り、教育実習生として必要な心得や行動、幼児教育の実際に携わる素地を身につけるとともに、保育者としての責務を理解する。幼稚園見学・観察実習を振り返り、保育者としての課題を明確にしながらより実践的な保育技術を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

○指導計画の立案と計画に基づいた保育のあり方を理解し、実践力を身につける。
○保育実践に必要な教材の準備と教材研究を十分にする。

《成績評価の方法》

・実習園における評価　70%
・授業中に課す提出物　10%
・発表内容、模擬保育等への参加と成果　20%

《テキスト》

『幼稚園教育要領』文部科学省　2008年
『実習日誌の書き方』相馬和子・仲田カヨ子（編）萌文書林
『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・授業では沢山の教材・教具を紹介します。各自、保育に活かせる教材・教具を計画的に収集してください。
・適宜課題を出します。その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。
・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べたりしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を遵守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼稚園参加・指導実習について	教育実習の心得 (1)目的と意義
2	幼稚園参加・指導実習について	教育実習の心得 (2)準備と心得VTR「子どもと共に深める」を視聴し実習にむけての準備と心得を再確認
3	教育課程・指導計画(1)	指導計画作成と実際（3歳児） ・子どもの発達の姿を理解する。　・各園の実践事例から学ぶ。
4	教育課程・指導計画(2)	指導計画作成と実際（4歳児） ・子どもの発達の姿を理解する。　・各園の実践事例から学ぶ。
5	教育課程・指導計画(3)	指導計画作成と実際（5歳児） ・子どもの発達の姿を理解する。　・各園の実際事例から学ぶ。
6	幼稚園参観	附属加古川幼稚園を参観（3・4・5歳児）し視点に沿った記録をとることができる。 ・環境構成　・幼児の活動　・教師の援助
7	指導計画作成	模擬保育の指導計画作成と教材研究をする。
8	模擬保育(1)	模擬保育の展開と反省・評価をする。
9	模擬保育(2)	模擬保育の展開と反省・評価をする。
10	模擬保育(3)	模擬保育の展開と反省・評価をする。
11	模擬保育(4)	模擬保育の展開と反省・評価をする。
12	実習にむけて	マナー講座を受講し、実習生としてのあり方を学ぶ。
13	教育実習事前指導①	幼稚園参加･指導実習について ・実習日誌の書き方について（観察実習時）・個人票作成
14	教育実習事前指導②	幼稚園参加･指導実習について ・実習日誌の書き方について（部分実習時）　・オリエンテーションへの準備
15	教育実習事前指導③	幼稚園参加指導実習について ・実習日誌の書き方（全日実習時）Ⅰ期のまとめ

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	藤井　惠美子、黒崎　令子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

保育実習の必要な知識、実践技能を総.的に身につける。事前指導においては、実習生として謙虚に学び、学ぶべきことを理解する。また、意欲を持って取り組めるようにする。さらに、これまでに学習した関連科目の内容の総合的理解を図り、保育者としての責務を理解する。事後指導においては、実習を振り返り、学んだこと、自分自身の課題を明確にし、保育者としての資質向上に意欲を持つことを目的とする。

《授業の到達目標》

○教育実習に必要な態度や行動、幼児の指導や学級経営に携わる素地を身につける。
○保育実践を通して幼児への関わりや保育内容についての理解を深める。
○保育者としての立場や責務を理解する。

《成績評価の方法》

・実習園における評価　70%
・授業中に課す提出物　10%
・発表内容、模擬保育等への参加と成果　20%

《テキスト》

『幼稚園教育要領』文部科学省　2008年
『実習日誌の書き方』相馬和子・仲田カヨ子（編）萌文書林
『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・授業では沢山の教材・教具を紹介します。各自、保育に活かせる教材・教具を計画的に収集してください。
・適宜課題を出します。その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。
・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べたりするようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を遵守し、積極的、意欲的に授業に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導④　実習に向けて	幼稚園参加・指導実習について、「ＯＢ・ＯＧ懇談会」を通して、将来を見据えて実習に臨むことの大切さや、実習への意欲を持つことができる。
2	事前指導⑤　実習の心得	幼稚園参加・指導実習について （持ち物、服装、実習中の態度など、実習生のあり方）
3	事後指導①	実習後の反省と課題・参加・指導実習を終えて （自己評価と反省と課題）　・実習園への礼状
4	事後指導②	実習後の反省と課題 ・グループ討議をする　・各グループの発表①
5	事後指導③	実習後の反省と課題・各グループ発表をする② 自己課題へむけて、各自の今後の取り組みを明確にする。
6	保育事例研究（1）	保育の実践事例を（ビデオ視聴）視点をもって観察し、グループで討議する。 全体で討議内容を発表し、学びを相互に共有する。
7	保育事例研究（2）	保育の実践事例を（ビデオ視聴）視点をもって観察し、グループで討議する。 全体で討議内容を発表し、学びを相互に共有する。
8	実践演習①　指導案作成	グループに分かれて、時期、学年・子どもの実態に即した指導案を作成する。
9	実践演習②　指導案作成と教材研究	グループ毎に協働し、教材研究をする。
10	実践演習③　教材研究	指導案の細案を考え、学生同士協力しあって子どもの興味・関心に沿った保育を組み立てていく。
11	模擬保育①	各グループ毎に、模擬保育の展開と反省・評価をする。
12	模擬保育②	各グループ毎に、模擬保育の展開と反省・評価をする。
13	幼稚園実習	附属加古川幼稚園において、教育実習での学びを附属加古川幼稚園で各学年で実習し、実践力をさらに養う。
14	実習について	実習の反省評価をし、各自の今後の保育へ繋げていく。
15	学修のまとめ	教育実習の 2年間のまとめと今後の課題

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ　《保育実習》				
担当者氏名	石川　恵美、澤田 真弓				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
保育所生活に参加し、習得した教科全体の知識や技能を基礎とし、これらを総合的に実践する能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理論と実践の関係を学ぶ。

《授業の到達目標》
既習の教科や保育実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所の役割や機能についてさらに理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。又、指導計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み理解を深め、保育士としての自己の課題を明確にする。

《成績評価の方法》
実習に対する意欲や態度、子どもとの関わり、記録や保育計画の理解等に関しての評価項目に従い、実習園にて評価票が作成される。その評価に保育実習指導Ⅱの受講状況を加味し、実習ノートを精査して総合的に評価する。なお保育実習Ⅱは保育所２週間をクリアしないと単位認定されない。

《テキスト》
特になし。実習の中で自分で探すこと。

《参考図書》
各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先でも紹介してもらうこと。

《授業時間外学習》
実習Ⅰでお世話になった保育園の行事などに積極的に参加し、保育園の役割や機能について理解を深めておくこと。ピアノはしっかりと弾けるように練習し、子どもの前であがらないようにしておくこと。あそび等のレパートリーを増やしておくこと。

《備考》
実習中アルバイトは禁止。健康管理に気をつけること。欠席等は実習園と学校に連絡すること。保育内容については、実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所の役割と機能について理解する	保護者の勤務時間に合わせた長時間保育、延長保育などを経験する
2	保育の理解を深める	擁護と教育が一体となった保育を理解する－保育所の生活の流れや展開を把握する
3		早朝から登所し夕方退所する子どもの心身の状況や活動を観察し、保育士の動きや実践を観察する
4	指導計画を作成する	保育課程に基づく指導計画の作成・省察・評価という保育の過程を理解する
5		作成した指導計画に基づく保育実践と評価を経験する
6	保護者・家庭への支援と社会等の連携を学ぶ	生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する
7		入所している子どもの保護者や地域への子育て支援を学ぶ
8		保育所が社会とどのように連携をしているのかを学ぶ
9	保育士の役割を理解する	多様な保育展開と保育士の業務内容について学ぶ
10		多様な保育展開と保育士の職業倫理を学ぶ
11		保育士になるための自己の課題を明確にする
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ　《保育所実習》				
担当者氏名	石川　恵美、澤田 真弓				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
保育所見学観察実習で学んだことを基礎に、保育活動への参加を通して、保育所・保育士の役割について実践的に学ぶ。学内では、保育実習Ⅰの実践、反省を通して、保育についてより具体的に理解を深める。

《授業の到達目標》
○保育活動に参加し実践することで、深く保育士の仕事を理解する。
○保育活動の一部を担当し、保育研究をする事で保育計画作成力を身につける。
○２年間の実習を通して保育士になることへの方向性を持つ。

《成績評価の方法》
事前指導（30%）事後指導（30%）実技（20%）提出物（20%）とする。なお、保育実習Ⅱと同時に成績評価される。

《テキスト》
『保育所保育指針解説書』
保育ライブラリィ『保育所実習』北大路書房
（１年次購入済み）

《参考図書》
『保育資料2012』森上史朗編（ミネルヴァ書房　2011）
その他、適宜講義時に紹介する

《授業時間外学習》
○実習Ⅰ時のノート・プリントをよく読んでおくこと
○実習を振り返り、反省と課題を考えておくこと
○子ども理解（発達など）について復習し、手遊び、読み聞かせなどを実践しておくこと

《備考》
講義時の遅刻・欠席は厳禁。服装・態度も実習に適したものであること。欠席の場合は、必ず学科事務室に連絡し、後日補講を受けること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習反省会	保育所参加指導実習実施願回収個人票回収
2	保育所参加指導実習の意義と手続き	見学観察実習の学びと自己反省－実習課題について①
3	参加指導実習の心構え	見学観察実習の学びとと自己反省－実習記録の振り返り　私立園は連休までに挨拶に行く（オリエンテーション）
4	参加指導実習に向けて１	記録の書き方（実習ノート）　公立保育所の実習先を順次発表（オリエンテーション）
5	参加指導実習に向けて２	指導計画、週、日案作成についてⅠ
6	参加指導実習に向けて３	指導計画、週、日案の作成についてⅡ
7	参加指導実習に向けて４	研究保育の教材研究Ⅰ　実習保育所における実習計画に基づく　細菌検査実施、細菌容器配布、書類の配布
8	参加指導実習に向けて５	研究保育の教材研究Ⅱ
9	参加指導実習に向けて６	実習に向けての注意事項の確認　書類確認（実習費・領収書・評価表、出席表他）
10	参加指導実習を終えて１	反省会（グループ）　小グループによる反省・討議
11	参加指導実習を終えて２	反省会（全体）　グループ討議の発表
12	参加指導実習を終えて３	保育所及び保育をより深く理解する①　保育所の歴史と課題（働く女性と保育所）
13	参加指導実習を終えて４	保育所及び保育をより深く理解する②　保育所の歴史と課題（子育て支援）
14	参加指導実習を終えて５	望ましい保育者像①　実習を通して理想とする保育者像を考える
15	参加指導実習を通して６	望ましい保育者像②　現場の保育士の声を聞く

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅲ　《施設実習》				
担当者氏名	小林　洋司、杣山　貴要江				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（①受容し，共感する態度，②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解，③個別支援計画の作成と実践，④子どもの家庭への支援と対応，⑤多様な専門職との連携，⑥地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己課題を明確にする。

《授業の到達目標》
児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて，児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに，保護者支援，家庭支援のための知識，技術，判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》
施設の評価票に基づく評価（60%），学習の成果の表れである実習ノート等（40%）。

《テキスト》
『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい，2011

《参考図書》
『最新保育資料集2011』子どもと保育総合研究所監修，ミネルヴァ書房，2011

《授業時間外学習》
万全の体調で実習に臨めるように，実習10日前から検温し，自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで，著しく体力を損なう可能性が高いので，生活のリズムを整えることに尽力し，実習に集中できるよう努める。

《備考》
「保育実習指導Ⅲ」においての諸注意に気を配り，必要に応じて学科事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則，　1日　8時間　×10日間，　80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅲ　《施設実習》				
担当者氏名	小林　洋司、杣山　貴要江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を生かして，福祉施設（通園施設，利用施設を含む）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め，家族を含めた家庭支援のための知識や技術，判断力を養う。

《テキスト》
『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい，2012

《参考図書》
『最新保育資料集2012』子どもと保育総合研究所監修，ミネルヴァ書房，2012その他，実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》
○子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解ができる。
○子どもの状態に応じた適切なかかわりができる。
○保育士の専門性を生かした支援ができる。
○職業倫理を理解し，実践できる。
○事後指導における実習の総括と評価ができる。

《授業時間外学習》
実習施設の種別に応じた課題を出しますので，図書館，インターネット等を活用して調べ，まとめてください。

《成績評価の方法》
事前指導：実習計画書の作成等（50%），事後指導：報告書の作成等（50%）

《備考》
全出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は，学科事務室に連絡してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育士資格の取得における「保育実習Ⅲ」の位置づけ，「保育実習Ⅲ」の目標と内容
2	実習施設の選定	対象となる実習施設等，施設における支援の具体的内容
3	事前指導 - 1	事前学習の内容，実習施設の理解，施設を利用する児童の理解，安全と疾病予防
4	事前指導 - 2	保育士と権利保障，実習書類の作成
5	事前指導 - 3	保育士とソーシャルワーク
6	事前指導 - 4	保育士と地域社会とのかかわり
7	事前指導 - 5	実習計画書の作成
8	事前指導 - 6	実習計画書の作成，実習施設でのオリエンテーション
9	事前指導 - 7	実習当日までにやっておくこと
10	事前指導 - 8	実習報告書の書き方・提出方法について，実習報告書の作成
11	事後指導 - 1	施設保育士と児童福祉施設
12	事後指導 - 2	「保育実習Ⅲ」の評価とまとめ
13	事後指導 - 3	実習報告会の準備
14	事後指導 - 4	実習報告会
15	事後指導 - 5	保育士資格と進路

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学Ⅱ				
担当者氏名	杉田　律子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを考える。

《授業の到達目標》
○子どもの心身の発達と保育実践について理解すること。○普段の生活と遊びを通した学びのプロセスについて理解すること。○子どもの発達を支援する働きかけについて理解すること。○発達を理解したうえで、子ども観および保育観を形成し、それに基づいた保育計画を立てる実践力をつけること。○子どもの生涯にわたる発達について考える広い視野を身につけること。

《成績評価の方法》
第15回目に行う試験の評価７０％
授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組み等の評価３０％

《テキスト》
『新保育ライブラリ　子どもを知る　保育の心理学Ⅱ』
清水益治・無藤隆（編著）　北大路書房　2011

《参考図書》
『シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』　本郷一夫（編）　建帛社　2011,『発達心理学で読み解く保育エピソード―保育者を目指す学生の学びを通して』　若尾 良徳・岡部 康成　北樹出版　2010、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』　岡本依子ら著　新曜社　2004

《授業時間外学習》
参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目する、ボランティア活動などして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
まずは、自分の生活態度を改めるなど、身近なところから保育者としての実践力を身につける努力をしてください。

《備考》
授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	発達の個人差	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。保育においての評価の在り方についても考える。
3	環境の重要性と環境としての保育者	子どもたちの発達にとって環境がどれだけ重要であるかを再認識するとともに、保育者という人的環境の重要性について学ぶ。
4	環境としての保育者となる自分自身を知る	将来保育者となる自分はどのような特徴をもった人間なのか、特に人との関わり方にどのような特徴があるのか。心理検査に答えることを通して自己理解を深める。
5	仲間との関わりと集団保育の意義	社会性の発達に焦点を当て、仲間との関わりの中で子どもは理解することを学ぶ。集団の構造と機能について学び、集団生活の中での経験の重要性を学ぶ。
6	気になる子どもへの支援～その１	集団の中で気になる子どもへの支援について考える。養育環境、障害、異文化など諸問題への基本的理解を深めるとともに、気になる子どもへのアプローチの基本を学ぶ。
7	気になる子どもへの支援～その２	気になる子どもが在籍するクラスの保育を想定した保育案を立て、保育内容、留意事項を考えることから、集団の中で気になる子どもへの支援について考える。
8	保育者同士の人間関係、保育者の協働	保育者集団に関して、リーダーシップを鍵概念とし、ロールプレイを通して学ぶ。また保育者たちが1つのチームとなり、協働する必要があることを学ぶ。
9	子どもの生活と学び	「学習」とは何かについて学ぶとともに、子どもたちは日常生活で何をどのようにして「学習」するのかについて学ぶ。
10	生活習慣の獲得とその援助	子どもたちが基本的生活習慣を獲得していくに際して、保護者や保育者はどのように援助すればよいのかを「学習」の観点から学ぶ。
11	遊びと学び	子どもたちの発達にとって遊びがいかに重要かを再認識するとともに、子どもの遊びに保育者はどのように関わっていけばよいかを学ぶ。
12	生きる力の基礎を培う	「生きる力」とはどのような力を指すのか、という問いに対する回答を探るとともに、そのような力はどのようにして身についていくのか考える。
13	援助する者と援助される者	援助者と被援助者の役割を実際に体験することを通して、援助する者として配慮すべきことに気づき、援助される者の気持ちを理解する。
14	就学への支援～発達の継続性	幼児教育と初等教育との継続性、さらには就業など生涯にわたる継続性について理解する。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
人は生まれてから実にたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》
教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》
15回目に行う試験の評価100%。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》
『やさしい教育心理学[改訂版]』鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著) 有斐閣 2005
『よくわかる教育心理学』中澤潤(編) ミネルヴァ書房 2005
『よくわかる発達障害　第2版』小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》
参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》
授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	環境の重要性	人間の人間としての発達にとって、生まれてからの環境・経験・学習がいかに重要かを再認識する。
3	学習の心理学～その１	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズム（古典的条件づけと道具的条件づけ）について学ぶ。
4	学習の心理学～その２	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
5	学習の心理学～その３	モデリングと自己強化という学びの形態について学ぶ。
6	記憶の心理学～その１	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その２	子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習への動機づけ～その１	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
9	学習への動機づけ～その２	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
10	教授法	学習指導の形態や教授法について学ぶことを通して、効果的な教え方について考える。
11	学級集団	リーダーシップ、ならびに集団への同調という問題について学ぶ。
12	集団の心理	ミルグラムの服従実験を詳細に紹介する。権威的人物に対する服従というテーマについて考える。
13	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	青年心理学				
担当者氏名	森田　義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
子どもから大人への過渡期にある青年のこころを、自我、自己意識の発達や自己形成という観点から理解し、青年の自立と成長への支援とは何かを考える。

《テキスト》
使用しない

《参考図書》
授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》
＊青年のさまざまな行動の背景にある心理を理解できる
＊青年期にある人たちの悩みや問題に向き合うことが出来る
＊青年期にある人たちの悩みや問題について、相談に乗ったり、解決への支援が出来る

《授業時間外学習》
青少年の関係する事件や出来事、自身の周辺で生じた事件、出来事だけでなく、青少年に関係するメディアからの情報をも記録しておき、授業で学んだ理論や考え方などに照らし合わせてみる。

《成績評価の方法》
試験100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション青年期とは	教員紹介　授業の進め方　子どもから大人へ　過渡期　青年性　世代性　個別性　青年期の課題
2	青年期のとらえ方	生物的現象　文化的現象　文化相対主義　通過儀礼
3	青年心理学の研究法	横断的研究　縦断的研究　調査法　実験法　　テスト法　事例研究法
4	青年期前期の心的特性１	自我の覚醒　自我の構造と機能　エゴグラム　内面化　　自己概念の形成
5	青年期前期の心的特性２	不安定性　第 2次性徴　思春期発育　生活空間　共有世界と個有世界
6	青年期前期の心的特性３	自主自律の要求　心理的離乳　脱衛星化　関係の再編
7	青年期中期の心的特性１	自我の高揚　理想主義　価値観　　第２の反抗　異議申し立て　英雄的犯行　虚勢的犯行
8	青年期中期の心的特性２	感情の論理　形式操作期　感情とは　理性と感情　アレキシシミア
9	青年期中期の心的特性３	青少年期の病理　反社会的行動　非社会的行動　　向社会的行動
10	青年期後期の心的特性１	自我の拡充　　現実との妥協　　再衛星化　　リーウェイ現象
11	青年期後期の心的特性２	生活設計の開始　職業観　キャリア意識　キャリア設計　結婚観
12	青年期後期の心的特性３	社会的人格の形成　エリクソンの斬成説　アイデンティティ（自我同一性）の確立/拡散
13	青年期後期の心的特性４	アイデンティティの地位　モラトリアム
14	青年から成人へ	結婚　家族の形成　一家を構える　人格の変容
15	まとめ	いままで学習した内容をどの程度理解できているかを検証する

《学科教育科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	笹田　哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
明治以降の日本教育制度史を学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度について検討を加えていく。

《授業の到達目標》
1 近代以降の日本の教育制度史についての知識を獲得する。
2 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
3 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

《成績評価の方法》
第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《テキスト》
『要説教育制度【三訂版】』森秀夫、学芸図書、2008

《参考図書》
授業中、その都度、紹介する。

《授業時間外学習》
授業中、その都度、指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型などについて説明することができる。
2	近代以降の日本教育制度（1）	明治期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
3	近代以降の日本教育制度（2）	大正期、昭和(戦前)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
4	近代以降の日本教育制度（3）	昭和(戦後)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
5	現代日本の教育制度（1）	現代日本の保育制度、保育行政について説明することができるとともに、その課題について検討することができる。
6	現代日本の教育制度（2）	現代日本の初等教育制度、初等教育行政について説明することができるとともに、その課題について検討することができる。
7	現代日本の教育制度（3）	現代日本の中等教育制度、中等教育行政について説明することができるとともに、その課題について検討することができる。
8	現代日本の教育制度（4）	現代日本の高等教育制度、高等教育行政について説明することができるとともに、その課題について検討することができる。
9	現代日本の教育制度（5）	現代日本の社会教育制度、社会教育行政について説明することができるとともに、その課題について検討することができる。
10	現代日本の教育制度（6）	現代日本の教員養成制度について説明することができるとともに、その課題について検討することができる。
11	現代日本の教育行財政制度	現代日本の教育行財政制度を体系的に説明することができるとともに、その課題について検討することができる。
12	学校、教職員と教育法規（1）	現代日本の学校教育についての関係法規を、体系的に説明することができる。
13	学校、教職員と教育法規（2）	現代日本の教職員についての関係法規を、体系的に説明することができる。
14	海外主要国の学校制度	海外主要国の学校制度を、日本の学校制度と比較しながら考察し、その特質について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	教師・保育者論				
担当者氏名	前田　美智代				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、１年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》
○教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
○教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
○保育者像を形成することの意義を理解する。

《成績評価の方法》
〔1〕授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 20%
〔2〕レポート課題等の提出物 30%（提出遅れは、減点）
〔3〕筆記試験 50%

《テキスト》
『改訂保育者論第2版』民秋言編著　建帛社

《参考図書》
『幼稚園教育要領』　文部科学省　　『保育所保育指針』　厚生労働省　　その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》
（1）次回の授業範囲を予習しておきく。
（2）出題課題について調べたり、まとめたりする。
（3）授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめる。

《備考》
・幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておく。
・教科書は必ず持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション目指す保育者像	授業の進め方・評価方法などのガイダンス　現時点で考え、目指す保育者像
2	保育するということ	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について深く学ぶ。
3	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
4	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
5	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。＜視聴覚教材＞
7	保育者の専門性③	保育所における保育者の役割について理解を深める。
8	保育者の専門性④	保育士の実践活動を通して、保育士の専門性について深く理解する。＜視聴覚教材＞
9	法と保育者①	法的･制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し､法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者②	保育者の研修は､職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育者への学習課題①	討議「保育者のイメージと自己認識」
12	保育者への学習課題②	討議「保育者の専門職性」
13	保育者への学習課題③	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親、園、社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果をまとめる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康				
担当者氏名	米田　妙子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
「健康」は、日々の保育の大半を占める領域であり、子どもの生活そのものである。そのため、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、指導のあり方を考えていきたい。

《テキスト》
『保育内容・健康』近藤充夫編著（建帛社）
『保育所保育指針』
『幼稚園教育要領』

《参考図書》
必要に応じ、資料を配布する。

《授業の到達目標》
・領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解する。
・乳幼児の心身の発育・発達について基礎的知識を身につける。
・子どもの健康をめぐる問題を知り、その支援策を探る。
・乳幼児の遊びの発達を知り、小型遊具を作製する。
・乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、指導法を身につける。

《成績評価の方法》
筆記試験（60%）・提出物（20%）・授業態度（20%）で評価する。

《授業時間外学習》
・教科書、資料等の指定箇所を読んでおくこと。
・授業内容を再確認すること。
・子どもに関するニュース・記事、「健康」に関するニュース・記事等を記録しておくこと。

《備考》
・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
・提出物は期限厳守。
・製作用具は必ず用意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 健康の定義について	・講義の概要、授業のすすめ方、履修上の諸注意。 ・ＷＨＯの健康の定義やその他の考え方から、［健康］について考えてみる。
2	領域「健康」について	・保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている［健康］のねらい・内容を理解する。
3	子どものからだと健康	・乳幼児期の体格の発達や生理機能の特徴を理解する。
4	子どものからだと健康	・運動能力の発達や「動き」の獲得の過程を理解する。
5	子どものからだと健康	・生活習慣の形成を、身体諸機能の発達の面から理解する。
6	子どもの心と健康	・母子相互作用が、心の健康にとっていかに重要かを理解する。
7	子どもの心と健康	・乳幼児の情緒の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の社会性の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
8	子どもの心と健康	・乳幼児のパーソナリティの発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の知的能力の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
9	子どもの健康をめぐる問題	・子どもの健康をめぐる諸問題を認識し、その対応を探る。 ・食育について理解を深める。
10	子どもの活動と指導	・いろいろな遊具の遊びと指導を理解する。
11	小型遊具について	・小型遊具を作製する。
12	小型遊具について	・小型遊具を完成させ、遊びを工夫してみる。
13	安全の指導	・子どもの事故の実態を知り、安全教育の重要性を認識する。 ・安全の指導のすすめ方を理解する。
14	安全の指導	・安全管理について認識を深める。
15	まとめ	・授業のふりかえり及び理解度の確認。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境				
担当者氏名	谷内　繁子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

保育においての「環境」とは、日常的に用いられる自然環境だけでなく、ある事物が幼児の遊びや学びにどのような意味をもち、幼児がそれらを体験することにより、何に気付き経験していくかという視点から幅広い領域を意味する。そのなかで幼児が環境とどのようにかかわっているのか、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、具体的に考えていく実践力を身につける。

《授業の到達目標》

○保育所保育指針、幼稚園教育要領「環境」に示された「幼児教育（保育）の基本」「ねらい」等を理解する。
○演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助を理解する。
○身近な環境に積極的に触れ、それらを生活に取り入れていこうとする力をつける。

《成績評価の方法》

○筆記テスト60%
○授業や演習への参加意欲と態度20%
○レポート課題等への提出物20%

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省,フレーベル館,2008
『幼稚園教育要領解説』文部科学省,フレーベル館,2008

《参考図書》

『演習保育内容環境』紫崎正行編著,建帛社,2009
『新子どもと環境』（理論編）奥井智久編著,三晃書房,2008
『身近な環境を生かすあそび』八並勝正著,チャイルド社,1992
『保育内容・環境』小田豊,湯川秀樹編著,北大路書房,2012

《授業時間外学習》

○予習の方法
　テキストの指定箇所を読んできてください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってきてください。
○復習の方法
　授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》

○授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育の基本と保育内容「環境」	環境をとおして行う保育、保育内容の構造と「領域」を理解する。
2	子どもと環境のかかわり（1）	身近な環境の捉え方、身近な自然・生き物とのかかわりについて理解する。
3	子どもと環境のかかわり（2）	物とのかかわり、文字や記号とのかかわり、数量とのかかわりについて理解する。
4	子どもと環境のかかわり（3）	情報や施設とのかかわり、園内外行事とのかかわりについて理解する。
5	園庭の自然や遊具とのかかわり	多様なかかわりを保証、遊びが発展するような保育者の役割と援助について理解する。 演習「子どもの遊びを援助する為のロールプレイを通して援助のあり方を体験する。」
6	室内の遊具・教材・設備とのかかわり	遊びやすい空間づくり、使いこなせる環境づくりについて理解する。
7	飼育・栽培・園外保育	飼育活動、栽培活動、園外保育のあり方について理解する。 演習「子どもが育てやすい栽培物(花・野菜等)を調べ年間スケジュールを立案する。」
8	領域「環境」と指導計画	領域の考え方、生活と計画について理解する。
9	領域「環境」と保育方法	一日の生活時間の構造、自発的活動時間と領域「環境」、設定及び保育者の意図が強い遊びや活動と生活のなかでの配慮について学ぶ。
10	領域「環境」と保育の実際（1）	身の回りの生活環境における配慮について理解する。
11	領域「環境」と保育の実際（2）	思考力の芽生え、好奇心・探究心をもつことについて理解する。
12	領域「環境」と保育の実際（3）	道徳性をはぐくむ保育環境について学ぶ。
13	乳幼児期の安全環境	防災教育の基本、心身の発達と安全能力の形成、安全能力を培う保育、安全環境について理解する。
14	領域「環境」の変遷	幼稚園・保育所創設～戦時下の保育内容、戦後～今日の保育内容について学ぶ。
15	学習のまとめ	保育内容の総合性、魅力ある保育環境づくり、地域資源の活用について理解する。 演習「自身の思い出深い環境から、その体験のもつ意味を探ってみる。」

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現Ａ				
担当者氏名	井上　眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業の到達目標》
・自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
・音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。

《テキスト》
『表現』幼児音楽①②　小林美実監修（保育出版社）

《参考図書》
『手あそび指あそび』吉本澄子著（玉川大学出版部）『ドラマによる表現教育』ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	表現内容についての説明、授業の心構え
2	心身の認識を深める	身体部位を認識する動き
3	基本的な運動の理解	基本ステップを中心に動く
4	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
5	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
6	まとめ	基本ステップの体得を確認する
7	伝承遊び、集団遊び	身近な遊びから身体表現へ
8	手遊びから表現遊び	手遊びから全身の身体表現へ
9	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
10	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
11	大好きな歌から表現遊びへ	歌からの表現遊びを考えて動く
12	身辺材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
13	身辺材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
14	基本ステップでの作品作り	基本をまとめて作品として構成する
15	発表	全身運動・表現・リズミカルに動くことを確認する

《学科教育科目》

科目名	社会的養護内容				
担当者氏名	藤本　政則				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《授業の到達目標》
児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《成績評価の方法》
下の２方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「１」が４割、「２」が６割とする。
1.授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2.筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）

《テキスト》
なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》
『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業時間外学習》
毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《備考》
各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護とは	社会的養護の概念と概要について学ぶ。
2	家庭や社会の役割	児童健全育成における家庭や社会の果たす役割を学ぶ。
3	社会的養護を必要とする子どもたち	児童相談所や児童福祉施設などからの支援を必要とする子どもや家庭について理解する。
4	児童養護の歴史①－欧米の児童養護の変遷－	欧米における児童養護の変遷を理解する。
5	児童養護の歴史②－日本の児童養護の変遷－	日本における児童養護の変遷を理解する。
6	児童養護の領域①－養護系施設－	児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設について理解する。
7	児童養護の領域②－障がい系施設－	知的障害児施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設について理解する。
8	児童養護の領域③－その他の施設－	児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設について理解する。
9	家庭養護としての里親養育①	家庭養育の代表としての里親養育についての基礎知識を習得する。
10	家庭養護としての里親養育②	里親養育の実際を学び、その意義と課題について習得する。
11	児童虐待問題①－児童虐待とは－	児童虐待の定義や実態、発生要因を学ぶ。
12	児童虐待問題②－児童虐待への対応	児童虐待への対応における初期対応を学ぶ。
13	児童虐待問題③－児童虐待への対応	児童虐待への対応における児童相談所の役割を学ぶ。
14	児童虐待問題④－虐待を受けた子どものケア－	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへのケアのあり方を学ぶ。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育Ｂ				
担当者氏名	鈴木　富美子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》
１、乳児保育Ａで学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
２、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
３、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの事例検討を行い、幅広い援助技術学ぶ。

《授業の到達目標》
・0～2歳児（3歳中期頃まで）の発達を理解し、適切な援助活動ができるようになる。
・事例検討を行い、多様な保育ニーズを知り、幅広い視野を持つことができるようになる。
・子どもとおもちゃの関係を理解し、身近な素材を使って発達に応じたおもちゃを作ることができるようになる。

《成績評価の方法》
筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、作品・授業態度（20%）

《テキスト》
必要に応じ資料配布

《参考図書》
「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
「乳児保育Ⅰ　演習と講義」金子保著　クオリティケア
「見直そう子育て　立て直そう生活リズム」エイゼル研究所
「すくすくハンドブック」神戸市保健福祉局
「乳児の保育新時代」ひとなる書房
「乳児の生活と保育」ななみ書房

《授業時間外学習》
・教科書の指定範囲を読んでおく。
・配布資料は必ず読み、理解を深める。
・課題レポートについては自分の意見が述べられるよう学習をはかる。
・製作物は必ず完成させ、作品の提示を行う。

《備考》
・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
・身近なおもちゃを製作するので、予定の日には必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・乳児の概念	
2	乳児保育の概念	・乳児保育の歴史 ・乳児保育の概念とその重要性	絵本の読み聞かせと手遊び
3	発達の理論	・発達のとらえ方（環境と成熟） ・発達の順序性と連続性	製作「いないいないばあ人形」
4	発達の姿と特徴	①０歳児の発達過程と特徴 ０歳児の保育環境	製作「いないいないばあ人形」
5	発達の姿と保育援助	・ホールディングの意味と方法 ・哺乳の仕方、オムツ交換や着衣、応答的関係	製作「いないいないばあ人形」
6	発達の姿と特徴	②１歳児の発達過程と特徴 １歳児の保育環境	製作「アンパンマン人形」
7	発達の姿と保育援助	・探索活動の理解と援助 ・感覚的活動から表象的活動へ移行の援助	製作「アンパンマン人形」
8	発達の姿と特徴	③２歳児（３歳中期頃まで）の発達過程と特徴 ２歳児の保育環境	製作「アンパンマン人形」
9	発達の姿と保育援助	・保育士を仲立ちとした友達活動の援助 ・基本的生活習慣自立への援助	製作「手品ボックス」
10	保育の計画	・保育の計画の構造 保育課程と指導計画	製作「カード」
11	指導計画	・指導計画の構造 年間指導計画　月案　週案　日案　評価と反省	製作「カード」
12	指導計画	・指導案の作成 ３月の指導案　クリスマス行事の立案	
13	事例検討	・個票作成とカンファレンス 個別ケアのあり方　チームワーク　保護者・専門機関との連携	絵本の読み聞かせ
14	乳児を取り巻く現状と課題	・家族、地域社会の現状と育児支援 家族援助・育児支援　地域の育児支援	ふれあい遊び
15	授業の振り返りと理解度の確認	筆記試験	

《学科教育科目》

科目名	障害児保育Ｂ				
担当者氏名	小林　洋司				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎　2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
本授業の目的は、障害児保育の現状と課題等を踏まえながら障害を理解しようとする構えと、実践的な技能及び認識を高めることをめざして学習することである。

《テキスト》
近藤直子、白石正久、中村直子編『新版テキスト障害児保育』（全障研出版部）、2011

《参考図書》
適宜案内します。

《授業の到達目標》
本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して保育者として障害児/者や彼らを取り巻く人々とどのように接し、行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》
障害児者をめぐる課題について情報収集を行うこと

《成績評価の方法》
試験（50%）と小レポート（50%）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念1	障害とは何か
3	障害の概念2	障害とイメージ
4	障害の概念3	障害と福祉
5	障害児保育の現状と課題1	福祉・教育
6	障害児保育の現状と課題2	保健・医療
7	障害児保育の現状と課題3	障害児保育と専門性
8	障害児の支援1	発達障害と虐待　－保育者としての対応－
9	障害児の支援2	発達障害と虐待　－関係機関との連携－
10	障害児の支援3	ケーススタディ①
11	障害児の支援4	ケーススタディ②
12	障害児を取り巻く人々の支援1	保護者の支援
13	障害児を取り巻く人々の支援2	きょうだいの支援
14	支援のための環境づくり	障害児が生活しやすい社会づくり
15	学習のまとめ	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	教育相談				
担当者氏名	大久保　恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎　1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○　3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》
1.教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2.描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3.教育相談現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《テキスト》
「エッセンス　学校教育相談心理学」
石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考図書》
「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《授業の到達目標》
教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。
1.子どもの問題行動の裏側にあるその心理や発達の問題を理解することができる。
2.カウンセリングの技法や心理学の基礎的な知識について説明できる。
3.保育現場で生じる子どもの問題行動に対応できる。

《授業時間外学習》
・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《成績評価の方法》
1.授業態度（20%）
2.レポート課題等の提出物（20%）
3.期末試験（60%）

《備考》
講義の開始時に出席を確認します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育相談と自己理解	1.教育現場とは　2.授業のオリエンテーション　3.自己理解のための心理テスト
2	教育相談の実際1	1.不登校とは　2.その対応
3	教育相談の実際2	1.いじめについて　2.非行について
4	パーソナリティとその理解1	1.心の構造　2.自我の防衛機制について　3.心の発達
5	パーソナリティとその理解2	1.教育相談で扱う心の病気とは
6	発達と教育相談	1.子どもの発達（心理検査を通して）
7	発達障害と教育相談	1.発達障害とは　2.広汎性発達障害　3.ＬＤ　4.ＡＤＨＤ
8	カウンセリングとは	1.カウンセリングとは　2.カウンセリングマインドについて
9	カウンセリング体験	1.カウンセリングのロールプレイを行います
10	主な心理療法と心理検査	1.主な心理療法について　2.心理検査とは
11	描画体験とその理解	1.描画体験　2.その説明
12	関係機関との連携・協働	1.スクールカウンセラーとは　2.関係機関との連携について
13	問題行動とその対応	1.幼児期、児童期、思春期に生じやすい問題行動をあげ、その具体的な対応方法や関係機関との連携の仕方を学んでいく
14	ケーススタディ	1.具体的な事例を通して、子どもへの理解とその対応を深めていく
15	学習のふり返り	1.学習の習得度について振り返る（テスト）

《学科教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）				
担当者氏名	福田　規秀、笹田　哲男、井上　眞美子、小泉　毅、三浦　摩美、三井　圭子、小林　洋司、黒崎　令子、石川　恵美、杉田　律子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○　2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○　2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○　3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○　3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》
教育委員会や幼稚園・保育所等から講師を招いての講義及びそれを基にした事例研究やグループ討議、また模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識技能を習得したことの確認を行う。

《テキスト》
『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2008
『保育所保育指針』厚生労働省　フレーベル館　2008

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業の到達目標》
○教職課程や保育士養成科目の履修により修得した知識・技能を基に、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。
○社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させる。
○教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質能力を獲得する。

《授業時間外学習》
課題に沿ったレポート、指導案の作成、発表（討論での意見、模擬保育など）の準備

《成績評価の方法》
課題（討議レポート、指導案など）50%、発表（討論での意見、模擬保育など）50%

《備考》
幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	建学の精神と保育科教育目的の再確認をする。
2	講義（1）	保育者としての成長や保育の課題等についての講義（附属幼稚園からの講師）
3	講義からの学び	第2週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育実践に繋げることができる。
4	講義（2）	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
5	講義からの学び	第4週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育者としてのあり方・生き方に繋げることができる。
6	講義（3）	幼児理解や社会性、対人関係能力についての講義（幼稚園などからの講師）
7	講義からの学び	第6週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。（ロールプレイ）学んだことを幼児理解や保育実践に繋げることができる。
8	講義（4）	保育内容の指導力についての講義（保育所などからの講師）
9	講義からの学び	第8週の講義内容に関する事例研究、グループ討議をする。学んだことをレポートにまとめることで、指導力の向上を図ることができる。
10	模擬保育１	模擬保育のための指導案を作成する。（グループ別）
11	模擬保育２	模擬保育のための教材研究と指導案の修正する。（グループ別）
12	模擬保育３	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
13	模擬保育発表（1）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
14	模擬保育発表（2）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
15	学修のまとめ	今までの学修を振り返り、自己成長感を確認することができる。

専攻科　保育専攻

Ⅰ　教育課程

保育専攻で開設する授業科目は（表 1）のとおりであり、必修科目および選択科目から構成されている。

必修科目は教育特別実習 1 科目のみであるが、1 年次Ⅱ期の火曜日から金曜日まで終日実習を行うことにより、より実践的な保育者としての力量を育てたい。その保育実践で得たものを、理論的に体系づけることが期待される。

修了研究は、2 年間（4 期）にわたり開設し、大学の卒論に相当する「修了論文」の作成に向けて指導する。

Ⅱ　専攻科の修了要件

2 年以上在学し、必修科目 10 単位と選択科目 52 単位以上、計 62 単位を修得しなければならない。

（表 1）

カリキュラム年次配当表

専攻科　保育専攻　平成24年度（2012年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		学年配当（数字は週当り授業時間）				ページ
					1年		2年		
			必修	選択	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	
学科教育科目	音楽演習Ⅰ	演習		2	2				
	音楽演習Ⅱ	演習		2		2			
	美術演習	演習		3			3		
	体育演習	演習		3			3		
	保育学研究	講義		2	2				
	心理学研究	講義		2	2				
	幼児教育学研究	講義		2	2				
	保育実践研究Ⅰ	講義		2		2			
	保育実践研究Ⅱ	講義		2		2			
	保育実践研究Ⅲ	講義		2		2			
	教育特別実習	実習	10			10			
	保育内容演習Ⅰ	演習		2	2				
	保育内容演習Ⅱ	演習		2			2		
	保育内容演習Ⅲ	演習		2			2		
	保育内容演習Ⅳ	演習		2				2	
	障害児保育特論	講義		2				2	
	仏教教育研究	講義		2	2				
	情報教育演習Ⅰ	演習		3	3				
	情報教育演習Ⅱ	演習		3			3		
	情報教育演習Ⅲ	演習		3				3	
	児童家庭福祉研究	講義		2			2		
	社会福祉研究	講義		2			2		
	修了研究	演習		12	3	3	3	3	

Ⅲ　履修上の注意事項

１）学士（教育学）の学位取得

学士（教育学）の学位を取得するには、本専攻の修了要件を充たし修了するとともに、大学評価・学位授与機構に申請し、試験および審査を受け、合格しなければならない。申請には、さまざまな条件、手順がある。

２）幼稚園教諭一種免許の取得

幼稚園教諭一種免許の取得には、学士の学位を有することが基礎資格である。

したがって、上記１）の手続きによる学士の学位の取得を前提とし、教育職員免許法ならびに教育職員免許法施行規則に定められた単位（表 2 参照）を修得しなければならない。

Ⅳ　学士の学位授与について

１）学位授与申請に必要な要件及び手続き

(1)「基礎資格」の取得

学位授与制度を利用して学士の学位を取得するためには、短期大学を卒業するなどの「基礎資格」を有することが必要である。

(2)「積み上げ単位」の修得

申請者は、基礎資格を取得した後、大学の科目等履修生制度を利用した学修や、短期大学に置く大学評価・学位授与機構が認定した専攻科（認定専攻科）における学修で、機構の定める所定の単位（「積み上げ単位」）を修得する必要がある。

(3)「学修成果」の作成

申請者は、申請する専攻区分（本専攻科の場合「教育学」）にかかわるテーマについて、レポートの形にまとめた「学修成果」を作成する必要がある。

(4)申請

学位授与申請方法は電子申請と郵送申請とがあり、申請時期は 4 月期申請と 10 月期申請の年 2 回がある。

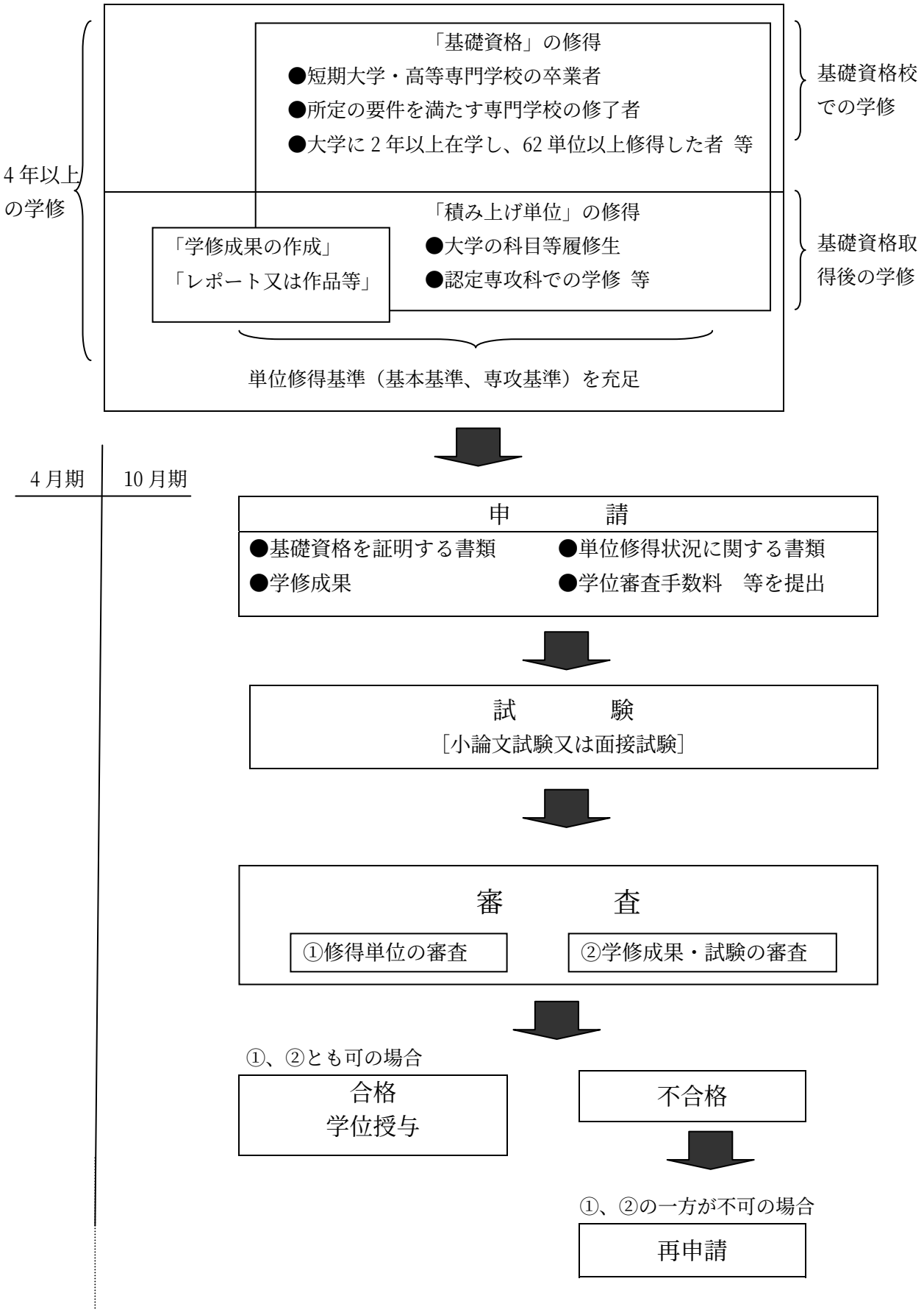
(5)試験

4 月期申請の場合は 6 月に、10 月期申請の場合は 12 月に試験が行われる。申請時に学修成果としてレポートを提出した者には小論文試験が課される。小論文試験の会場は、札幌、東京、大阪、福岡の 4 か所に設けられ、どの会場で受験するかは申請者が選択できる。

(6)審査・学位の授与

①修得単位の審査　②学修成果・試験の審査　により、申請者への学位授与の可否が判定される。①と②の両方が「可」と判定された場合に合格となり、学士の学位が授与される。

［参考］　学士の学位授与の流れ



Ⅴ　幼稚園教諭一種免許取得について

大学評価・学位授与機構により認定された専攻科では、専攻科における単位の修得が大学での単位の修得と同等に認められ、幼稚園教諭二種免許取得者が一種免許を取得することが容易となる。

教育職員免許法によれば、幼稚園教諭一種免許を取得するには、Ⅳで記した「学士の学位を有すること」が「基礎資格」となる。また、教科および教職に関する科目に関して、一種免許に係る単位数から二種免許に係る単位数を差し引いた単位数を専攻科の課程において修得するものとされている（教育職員免許法第 5 条別表第一備考第 8 号）。

教科および教職に関する幼稚園教諭一種免許取得に必要な単位数、及び教科および教職に関する専攻科での開設科目等は表 2 のとおりである。

（表 2）

免許法施行規則に定める科目区分等		一種	二種	差	専攻科開設科目	必修	選択	単位の修得方法
教科に関する科目	国語、算数、生活、音楽、図画工作及び体育の教科に関する科目	6	4	2	音楽演習Ⅰ 音楽演習Ⅱ 美術演習 体育演習		2 2 3 3	2 単位以上
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2	0	該当科目なし			
	教育の基礎理論に関する科目	6	4	2	心理学研究 教育学研究		2 2	2 単位以上
	教育課程及び指導法に関する科目	18	12	6	保育実践研究Ⅰ 保育実践研究Ⅱ 保育実践研究Ⅲ 保育内容演習Ⅰ 保育内容演習Ⅱ 保育内容演習Ⅲ 保育内容演習Ⅳ		2 2 2 2 2 2 2	6 単位以上
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	2	2	0	該当科目なし			
	教育実習	5	5	0	教育特別実習	10		10 単位
	教職実践演習 (総合演習　*1)	2	2	0	該当科目なし			
教科又は教職に関する科目		10	0	10	上記全科目中、教科に関する科目で履修した科目以外の科目から 10 単位以上を修得する。			

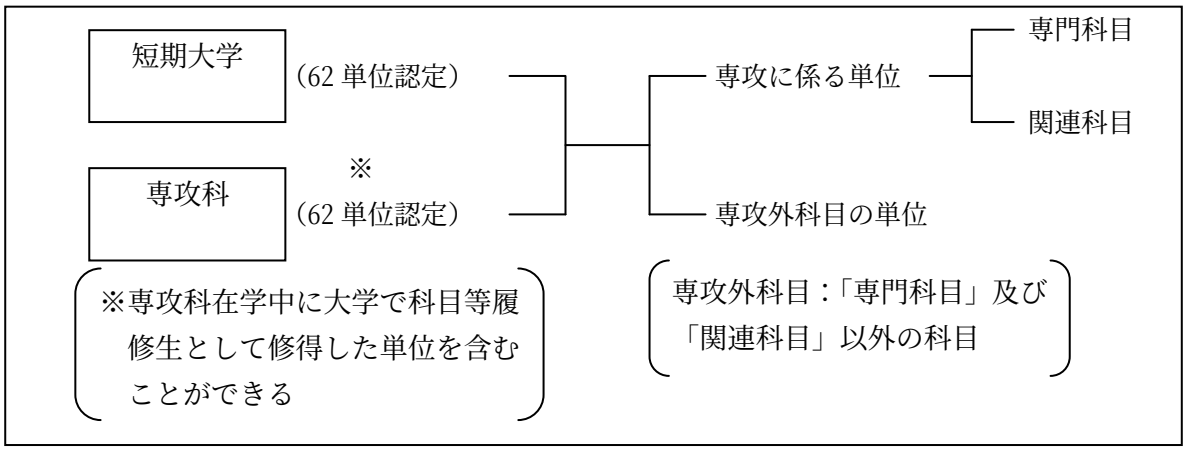
*1　「総合演習」未修得者は「教職実践演習」の修得が必要となる。

1）基本基準

基本基準とは、単位の修得基準である。申請者は次の「基本基準」を満たすように単位を修得しなければならない。

・申請に必要な修得単位数：基礎資格該当後の「積み上げ単位」　62 単位以上
・修得単位全体のうち、「専門科目」と「関連科目」との合計単位数　62 単位以上
・修得単位全体のうち、「関連科目」と「専攻外科目」との合計単位数　24 単位以上
・「積み上げ単位」のうち、「専門科目」と「関連科目」との合計単位数　31 単位以上
（うち「専門科目」を１単位以上含むこと）
・外国語の単位数　1 単位以上

以上のことを図示すれば、次のようになる。



2）学位取得のための単位の修得法

学士（教育学）の場合の、専門・関連科目の区分および修得すべき単位数（62 単位以上）は次のとおりである。

①専門科目（40 単位以上）：専攻区分の中心的科目及び特に関係の深い科目

〇教育学・教育心理学に関する科目

（例）教育学、人権教育論、教育哲学、教育思想、学校教育法、教育臨床学、教育課程論、教育工学、情報教育、教育制度論、教師論、教育実習、教育心理学、発達心理学、カウンセリング、教育相談学、教育評価など

〇教科教育に関する科目

（例）各科の教育法、教科研究など

〇幼児教育・保育に関する科目

（例）幼児教育学、保育制度論、幼児教育課程論、保育内容総論、保育内容研究、幼児教育指導法、乳幼児心理学など

〇特殊教育に関する科目

（例）障害児教育論、障害児教育史、障害児教育法、障害者福祉論、障害児指導法、障害児保育、障害児教育学など

〇養護教育に関する科目

②関連科目（4 単位以上）：専攻区分の基礎となる科目及び周辺分野の科目

◇思想・哲学に関する科目　◇医療に関する科目
◇歴史・文化に関する科目　◇福祉に関する科目
◇社会に関する科目　◇芸術に関する科目
◇法律・行政・経営に関する科目　◇保健体育に関する科目
◇情報科学に関する科目

平成 24（2012）年度入学者

学科教育科目

平成25年度（2013年度）　学年暦〔Ⅰ期〕

専攻科　保育専攻

25年	日		月			火			水			木			金			土		
4月			1			2			3		入学式	4			5			6		
	7		8	①	Ⅰ期授業開始	9	①		10	①		11	①		12	①		13		
	14		15	②		16	②		17	②		18	②		19	②		20		
	21		22	③		23	③		24	③		25	③		26	③		27		
	28		29		昭和の日	30	④	月曜日科目授業日	1	④		2	④		3		憲法記念日	4		みどりの日
5月	5	こどもの日	6		振替休日	7	④		8	⑤		9	⑤		10	④		11		
	12		13	⑤		14	⑤		15	⑥		16	⑥		17	⑤		18		
	19		20	⑥		21	⑥		22	⑦		23	⑦		24	⑥		25		
	26		27	⑦		28	⑦		29	⑧		30	⑧		31	⑦		1		
6月	2		3	⑧		4	⑧		5	⑨		6	⑨		7	⑧		8		
	9		10		創立記念日	11	⑨		12	⑩		13	⑩		14	⑨		15		
	16	オープンキャンパス	17	⑨		18	⑩		19	⑪		20	⑪		21	⑩		22		
	23		24	⑩		25	⑪		26	⑫		27	⑫		28	⑪		29		
7月	30		1	⑪		2	⑫		3	⑬		4	⑬		5	⑫		6		
	7		8	⑫		9	⑬		10	⑭		11	⑭		12	⑬		13		
	14		15		海の日	16	⑭		17	⑮		18	⑮		19	⑭		20		オープンキャンパス
	21	オープンキャンパス	22	⑬		23	⑮		24	⑭	月曜日科目授業日	25		補講日	26	⑮		27		
	28		29	⑮		30		予備日	31		補講日	1		補講日	2		補講日	3		オープンキャンパス
8月	4	オープンキャンパス	5		補講日	6		補講日	7			8			9			10		
	11		12			13			14			15			16			17		
	18		19			20			21			22			23			24		オープンキャンパス
	25	オープンキャンパス	26			27			28			29			30			31		
9月	1		2			3			4			5			6			7		
	8	オープンキャンパス	9			10			11			12			13			14		

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成25年度（2013年度）　学年暦　〔Ⅱ期〕

専攻科　保育専攻

25年	日		月			火			水			木			金			土		
9月	8	オープンキャンパス	9			10			11			12			13	①		14	①	月曜日科目授業日
	15		16		敬老の日	17	①		18	①		19	①		20	②		21		
	22		23		秋分の日	24	②		25	②		26	②		27	③		28		
	29		30	②		1	③		2	③		3	③		4	④		5		
10月	6		7	③		8	④		9	④		10	④		11	⑤		12		
	13		14		体育の日	15	⑤		16	⑤		17	⑤		18	⑥		19		
	20		21	④		22	⑥		23	⑥		24	⑥		25	⑦		26		
	27		28	⑤		29	⑦		30	⑦		31	⑦		1	⑧		2		
11月	3	文化の日	4		振替休日	5	⑥	月曜日科目授業日	6	⑧		7	⑧		8		大学祭準備	9		大学祭
	10	大学祭	11		大学祭後片付け	12	⑧		13	⑨		14	⑨		15	⑨		16		
	17		18	⑦		19	⑨		20	⑩		21	⑩		22	⑩		23		勤労感謝の日
	24		25	⑧		26	⑩		27	⑪		28	⑪		29	⑪		30		
12月	1		2	⑨		3	⑪		4	⑫		5	⑫		6	⑫		7		
	8		9	⑩		10	⑫		11	⑬		12	⑬		13	⑬		14		
	15		16	⑪		17	⑬		18	⑭		19	⑭		20	⑭		21		
	22		23		天皇誕生日	24	⑭		25	⑫	月曜日科目授業日	26			27			28		
	29		30			31			1		元旦	2			3			4		
26年 1月	5		6	⑬		7	⑮		8	⑮		9	⑮		10	⑮		11		
	12		13		成人の日	14		補講日	15		補講日	16		補講日	17		センター試験準備	18		センター試験
	19	センター試験	20	⑭		21		補講日	22		補講日	23	⑮	月曜日授業科目日	24		補講日	25		
	26		27		補講日	28		予備日	29			30			31			1		
2月	2		3			4			5			6			7			8		
	9		10			11		建国記念の日	12			13			14			15		
	16		17			18			19			20			21			22		
	23		24			25			26			27			28			1		
3月	2		3			4			5			6			7			8		
	9		10			11			12			13			14			15		
	16		17			18			19			20			21		春分の日	22		
	23	卒業式	24			25			26			27			28			29		
	30		31																	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

《学科教育科目》

科目名	美術演習				
担当者氏名	岩見　健二				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業の概要》
子どもの[造形活動]と[遊び]は緊密な関係にある。その行為は創造力を高め美的感性を育む成長過程での重要な要素である。のびのびと主体的な造形活動に導くには、指導者みずから素材の安全性・操作の簡便性などを考慮に入れ、制作過程を把握しておかなければならない。カリキュラムの前半は　遊ぶ・使う・身につける・飾る　の分野における作品を制作。後半は、安全で楽しい園庭での遊具を考案し制作する。

《授業の到達目標》
子どもの造形活動及び遊びについて深く理解し、感性豊かで創造力に富んだ子どもを育てることが出来る。

《成績評価の方法》
・作品評価(100%)

《テキスト》
適宜プリント配布。

《参考図書》
適宜指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《備考》
特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	[遊ぶ]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
3	[遊ぶ]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
4	[使う]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
5	[使う]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
6	[身につける]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
7	[身につける]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
8	[飾る]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
9	[飾る]を主題に作品を制作する	ペットボトル・紙コップ・ストロー・牛乳パック・紙袋・粘土・毛糸・布・自然物等身近な素材を活用し、子どもの造形意欲を高める作品を制作することが出来る。
10	園庭の遊具を創作する	安全性と楽しさを考慮に入れ、大まかな形体をラフスケッチすることが出来る。
11	園庭の遊具を創作する	ラフスケッチを基に、素材・色彩を考慮に入れ、完成予想図を制作することが出来る。
12	園庭の遊具を創作する	接合部分の強度等を考え、立体的な作品を制作することが出来る。
13	園庭の遊具を創作する	接合部分の強度等を考え、立体的な作品を制作することが出来る。
14	園庭の遊具を創作する	接合部分の強度等を考え、立体的な作品を制作することが出来る。
15	園庭の遊具を創作する	接合部分の強度等を考え、立体的な作品を制作することが出来る。

《学科教育科目》

科目名	体育演習				
担当者氏名	井上　靖				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業の概要》
幼児期の発達をおさえた運動内容について理論と実践を通して考える。

《授業の到達目標》
幼児期の発達刺激としての運動の構造及び運動指導の技術を身につける。

《成績評価の方法》
レポート30%、テスト70%の総合評価とする。

《テキスト》
随時プリントを配布する。

《参考図書》
中村隆一「運動学習実習」医歯薬出版、ロルフ・ヴィルヘード、金子公宏（訳）「目で見る動きの解剖学」大修館書店、服部恒明「ヒトのかたちと運動」大修館、仙田　満「子供と遊び」岩波新書、岡本夏木「幼児期」岩波新書、築地書館「みんなの保育大学シリーズ」全13巻

《授業時間外学習》
幼児の行動を観察して気付いたことをまとめる。

《備考》
教室と体育館を併用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児教育における運動教育	からだで環境に働きかけることの意義について考える。
2	幼児期の発達に応じた運動について	各種運動遊びについて考える。
3	運動発現のメカニズムについて	心のエネルギーと体のエネルギーの関係について考える。
4	楽しい運動の構造について	楽しい運動は良い動きにつながることを理解する。
5	生体の構造と運動	運動を解剖学の視点で理解する
6	運動指導の実際	運動と身体感覚（マット運動による回転感覚）
7	運動指導の実際	運動と身体感覚（マット運動による回転感覚）
8	運動指導の実際	運動と身体感覚（マット運動による回転感覚）
9	運動指導の実際	運動と身体感覚（跳び箱運動による空間感覚）
10	運動指導の実際	運動と身体感覚（跳び箱運動による回転感覚）
11	運動指導の実際	運動と身体感覚（鉄棒運動による逆さ感覚および支持回転感覚）
12	運動指導の実際	運動と身体感覚（鉄棒運動による逆さ感覚および支持回転感覚）
13	運動指導の実際	運動と身体感覚（縄跳び運動による操作感覚）
14	運動指導の実際	運動と身体感覚（縄跳び運動による操作感覚）
15	まとめ	テスト（90分）

《学科教育科目》

科目名	保育内容演習Ⅱ				
担当者氏名	福田　規秀				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業の概要》
子どもたちは遊びを通していろいろなことを学んでいくが、その中に適当な道具立てがあることは、子どもの環境を考える際に重要なポイントとなる。そのことを理論と実践を通して解き明かしていく。

《授業の到達目標》
遊びに意義を認め、子どもたちのための教育遊具を考案したフレーベルとモンテッソーリ。その難解な理論に出来る限りチャレンジし、その成果を自らの保育観に包含する中で、自分なりに遊具の利用について考え、保育計画等に反映できることを目指す。また遊具に触れることによってその面白さを実感し、そこに流れる理論を再確認する。学生自らが遊具を「感じとる」ことができるようになる。

《成績評価の方法》
期末レポート　50%、発表態度や考察の精度・ディスカッションへの参加　50%で、総合的に評価する。

《テキスト》
使用しない（レジメ作成のためにプリントを配布します）。

《参考図書》
『フレーベル全集第4巻・第5巻』　玉川大学出版部
『フレーベル教育学への旅』　日本記録映画研究所
『フレーベルの教育学』　玉川大学出版部
『モンテッソーリ教育　理論と実践　①～⑥』　学習研究社
『マインドストーム』　未来社

《授業時間外学習》
自分の発表でない場合でも、発表予定箇所を通読の上、講義に出席すること。
遊具について広く情報収集に努めること。

《備考》
全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。自らが課題意識を持って積極的に取り組むこと。特に発表は責任を持って取り組むこと。実践は楽しく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	はじめに　レジメに基づく発表について　小さい頃遊んだ遊具について
2	実践	恩物　教具
3	発表	フレーベル
4	発表	フレーベル
5	発表	フレーベル
6	実践	恩物　教具
7	発表	モンテッソーリ
8	発表	モンテッソーリ
9	発表	モンテッソーリ
10	発表についての総括	フレーベルとモンテッソーリの共通点・相違点
11	実践	Naef
12	実践	Kapla
13	実践	デジタルメディア
14	実践についての総括	自分ならどう使っていくか
15	全体総括	自分ならどう使っていくか　今後の課題　まとめ

《学科教育科目》

科目名	保育内容演習Ⅲ				
担当者氏名	井上　眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業の概要》
本科での学修をさらに深めるかたちで、感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業の到達目標》
・自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
・音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。

《テキスト》
『表現』幼児音楽①②　小林美実監修（保育出版社）

《参考図書》
『手あそび指あそび』吉本澄子著（玉川大学出版部）『ドラマによる表現教育』ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	表現内容についての説明、授業の心構え
2	心身の認識を深める	身体部位を認識する動き
3	基本的な運動の理解	基本ステップを中心に動く
4	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
5	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
6	まとめ	基本ステップの体得を確認する
7	伝承遊び、集団遊び	身近な遊びから身体表現へ
8	手遊びから表現遊び	手遊びから全身の身体表現へ
9	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
10	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
11	大好きな歌から表現遊びへ	歌からの表現遊びを考えて動く
12	身辺材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
13	身辺材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
14	基本ステップでの作品作り	基本をまとめて作品として構成する
15	発表	全身運動・表現・リズミカルに動くことを確認する

《学科教育科目》

科目名	保育内容演習Ⅳ				
担当者氏名	井上　眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業の概要》
幼稚園教育要領が示す「幼児教育としての在り方」を考え、保育内容「表現」の領域にそって、幼児期の「表現」に関する「ねらい」の基礎理論を踏まえながら、「リズム遊び」と「表現遊び」を通して、将来の保育で生かせる実践力を身につける。

《授業の到達目標》
テーマや題材からのイメージを考えて、「即興的」な表現を楽しみ、技能、体力、環境を統合した具体的展開ができる技術を習得する。

《成績評価の方法》
実技試験（計画と実践）(70%)
毎回の授業毎の評価　　(30%)

《テキスト》
「幼稚園教育要領」(文部科学省) 2008
他は、授業中に適宜紹介する。

《参考図書》
「ダンスの教育学」(日本教育書籍)
「表現原論」(萌文書林)

《授業時間外学習》
授業中に課題を出し指示する。

《備考》
日頃から、何に対しても好奇心を持ち、感性を養うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	基本的な運動の発展	リズム運動遊びを通して、幼児の基礎的な体力作りを理解する。
3	基本的な運動の発展と理解	発達段階に応じた基本的な運動と体力作りについて理解する。
4	幼児の身体表現（1）	０・１・２歳児へのテーマにもとづいた表現遊びを実践し演習する中で、専門的知識と表現技術の獲得を目指す。
5	幼児の身体表現（2）	３・４歳児へのテーマにもとづいた表現遊びを実践し演習する中で、専門的知識と表現技術の獲得を目指す。
6	幼児の身体表現（3）	５歳児へのテーマにもとづいた表現遊びを実践し演習する中で、専門的知識と表現技術の獲得を目指す。
7	作品づくり	音楽、造形、身体活動を統合した作品の制作をする。
8	総合的な指導方法（1）	０・１・２歳児の身体表現を豊かに引き出し育むための動機づけ、援助、指導について学ぶ。
9	総合的な指導方法（2）	３・４歳児の身体表現を豊かに引き出し育むための動機づけ、援助、指導について学ぶ。
10	総合的な指導方法（3）	５歳児の身体表現を豊かに引き出し育むための動機づけ、援助、指導について学ぶ。
11	「総合的な指導方法」のまとめ（1）	「総合的な指導方法」で学修したことを作品へと発展させる。
12	「総合的な指導方法」のまとめ（2）	「総合的な指導方法」で学修したことを作品へと発展させる。
13	「模擬保育」としての発表（1）	「総合的な指導方法」の学修成果を、保育者役、子ども役に分かれて、実践する。
14	「模擬保育」としての発表（2）	「総合的な指導方法」の学修成果を、保育者役、子ども役に分かれて、実践する。
15	総括	第１回～第14回の授業で学修したことのまとめを行う。

《学科教育科目》

科目名	障害児保育特論				
担当者氏名	柳田　洋				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業の概要》
障害についての科学的な知識や、発達のすじ道を学ぶことによって、障害がある子どもたちの理解を深めるとともに、発達を保障していく保育場面での援助のあり方について考える。また、発達を支援していくための、健常児との関わり、家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業の到達目標》
障害児の発達を保障するために、障害を科学的に理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について考えることができる。

《成績評価の方法》
試験（テキスト・ノート等持ち込み可）（50%）
レポート等の提出（50%）

《テキスト》
『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編　全障研出版部

《参考図書》
『新版-この子らを世の光に』糸賀一雄著　NHK出版
『発達の扉　下　障害児の保育・教育・子育て』白石正久著　かもがわ出版
『多動症の子どもたち』太田昌孝著　大月書店
その他、授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》
教科書の指定箇所をよんでおくこと。

《備考》
毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配布資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶにあたって	障害児保育のあゆみと現状・課題
2	障害と発達の道すじ	障害と発達の道すじとの関連
3	さまざまな障害の理解①	知的発達の障害
4	さまざまな障害の理解②	情緒・社会性の障害
5	さまざまな障害の理解③	身体・運動面の障害
6	さまざまな障害の理解④	視覚・聴覚など感覚の障害
7	さまざまな障害の理解⑤	医療的ケアを必要とする障害
8	障害児保育について考える①	知的発達の障害
9	障害児保育について考える②	情緒・社会性の障害
10	障害児保育について考える③	身体・運動面の障害
11	障害児保育について考える④	視覚・聴覚など感覚の障害
12	障害児保育について考える⑤	医療的ケアを必要とする障害
13	障害児保育の前提	発達を支援する保育者として
14	就学に向けて	就学先の選択・準備
15	障害児保育を学んで	まとめ

《学科教育科目》

科目名	情報教育演習Ⅱ				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業の概要》
情報社会において、教育の現場で今後必要となる、ICT（情報通信技術）を活用した教育・指導について扱う。電子化した教材の作成、インターネットを利用した外部への情報発信などについて、体験的に学習する。
さまざまな電子化した教育コンテンツの制作することで、教員に求められる情報活用能力を身につけることをを目指す。

《授業の到達目標》
〇情報システムや情報コンテンツを活用した教育・指導ができる。
〇ICTを活用して教材を開発することができる。
〇情報発信の際に、情報の構造や伝える対象に応じて、伝える情報を設計できる。

《成績評価の方法》
〇制作した教育コンテンツ（50%）、教育コンテンツの企画書と報告書（30%）、討論などへの参加態度（20%）で評価する。

《テキスト》
使用しない。
授業中に適宜プリントを配布する。

《参考図書》
参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》
予習としては、電子化する教材作成や情報発信に利用できる素材・資料を、図書館やインターネット上から収集しておく。また、各種ソフトウェアの利用方法について練習しておく。
復習としては、授業中に制作する教育コンテンツについて、定期的に進捗状況を確認するため、継続的に作業を進めておく。

《備考》
電子黒板やタブレット端末など、教育現場には多種多様な情報システム・情報機器が導入されている。ICTに関心を持ち、主体的に取り組むことを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業全体の説明
2	ICTを利用した教材の開発(1)	教育・指導におけるICTの活用、教員のICT活用指導能力の育成
3	ICTを利用した教材の開発(2)	教材の企画検討（ねらい、対象、テーマ）
4	ICTを利用した教材の開発(3)	教材の企画検討（教材の構造、指導方略）
5	ICTを利用した教材の開発(4)	教材の制作
6	ICTを利用した教材の開発(5)	教材の制作
7	ICTを利用した教材の開発(6)	教材への相互評価とその結果
8	ICTを利用した教材の開発(7)	全体の講評、ここまでのまとめ
9	ICTを利用した情報発信(1)	Webを利用した学校・園の情報発信、情報セキュリティと情報モラル
10	ICTを利用した情報発信(2)	発信する情報コンテンツの企画委検討（ねらい、対象、カテゴリ）
11	ICTを利用した情報発信(3)	発信する情報コンテンツの企画検討（サイト全体の構成、情報のデザイン）
12	ICTを利用した情報発信(4)	発信する情報コンテンツの制作
13	ICTを利用した情報発信(5)	発信する情報コンテンツの制作
14	ICTを利用した情報発信(6)	相互評価とその結果、全体の講評
15	授業全体のまとめ	学習のふり返り

《学科教育科目》

科目名	情報教育演習Ⅲ				
担当者氏名	佐竹　邦子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業の概要》

幼児教育の現場では、子どもの活動の記録や指導内容考察のため、動画や画像が活用されることがあります。この授業は動画や画像の効果的な活用のための技術習得を目的とします。授業は毎回演習形式で行ない、課題を示します。

《授業の到達目標》

・静止画像の編集ができる。
・動画の撮影・編集ができ、指導内容考察のための資料となる動画を完成させることができる。
・園児の肖像権を守る意識を持つことができる。

《成績評価の方法》

・平常点（25%）
・課題点（75%）

《テキスト》

プリントを配布する。
テキストは必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回授業範囲をプリント等で確認すること。分からない専門用語などが出てきた場合には、メモをして可能な範囲で調べておくこと。
(2)復習の方法：授業範囲のプリント・ノートなどを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。

《備考》

出席を重視する。
欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 静止画像データの理解	授業概要の説明。 静止画像データファイルに関する基礎知識を習得する。
2	静止画像の撮影	キャンパス内で静止画像の撮影を行なう。
3	静止画像の編集(1)	撮影済み静止画像をPCに取り込む。撮影条件が画像に及ぼす影響を見る。 画像編集ソフトを用い、補正を行なう。
4	静止画像の編集(2)	画像編集ソフトを用い、補正や各種編集を行なう。
5	静止画像の 編集前後の比較	編集前と編集後の画像を比較し、適切な補正方法、効果的な画像編集方法を検討する。
6	静止画像の加工	効果的な画像となるよう、編集を行なう。
7	動画データの理解	動画データファイルに関する基礎知識を習得する。
8	動画編集ソフトの基礎	動画編集ソフトの基礎を習得する。
9	動画の編集(1)	動画編集ソフトを用い、動画を編集する。
10	動画の編集(2)	引き続き動画の編集を行なう。効果的な動画編集方法を検討する。
11	動画テーマの検討	撮影する動画のテーマを検討し決定する。
12	動画の撮影	キャンパス内で動画の撮影を行なう。
13	撮影動画の編集(1)	撮影済み動画をPCに取り込む。 動画編集ソフトを用いて、動画を編集する。
14	撮影動画の編集(2)	引き続き動画の編集を行なう。
15	まとめ	動画を完成させる。

《学科教育科目》

科目名	児童家庭福祉研究				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業の概要》

幼児教育は人生の基礎を築き，生涯にわたる人格形成において重要な意味を持つ。受講生は，近い将来，この大事な時期の子どもたちの成長と生活に関わることになる。これまでに学んだ児童福祉，家庭支援等の知識と技術を基礎に，現代社会が抱える課題を認識し，就学前の子どもたちの幸せを実現する施策を模索しながら，最も新しい幼児教育者の姿を探究する。

《授業の到達目標》

〇子どもの福祉に関して，自分の考えを他者に伝えることができる。
〇児童家庭福祉研究での学びを実践の場で活用することができる。
〇理想とする幼児教育者の姿に近づくことができる。

《成績評価の方法》

プレゼンテーション（60%）
レポート（40%）

《テキスト》

資料の配布をする。

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

子どもの生活に関わる情報を入手し，授業に反映させられるようにしましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童家庭福祉の意義	児童家庭福祉を学ぶ意義，授業内容，授業の進め方，評価。
2	幼児教育への注目	「幼児教育は人生の基礎を築く」の検証。
3	子どもの権利	児童福祉法，児童憲章，児童の権利に関する条約。
4	子どもの健全育成	子どもの健やかな成長を願う保護者と保育者，社会的支援。
5	子どもの貧困	世界の中の子どもの貧困とその背景，貧困が子どもに及ぼす影響。
6	子どもと虐待	虐待の定義と現状，虐待の背景，虐待を経験した子どもの将来。
7	課題を抱える子ども	様々な課題を抱える子ども，その特性，包摂する社会で生きる障害のある人の生活。
8	子どもの家庭	子どものいる家庭・いない家庭，ひとり親家庭。
9	子育ての社会化	子育て中の家庭，ワークライフバランス，社会化の必要性と方法。
10	現代社会と子ども１	現代社会に生きる子どもの生活を把握し，課題の解決に向けての施策と方法を考察する。
11	現代社会と子ども２	現代社会に生きる子どもの生活を把握し，課題の解決に向けての施策と方法を考察する。
12	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションのテーマ，内容の組み立て方，進め方，評価。
13	プレゼンテーション１	プレゼンテーションの実施（４名）
14	プレゼンテーション２	プレゼンテーションの実施（３名）
15	まとめ	理想とする幼児教育者の姿について，児童家庭福祉研究の授業を踏まえて考察する。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉研究				
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業の概要》
福祉の構造改革によってサービスは措置制度から契約になり、またサービス実施主体の多様化によって福祉職のあり方にも大きな変化が生じている。近年、福祉・介護の人材難にあって、その確保と育成が国の大きな課題となっている。これら福祉人材の確保と育成の本質と、近年、福祉職に取り入れられつつある人的資源管理の理論と実践を修得し、福祉・介護職のあり方について考察する。

《授業の到達目標》
福祉・介護人材の現状と人材確保政策を把握し、加えて質的向上のための施策やその方法を理解する。とりわけ、人的資源管理の基本的理解にもどづいて、介護・福祉職の資格制度と職務評価の視点を修得し、保育職の職務評価を考察する。

《成績評価の方法》
各自授業中に2回以上のプレゼンテーション(20%)と期末に15000字～20000字程度のレーポート(80%)によって評価する

《テキスト》
テキストを使用しないので　適宜プリントを配布する。

《参考図書》
『福祉労働とキャリア形成』染谷俶子(編)、ミネルヴァ書房、2007
『欧米のケアワーカー』三富紀敬著、ミネルヴァ書房、2005
『日本の福祉士制度』京極高宣著、中央法規、1992
『社会福祉と専門性』杣山貴要江著、税務経理協会、2000

《授業時間外学習》
1事前学習　次回講義予定の内容に関する文献を指示してそれらを読むこと
2復習　各自が書き留めた講義内容をまとめ要点を整理する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉・介護の職業と専門職	老人福祉・障害者福祉・児童福祉およびその他の福祉領域における専門職の種類と専門性について
2	福祉・介護人材の動向	福祉・介護労働市場の現況と労働環境の現状と課題
3	福祉・介護人材の確保と育成	「福祉人材確保の基本指針」から介護職の「処遇改善交付金」までの国の人材確保政策を検証する。
4	老人福祉における福祉・介護職	介護職・相談援助職・医療職の職務とコンピテンシーを考察する。
5	障害者福祉における福祉・介護職	介護職・相談援助職・医療職・生活指導員の職務とコンピテンシーを考察する。
6	児童福祉における福祉・介護職	生活指導員・相談援助職・保育職の職務とコンピテンシーを考察する。
7	福祉・介護の資格制度	社会福祉士・介護福祉士・保育士資格制度の歩みと今日の課題。
8	人的資源管理の基本	福祉・介護の人的資源管理の視点からみた福祉・介護の専門職制度考察する。
9	福祉・介護のキャリアパス	各種団体が試みているキャリアパスを検証し、最近の福祉・介護領域におけるキャリア形成について考察する。
10	介護サービス従事者の職務評価（その１）	介護職のジョブカードを使って職務評価のあり方を検討する。
11	介護サービス従事者の職務評価（その２）	引き続き介護職の職務評価を考察する。
12	相談援助従事者の職務評価	相談援助職のジョブカードと職務評価のあり方を検討する。
13	福祉施設生活指導員の職務評価	施設生活指導員のジョブカードと職務評価のあり方を検討する。
14	保育所保育士の職務評価	他職種のジョブカードを使って、保育士のジョブカードを作成する。
15	社会福祉の新展開と人材育成の課題	多様化する福祉・介護サービスの事業主体における専門職制度と職務評価の意義と課題について考察する。

《学科教育科目》

科目名	修了研究				
担当者氏名	小林　洋司、他				
授業方法	演習	単位・必選	12・選択	開講年次・開講期	2年・通年（Ⅰ期）

《授業の概要》
本授業では、各自の研究テーマに従って、修了論文にかかわる情報収集及び執筆作業を行う。

《テキスト》
『学士への道』学位授与機構

《参考図書》
必要に応じて指示します。

《授業の到達目標》
本授業の目標は、幼稚園教諭一種免許取得のために、研究テーマにそって研究を行い、課題を達成しつつ、成果を学位授与機構に提出することである。

《授業時間外学習》
主体的に研究に取り組む準備を行っておくこと。

《成績評価の方法》
研究意欲（授業時の小レポート 20%）および成果（研究成果 80%）をもって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	目標の確認
2	修了論文の執筆	修了論文執筆および校正作業
3	修了論文の執筆	修了論文執筆および校正作業
4	修了論文の執筆	進捗状況の確認
5	修了論文の執筆	修了論文執筆および校正作業
6	修了論文の執筆	修了論文執筆および校正作業
7	修了論文の執筆	進捗状況の確認
8	修了論文の執筆	修了論文執筆および校正作業
9	修了論文の執筆	修了論文執筆および校正作業
10	修了論文の執筆	進捗状況の確認
11	修了論文の執筆	修了論文執筆のしあげ
12	修了論文の執筆	修了論文執筆のしあげ
13	修了論文の執筆	修了論文執筆のしあげ
14	修了論文の執筆	修了論文執筆のしあげ
15	学修のまとめ	論文の整理をし、学修のまとめを行う。

《学科教育科目》

科目名	修了研究				
担当者氏名	小林　洋司、他				
授業方法	演習	単位・必選	12・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)

《授業の概要》
本授業では、各自の研究テーマに従って、修了論文にかかわる情報収集及び執筆作業を行う。

《テキスト》
『学士への道』学位授与機構

《参考図書》
必要に応じて指示します。

《授業の到達目標》
本授業の目標は、幼稚園教諭一種免許取得のために、研究テーマにそって研究を行い、課題を達成しつつ、成果を学位授与機構に提出することである。

《授業時間外学習》
主体的に研究に取り組む準備を行っておくこと。

《成績評価の方法》
研究意欲（授業時の小レポート 20%）および成果（研究成果 80%）をもって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	目標の確認
2	課題別研究	指定書籍・資料を基にした議論
3	課題別研究	指定書籍・資料を基にした議論
4	課題別研究	指定書籍・資料を基にした議論
5	修了論文の編集	修了論文プレゼンテーション対策
6	修了論文の編集	修了論文プレゼンテーション対策
7	修了論文の編集	修了論文プレゼンテーション対策
8	課題別研究	指定書籍・資料を基にした議論
9	課題別研究	指定書籍・資料を基にした議論
10	課題別研究	指定書籍・資料を基にした議論
11	研究発表に向けて	修了論文を報告に向けて編集する
12	研究発表に向けて	修了論文を報告に向けて編集する
13	研究発表に向けて	修了論文を報告に向けて編集する
14	研究発表に向けて	修了論文を報告に向けて編集する
15	学修のまとめ	修了論文を報告し、各自の研究のまとめとする。